

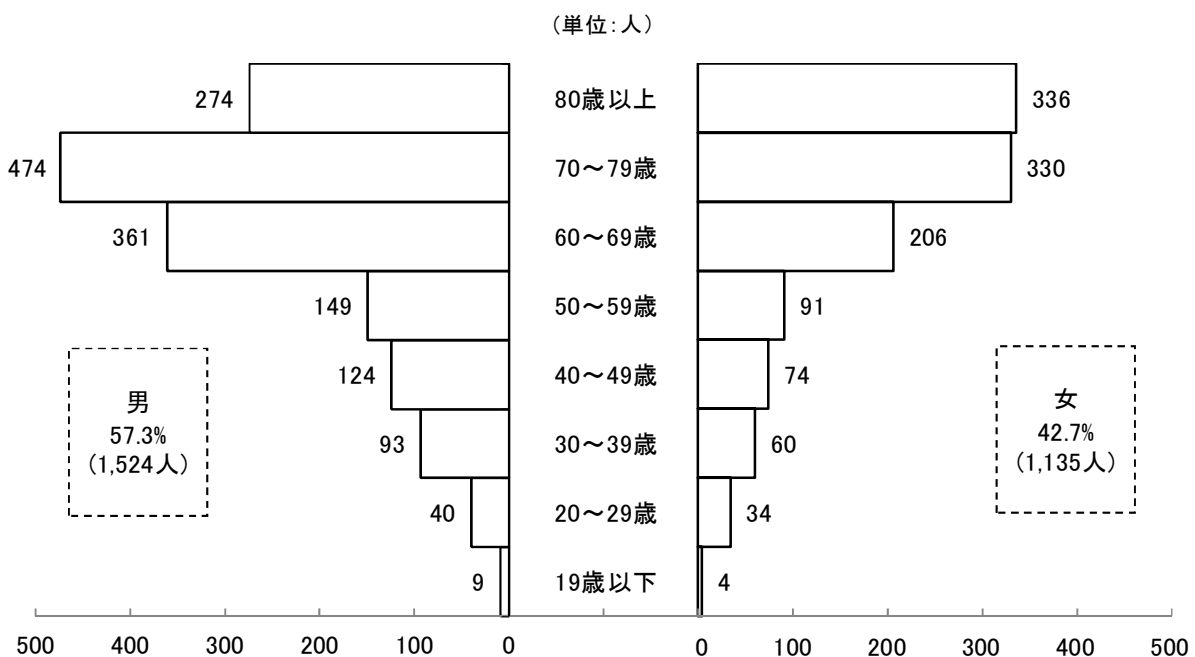
第2章 身体障害者の状況

1 基本的属性

(1) 性・年齢階級

回答者を性別にみると「男性」57.3% (1,524人)、「女性」42.7% (1,135人)である。
年齢階級は男では「70代」、女では「80歳以上」が最も多くなっている。(図Ⅱ-1-1)

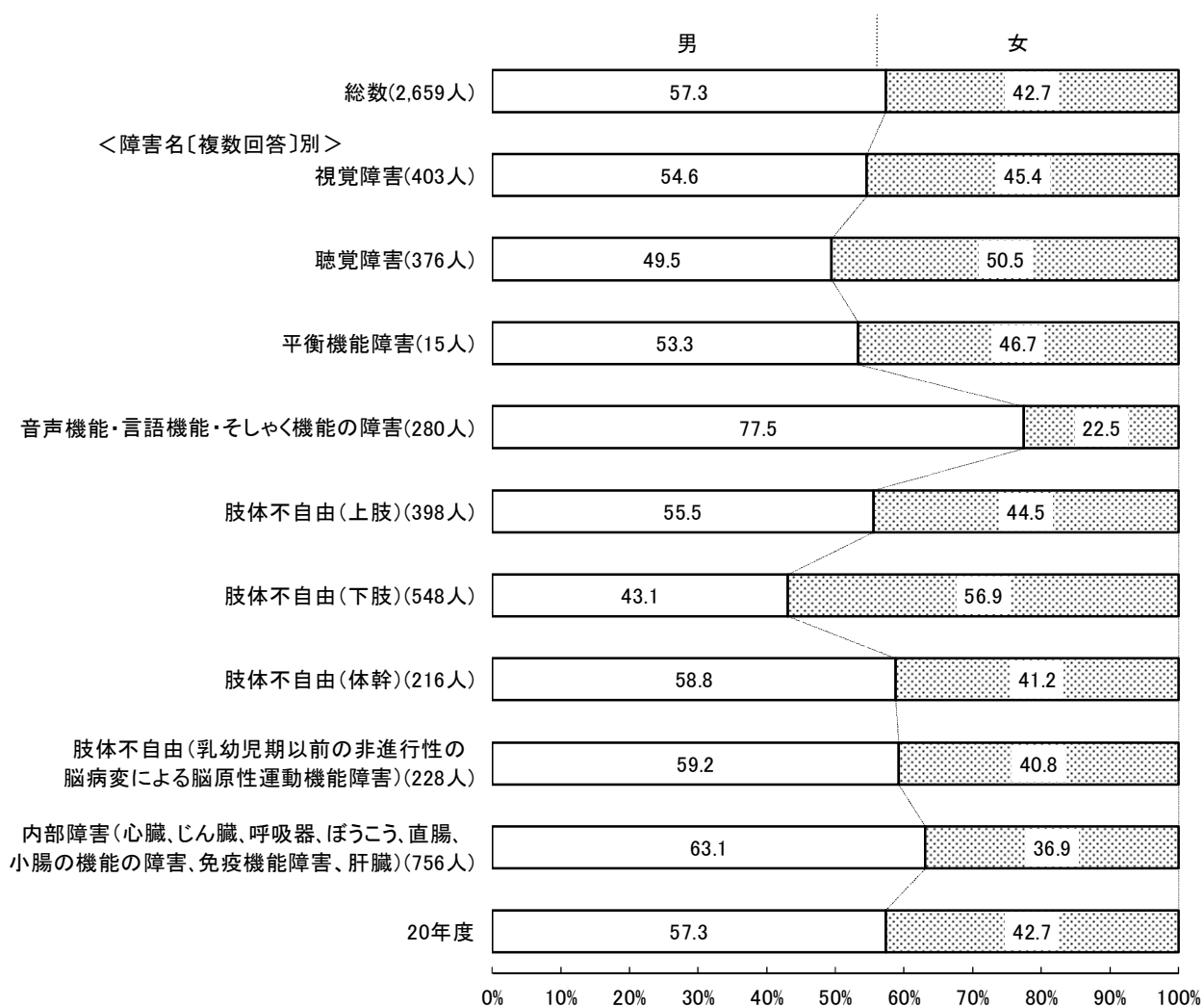
図Ⅱ-1-1 性・年齢階級



（２）性別－障害名〔複数回答〕別

性別を障害名別にみると、聴覚障害、肢体不自由（下肢）を除く全ての障害で女性よりも男性の割合が高くなっている。（図Ⅱ-1-2）

図Ⅱ-1-2 性別－障害名〔複数回答〕別



(3) 年齢階級－障害名〔複数回答〕別

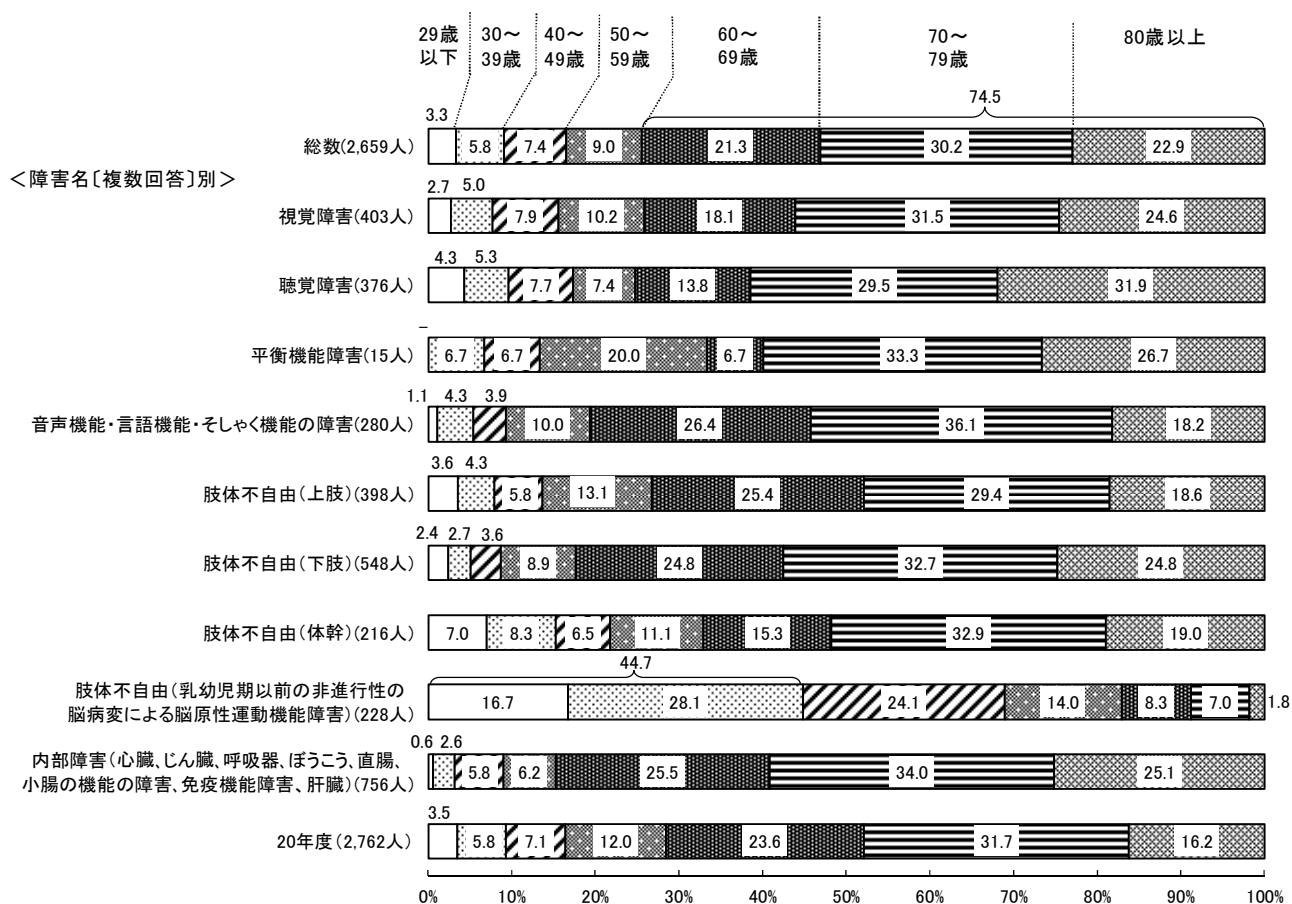
年齢階級は、「70代」の割合が最も高く 30.2%、次いで「80歳以上」22.9%、「60代」21.3%となっており、これらを合わせた 60歳以上の割合は 74.5%と 7割を超えている。

年齢階級を障害名別にみると「70代」の割合は、音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害が 36.1%と高く、「80歳以上」の割合は、聴覚障害が 31.9%と他の障害よりも高いのが目立つ。

一方、肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）の 44.7%が 39歳以下（「29歳以下 16.7%」「30～39歳 28.1%」）の若い年代となっている。

20年度調査と比べると「80歳以上」の割合が 6.7ポイント増加している。（図Ⅱ-1-3）

図Ⅱ-1-3 年齢階級－障害名〔複数回答〕別



(4) 現在の生活の場－障害名〔複数回答〕別

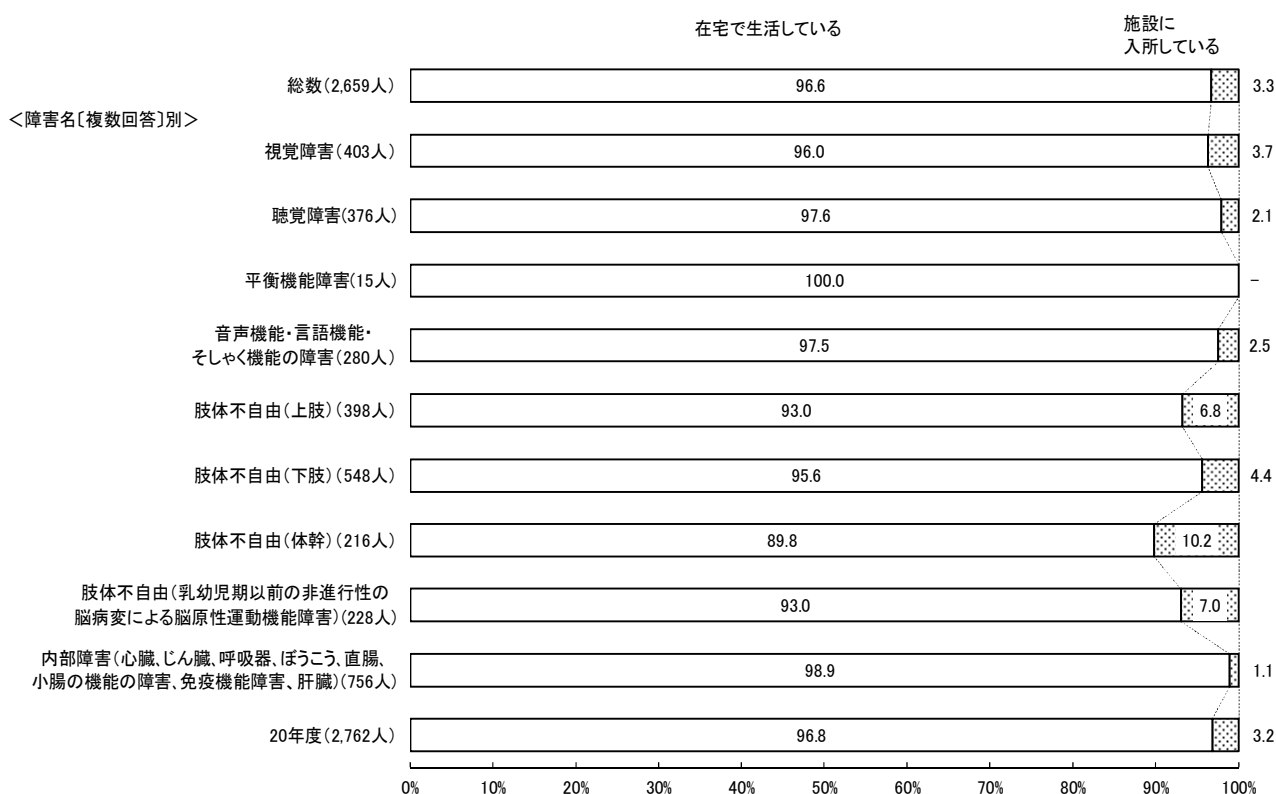
「施設に入所している」割合は肢体不自由（体幹）（10.2%）、肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）（7.0%）および肢体不自由（上肢）（6.8%）で高くなっている

現在の生活の場について、「在宅で生活している」割合は96.6%、「施設に入所している」割合は3.3%となっている。

障害名別にみると、「施設に入所している」割合は肢体不自由（体幹）が10.2%と高く、次いで肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）が7.0%、肢体不自由（上肢）が6.8%となっている。（図Ⅱ-1-4）

問 現在の生活の場はどこですか。

図Ⅱ-1-4 現在の生活の場－障害名〔複数回答〕別



※在宅で生活している（福祉ホーム、グループホームを含む）2,568人が対象

在宅者の住居の種類をみると「持家」の割合が最も高く 63.7%、「借家・賃貸住宅等」の割合が 34.6%と続く。「持家」の割合は 20 年度調査の 60.1%から 63.7%に増加し、「借家・賃貸住宅等」の割合は 37.1%から 34.6%に減少した。(表Ⅱ-1-1)

表Ⅱ-1-1 住居の種類一障害名〔複数回答〕別

(注)住居の種類については、所有、賃貸の名義が障害者本人と限定していない。そのため、家族等の名義になっている場合も含まれており、調査結果と所有者、賃貸の名義人とは必ずしも一致しない。

(6) 現在一緒に生活している人〔複数回答〕－障害名〔複数回答〕、障害者になった時期別
※在宅で生活している(福祉ホーム、グループホーム、ケアホームを含む)2,568人が対象

ねんどちょうさ 20年度調査よりも こども 「子供」と生活している せいかつ 割合が 2.1 ポイント 増加 ぞうか

現在一緒に生活している人は、「配偶者」の割合が 51.5%と最も高く、次いで「子供」の 31.7%となっている。

障害名別にみると「親」と生活している割合は、肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)が 64.6%と最も高く、「一人で暮らしている」割合が高いのは視覚障害で 28.7%となっている。障害者になった時期別にみると「配偶者」と一緒に生活している人は、60代が 64.3%と高い。

20年度調査と比べると、「子供」と一緒に生活していると答えた割合が 29.6%から 31.7%と 2.1 ポイント増加した。(表Ⅱ-1-2)

とい 問 あなたは現在、だれと げんざい いっしょ 一緒に生活していますか。 せいかつ

表Ⅱ-1-2 現在一緒に生活している人〔複数回答〕－障害名〔複数回答〕、障害者になった時期別

		総 数	親	配 偶 者	子 供	兄 弟 姉 妹	族 そ の 他 の 親	し ー て い る 暮 ら	そ の 他	無 回 答
総数		100.0 (2,568)	14.3	51.5	31.7	6.2	4.9	21.7	1.1	0.4
障害名 (複数 回答)別	視覚障害	100.0 (387)	12.4	45.5	30.7	5.2	4.4	28.7	0.8	0.5
	聴覚障害	100.0 (367)	12.0	49.3	31.6	5.2	5.7	24.0	0.8	-
	平衡機能障害	100.0 (15)	20.0	60.0	33.3	-	-	6.7	-	-
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (273)	12.5	64.1	31.9	4.8	2.2	15.4	1.5	0.4
	肢体不自由(上肢)	100.0 (370)	12.7	54.9	33.2	5.9	3.8	19.7	1.6	1.1
	肢体不自由(下肢)	100.0 (524)	8.4	54.8	36.5	4.0	5.7	19.8	1.5	0.2
	肢体不自由(体幹)	100.0 (194)	22.7	46.9	24.7	9.3	4.6	22.2	1.5	1.5
	肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (212)	64.6	9.4	7.1	25.9	4.2	18.9	0.9	0.5
	内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸の機能の障害、免疫機能障害、肝臓)	100.0 (748)	7.0	60.6	36.0	3.5	5.2	20.9	1.3	0.3
	出生前または出生時	100.0 (319)	51.1	21.0	11.9	22.6	4.4	21.6	0.3	0.3
障害者 になっ た時 期別	0～3歳	100.0 (108)	40.7	30.6	24.1	10.2	5.6	18.5	1.9	-
	4～12歳	100.0 (62)	27.4	35.5	27.4	16.1	3.2	25.8	-	-
	13～17歳	100.0 (27)	22.2	59.3	29.6	3.7	-	18.5	-	-
	18～29歳	100.0 (107)	23.4	52.3	32.7	3.7	0.9	21.5	-	0.9
	30～39歳	100.0 (123)	22.8	52.0	32.5	7.3	4.1	20.3	2.4	0.8
	40～49歳	100.0 (217)	9.2	58.5	39.2	5.5	4.1	19.4	2.3	-
	50～59歳	100.0 (401)	8.2	62.6	35.4	3.2	3.7	22.7	1.5	-
	60～69歳	100.0 (538)	1.5	64.3	33.3	2.0	4.8	20.8	0.9	0.6
	70歳以上	100.0 (522)	0.2	53.6	39.7	1.7	8.0	21.1	1.0	0.8
	(再掲)65歳以上	100.0 (781)	0.5	58.4	36.4	1.9	7.2	20.1	0.8	0.6
20年度		100.0 (2,674)	13.8	52.5	29.6	6.0	5.5	21.2	1.9	0.2

(7) 現在の主な介護者一年齢階級、障害名〔複数回答〕別

「^{かいごしや}介護者はいない」の割合が最 も 高 く 41.4%、主 な 介護者 で 最 も 多 い の は「^{おお}配偶者」の 29.9%

現在の主な介護者は誰か聞いたところ、「介護者はいない」と回答した割合が最も高く 41.4%、主な介護者の中では「配偶者」と回答した割合が最も高く 29.9%であった。

障害名別にみると、肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）では「母親」の割合が 47.6%と最も高くなっている。（表Ⅱ-1-3）

問 あなたの^{げんざい}現在の^{おも}主 な 介護者^{かいごしや}は誰^{だれ}ですか。

表Ⅱ-1-3 現在の主な介護者一年齢階級、障害名〔複数回答〕別

		総 数	父 親	母 親	配 偶 者	子 供	兄 弟 姉 妹	そ の 他 の 親 族	介 護 者 は い な い	そ の 他	無 回 答
総数		100.0 (2,568)	1.0	7.9	29.9	9.7	2.6	0.6	41.4	4.6	2.3
年 齢 階 級 別	29歳以下	100.0 (83)	6.0	59.0	1.2	-	-	2.4	24.1	2.4	4.8
	30～39歳	100.0 (146)	6.2	47.3	4.1	-	-	-	37.7	2.7	2.1
	40～49歳	100.0 (193)	3.6	28.5	9.8	2.1	2.6	-	44.6	4.7	4.1
	50～59歳	100.0 (232)	1.7	10.8	21.6	2.6	3.9	0.4	48.3	7.3	3.4
	60～69歳	100.0 (564)	-	0.7	35.6	4.1	4.1	-	48.8	4.8	2.0
	70～79歳	100.0 (777)	0.1	-	39.4	7.5	2.8	0.3	43.8	4.0	2.2
	80歳以上	100.0 (573)	-	0.2	32.1	27.4	1.6	1.7	30.5	5.1	1.4
	(再掲)総数 65歳以上	100.0 (1,664)	0.1	0.1	36.5	13.8	2.6	0.7	40.3	4.3	1.7
身 体 障 害 者 手 帳 の 障 害 名 〔 複 数 回 答 〕 別	視覚障害	100.0 (387)	1.0	6.2	29.2	10.6	1.8	0.5	40.8	7.2	2.6
	聴覚障害	100.0 (367)	0.5	5.2	22.9	13.4	2.5	1.4	48.8	2.7	2.7
	平衡機能障害	100.0 (15)	-	6.7	46.7	20.0	-	-	13.3	-	13.3
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (273)	0.7	6.2	44.0	5.1	4.8	-	33.7	3.7	1.8
	肢体不自由(上肢)	100.0 (370)	1.6	7.6	39.7	9.7	2.4	0.5	28.6	7.6	2.2
	肢体不自由(下肢)	100.0 (524)	0.6	4.8	35.5	12.6	1.1	0.4	36.5	6.1	2.5
	肢体不自由(体幹)	100.0 (194)	1.5	16.0	39.2	8.2	3.1	1.0	21.1	6.2	3.6
	肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (212)	5.7	47.6	3.8	0.5	4.7	0.9	24.5	10.4	1.9
	内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸の機能の障害、免疫機能障害、肝臓)	100.0 (748)	0.3	2.1	31.1	9.5	2.4	0.3	48.8	3.3	2.1

(8) 主な介護者の年齢・年齢階級、障害名〔複数回答〕別

おも かいごしゃ ねんれい だい
主な介護者の年齢は70代が28.3%、次いで60代が27.6%

介護者がいる人に、主な介護者の年齢を聞いたところ、70代が28.3%で最も高く、次いで60代が27.6%となっている。

障害名別にみると、介護者が70代の割合は「音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害」が40.9%と最も高く、介護者が60代の割合は「肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）」が35.3%となっている。（表Ⅱ-1-4）

とい おも かいごしゃ ねんれい なんさい へいせい ねん がつ にちげんざい
問 主な介護者の年齢は何歳ですか（平成25年10月16日現在）。

表Ⅱ-1-4 主な介護者の年齢・年齢階級、障害名〔複数回答〕別

		総 数	1 9 歳 以 下	2 0 歳 以 上	3 0 歳 以 上	4 0 歳 以 上	5 0 歳 以 上	6 0 歳 以 上	7 0 歳 以 上	8 0 歳 以 上	不 明	無 回 答	6 5 歳 以 上 (再 掲)
総数		100.0 (1,446)	0.2	0.5	2.0	8.8	13.2	<u>27.6</u>	<u>28.3</u>	11.5	4.7	3.3	54.6
年 齢 階 級 別	29歳以下	100.0 (59)	－	－	1.7	16.9	55.9	16.9	1.7	－	6.8	－	3.4
	30～39歳	100.0 (88)	－	－	3.4	3.4	13.6	59.1	11.4	2.3	4.5	2.3	39.8
	40～49歳	100.0 (99)	－	2.0	3.0	16.2	8.1	17.2	36.4	7.1	2.0	8.1	55.6
	50～59歳	100.0 (112)	1.8	2.7	0.9	6.3	31.3	15.2	9.8	17.0	10.7	4.5	30.4
	60～69歳	100.0 (278)	0.4	0.7	4.7	5.0	10.8	56.5	14.0	1.1	5.0	1.8	42.1
	70～79歳	100.0 (420)	－	－	1.4	10.7	3.8	18.3	52.6	6.9	2.6	3.6	76.0
	80歳以上	100.0 (390)	－	－	0.5	8.2	14.6	17.7	23.3	27.2	5.4	3.1	58.5
	(再掲)総数 65歳以上	100.0 (966)	－	－	1.8	8.8	8.6	24.5	35.3	14.0	3.9	3.1	65.3
身 体 障 害 者 手 帳 の 障 害 名 (複 数 回 答)別	視覚障害	100.0 (219)	－	0.9	4.1	7.3	15.5	23.7	24.2	13.7	7.3	3.2	50.7
	聴覚障害	100.0 (178)	－	0.6	1.1	13.5	10.7	25.8	25.3	14.6	3.9	4.5	53.9
	平衡機能障害	100.0 (11)	－	－	－	9.1	9.1	18.2	36.4	9.1	9.1	9.1	54.5
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (176)	－	0.6	0.6	4.5	9.1	31.8	<u>40.9</u>	8.0	1.7	2.8	68.2
	肢体不自由(上肢)	100.0 (256)	－	0.4	2.0	7.4	13.7	32.0	25.4	10.2	5.5	3.5	52.3
	肢体不自由(下肢)	100.0 (320)	－	0.6	2.2	9.1	13.4	27.8	26.6	10.9	6.3	3.1	52.5
	肢体不自由(体幹)	100.0 (146)	－	－	0.7	6.8	17.8	28.8	30.8	8.2	4.8	2.1	52.1
	肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (156)	0.6	－	－	4.5	19.9	<u>35.3</u>	19.9	5.8	7.7	6.4	43.6
	内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸の機能の障害、免疫機能障害、肝臓)	100.0 (367)	0.5	0.5	2.7	9.0	9.3	26.4	31.6	13.1	3.5	3.3	58.0

2 障害の状況

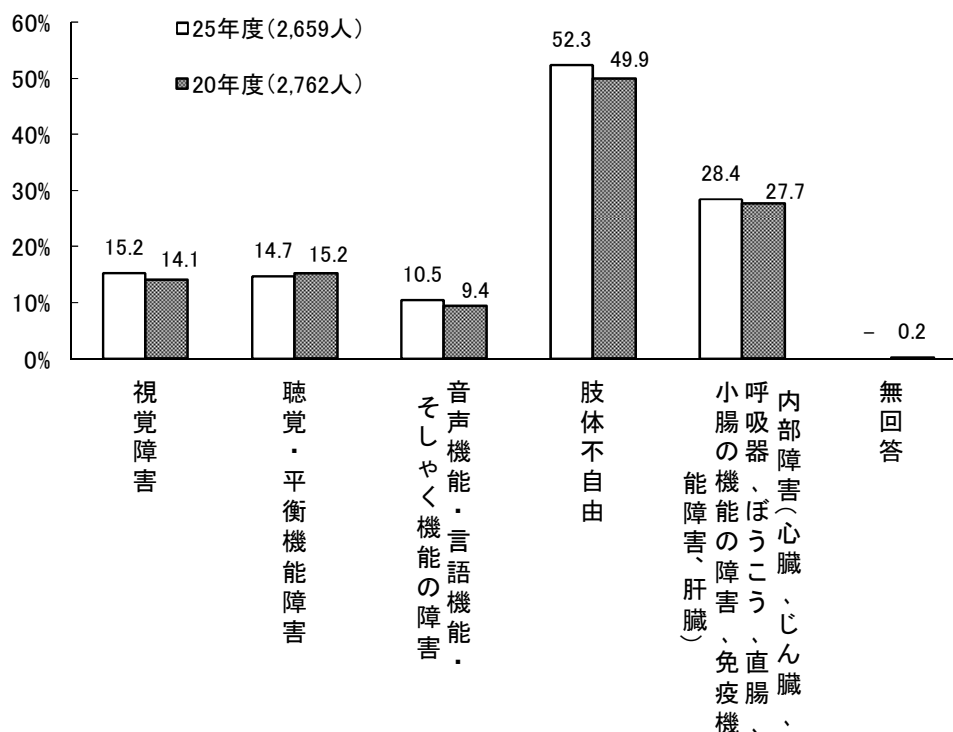
(1) 障害の種類〔複数回答〕

かいとうしゃ しょうがい しゅるい したい ふじゆう わりあい もっと たか つか ないぶしょうがい たか
回答者の障害の種類は「肢体不自由」の割合が最も高く、次いで「内部障害」が高い

身体障害者手帳の障害の種類の割合は、「肢体不自由」52.3%、「内部障害」28.4%、「視覚障害」15.2%と続く。(図Ⅱ-2-1)

と
問 あなたの身体障害者手帳に記載されている障害名は何ですか。

図Ⅱ-2-1 障害の種類〔複数回答〕



(注) 肢体不自由は「上肢」「下肢」「体幹」「乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害」を合わせた割合である。

(2) 身体障害者手帳の程度（障害名別）－身体障害者手帳の程度（総合等級）別

手帳の程度が1級の割合は「内部障害」が66.8%と最も高く、次に「肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）」が60.1%

身体障害者手帳の程度をみると、音声機能・言語機能・そしゃく機能障害の「3級」（63.9%）、肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）の「1級」（60.1%）、内部障害の「1級」（66.8%）で、それぞれ5割を超えている。（表Ⅱ-2-1）

問 手帳に記載された障害の程度（総合等級）をお答えください。

表Ⅱ-2-1 身体障害者手帳の程度（障害名別）－身体障害者手帳の程度（総合等級）別

障害名別 総合等級	a視覚障害									b聴覚障害									c平衡機能障害								
	総数	1級	2級	3級	4級	5級	6級	不明	無回答	総数	1級	2級	3級	4級		6級	不明	無回答	総数			3級	5級		不明	無回答	
総数	100.0 (403)	30.8	29.3	7.9	8.2	14.6	7.4	1.2	0.5	100.0 (376)	5.6	23.9	12.2	26.1		29.3	1.3	1.6	100.0 (15)	-	-	33.3	-	26.7	-	33.3	6.7
1級	100.0 (136)	90.4	3.7	1.5	0.7	1.5	0.7	0.7	0.7	100.0 (38)	55.3	13.2	5.3	13.2		2.6	5.3	5.3	100.0 (2)	-	-	-	-	-	-	100.0	-
2級	100.0 (113)	-	96.5	0.9	-	-	0.9	0.9	0.9	100.0 (94)	-	90.4	-	4.3		3.2	1.1	1.1	100.0 (3)	-	-	-	-	-	-	66.7	33.3
3級	100.0 (34)	-	2.9	85.3	5.9	-	5.9	-	-	100.0 (50)	-	-	88.0	2.0		4.0	4.0	2.0	100.0 (6)	-	-	83.3	-	-	-	16.7	-
4級	100.0 (35)	-	2.9	-	85.7	5.7	2.9	2.9	-	100.0 (89)	-	-	-	98.9	-	-	-	1.1	100.0 (1)	-	-	-	-	100.0	-	-	-
5級	100.0 (55)	-	-	-	-	100.0	-	-	-	100.0 (1)	-	-	-	-	-	100.0	-	-	100.0 (3)	-	-	-	100.0	-	-	-	-
6級	100.0 (26)	-	-	-	-	-	96.2	3.8	-	100.0 (104)	-	-	-	-	-	99.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	

障害名別 総合等級	d音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害									e肢体不自由(上肢)									f肢体不自由(下肢)										
	総数			3級	4級		不明	無回答		総数	1級	2級	3級	4級	5級	6級	7級	不明	無回答	総数	1級	2級	3級	4級	5級	6級	7級	不明	無回答
総数	100.0 (280)	-	-	63.9	28.2	-	-	3.9	3.9	100.0 (398)	14.1	29.1	19.8	11.8	6.0	11.1	2.5	2.8	2.8	100.0 (548)	11.3	13.7	23.9	38.1	5.1	2.0	1.1	2.2	2.6
1級	100.0 (20)	-	-	50.0	10.0	-	-	35.0	5.0	100.0 (121)	44.6	36.4	7.4	-	0.8	2.5	1.7	3.3	3.3	100.0 (120)	51.7	8.3	20.8	10.0	1.7	1.7	-	2.5	3.3
2級	100.0 (17)	-	-	47.1	23.5	-	-	11.8	17.6	100.0 (123)	0.8	57.7	28.5	2.4	-	6.5	0.8	0.8	2.4	100.0 (124)	-	51.6	4.8	37.9	-	-	0.8	1.6	3.3
3級	100.0 (170)	-	-	94.7	2.9	-	-	0.6	1.8	100.0 (61)	-	-	57.4	9.8	6.6	14.8	4.9	3.3	3.3	100.0 (117)	-	-	83.8	7.7	1.7	-	2.6	2.6	1.7
4級	100.0 (71)	-	-	-	95.8	-	-	-	4.2	100.0 (48)	-	-	-	79.2	2.1	6.3	6.3	4.2	2.1	100.0 (147)	-	-	-	95.2	0.7	-	0.7	1.4	2.0
5級	100.0 (1)	-	-	-	-	-	-	-	100.0	100.0 (22)	-	-	-	-	81.8	13.6	-	-	4.5	100.0 (25)	-	-	4.0	-	92.0	4.0	-	-	-
6級	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0 (20)	-	-	-	-	-	90.0	5.0	5.0	-	100.0 (11)	-	-	-	-	-	72.7	9.1	9.1	9.1

障害名別 総合等級	g肢体不自由(体幹)								h肢体不自由(脳原性)								i内部障害											
	総数	1級	2級	3級		5級	不明	無回答	総数	1級	2級	3級	4級	5級	6級	7級	不明	無回答	総数	1級	2級	3級	4級			不明	無回答	
総数	100.0 (216)	24.1	34.3	23.1	-	10.6	-	2.8	5.1	100.0 (228)	60.1	11.8	8.3	6.6	2.6	2.6	0.4	1.3	6.1	100.0 (756)	66.8	1.9	10.3	19.0	-	-	0.8	1.2
1級	100.0 (73)	71.2	17.8	5.5	-	1.4	-	2.7	1.4	100.0 (144)	94.4	-	-	0.7	-	-	-	1.4	3.5	100.0 (515)	98.1	-	0.4	0.2	-	-	0.6	0.8
2級	100.0 (73)	-	83.6	5.5	-	-	-	1.4	9.6	100.0 (35)	2.9	77.1	2.9	5.7	-	-	-	-	11.4	100.0 (17)	-	76.5	23.5	-	-	-	-	-
3級	100.0 (45)	-	-	93.3	-	-	-	4.4	2.2	100.0 (24)	-	-	75.0	4.2	-	4.2	-	4.2	12.5	100.0 (77)	-	-	93.5	3.9	-	-	-	2.6
4級	100.0 (2)	-	-	-	-	50.0	-	-	50.0	100.0 (12)	-	-	-	91.7	-	8.3	-	-	-	100.0 (142)	-	-	-	98.6	-	-	1.4	-
5級	100.0 (22)	-	-	-	-	95.5	-	-	4.5	100.0 (8)	-	-	-	-	75.0	-	12.5	-	12.5	100.0 (3)	-	-	-	-	-	33.3	66.7	
6級	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0 (5)	-	-	-	-	-	80.0	-	-	20.0	100.0 (1)	-	-	-	-	-	-	-	100.0

(注 1) 総合等級とは、2つ以上の障害が重複する場合に、重複する障害の合計指数に応じて認定されるもの。（1つのみ障害の場合は、その該当する等級で回答してもらっている。）

(注 2) 個別等級よりも総合等級が軽いとされているものは、誤って回答したものと思われる。

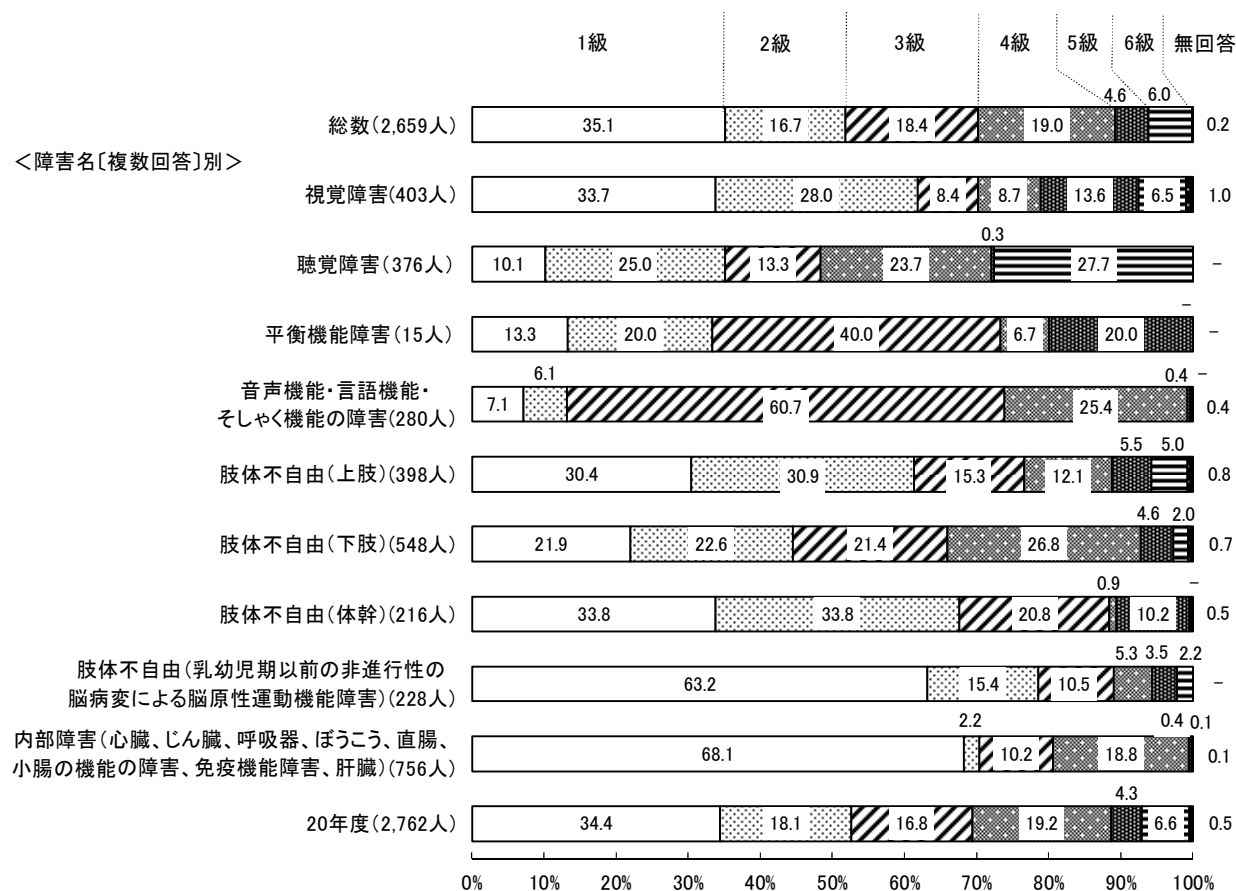
(注 3) 肢体不自由(上肢)(下肢)(脳原性)の7級については、調査票上は選択肢を設けていないが、本人が7級と回答した場合は7級として記載している。

(3) 身体障害者手帳の程度（総合等級）－障害名〔複数回答〕別

身体障害者手帳の程度（総合等級）の割合は、「1 級」が最も高く 35.1%、次いで「4 級」が 19.0%、「3 級」が 18.4%となっている。

障害名別にみると、「1 級」の割合は内部障害が 68.1%と最も高く、次いで肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）の 63.2%となっている。（図Ⅱ-2-2）

図Ⅱ-2-2 身体障害者手帳の程度（総合等級）－障害名〔複数回答〕別



(4) 障害者になった時期－障害名〔複数回答〕別

障害者になった時期は「40～64歳」の割合が 34.3%、肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）では「出生前または出生時」の割合が 69.7%

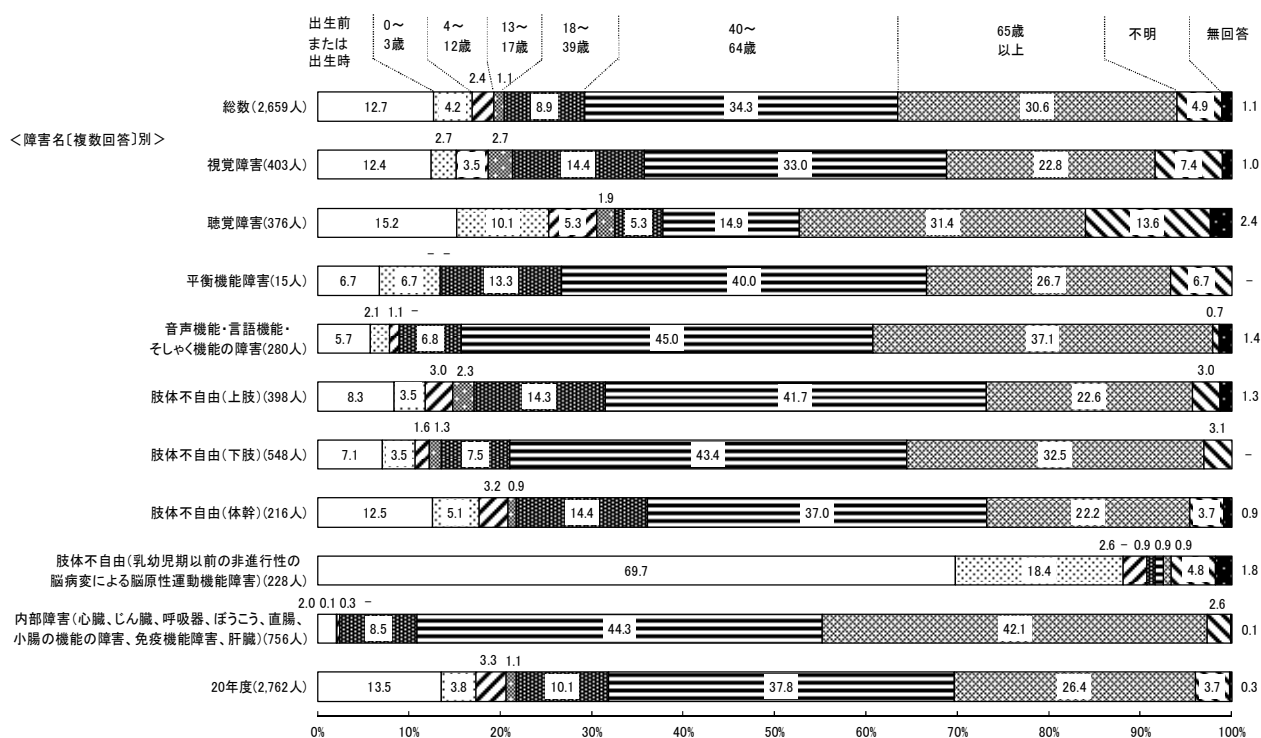
障害者になった時期について尋ねたところ、「40～64 歳」の割合が 34.3%と最も高くなっている。

障害名別でみると、肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）では「出生前または出生時」の割合が 69.7%と高い。また、内部障害では「65 歳以上」の割合が 42.1%と高くなっている。

20 年度調査と比べると、「65 歳以上」の割合が 4.2 ポイント増加した。（図Ⅱ-2-3）

問 あなたが障害者になったのはいつですか。

図Ⅱ-2-3 障害者になった時期－障害名〔複数回答〕別



(5) 障害者になった時期－年齢階級別

障害者になった時期について年齢階級別にみると、障害者になった時期が「65 歳以上」と答えた割合は、現在の年齢が 80 歳以上の人が 68.2%と高く、障害者になった時期が「出生前または出生時」と答えた割合は、現在の年齢が 29 歳以下 (64.4%) と 30 代 (45.8%) で高くなっている。(表Ⅱ-2-2)

表Ⅱ-2-2 障害者になった時期－年齢階級別

	総 数	出 生 前 ま た は 出 生 時	0 5 3 歳	4 5 1 2 歳	1 5 1 7 歳	1 5 2 9 歳	3 5 3 9 歳	4 5 4 9 歳	5 5 5 9 歳	6 5 6 9 歳	7 0 歳 以上	不 明	無 回 答	(再 掲) 6 5 歳 以上
総数	100.0 (2,659)	12.7	4.2	2.4	1.1	4.2	4.7	8.3	15.2	20.9	20.5	4.9	1.1	30.6
29歳以下	100.0 (87)	<u>64.4</u>	20.7	5.7	-	2.3	-	-	-	-	-	4.6	2.3	-
30～39歳	100.0 (153)	<u>45.8</u>	13.7	4.6	3.3	15.7	12.4	-	-	-	-	3.9	0.7	-
40～49歳	100.0 (198)	35.9	9.6	3.5	2.5	8.6	16.2	17.2	-	-	-	5.1	1.5	-
50～59歳	100.0 (240)	19.6	5.8	4.2	2.1	8.3	10.8	22.9	21.3	-	-	3.8	1.3	-
60～69歳	100.0 (567)	7.4	3.0	2.6	0.7	3.2	3.2	13.1	33.9	27.2	-	5.5	0.4	5.3
70～79歳	100.0 (804)	5.1	2.1	1.7	0.4	2.0	2.0	4.7	15.8	36.7	23.5	4.9	1.1	45.8
80歳以上	100.0 (610)	1.6	1.0	0.8	1.1	2.5	2.1	3.3	5.7	17.4	58.2	4.9	1.3	<u>68.2</u>
(再掲) 65歳以上	100.0 (1,729)	3.7	1.8	1.7	0.6	2.3	2.1	5.4	15.2	29.8	31.5	4.9	1.0	47.1

(6) 主な障害の原因－障害名〔複数回答〕別

主な障害の原因は疾患（感染症、中毒性疾患、その他の疾患）によるものが43.8%、
出生時の損傷によるものが8.6%

主な障害の原因は、疾患（「感染症」「中毒性疾患」「その他の疾患」の合計）によるものの割合が43.8%と高く、出生時の損傷によるものは8.6%となっている。

障害名別にみると疾患（「感染症」「中毒性疾患」「その他の疾患」の合計）の割合は音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害で高く69.6%、出生時の損傷の割合は肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）で49.1%と、総数（8.6%）の割合と比べて大幅に高くなっている。（表Ⅱ-2-3）

問 主な障害についてお聞きします。その障害の原因は何ですか。

表Ⅱ-2-3 主な障害の原因－障害名〔複数回答〕別

	総数	交通事故	労働災害	戦傷病・戦災等	その他の事故	感染症	中毒性疾患	その他の疾患	薬害	出生時の損傷	加齢	その他	不明	無回答
総数	100.0 (2,659)	2.3	1.9	0.4	2.3	2.5	0.2	41.2	1.4	8.6	7.6	8.6	21.3	1.7
						43.8								
視覚障害	100.0 (403)	1.7	1.0	0.5	2.0	1.0	-	36.0	1.0	6.2	6.0	13.6	29.3	1.7
聴覚障害	100.0 (376)	1.1	1.9	0.8	0.8	2.1	-	20.5	4.8	7.2	16.8	9.3	31.9	2.9
平衡機能障害	100.0 (15)	6.7	-	-	-	-	-	40.0	-	-	13.3	13.3	26.7	-
音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (280)	1.8	0.4	0.4	1.1	1.4	0.7	67.5	0.7	3.6	2.1	6.4	12.5	1.4
						69.6								
肢体不自由(上肢)	100.0 (398)	5.8	5.3	0.8	5.0	1.5	-	52.0	1.3	4.5	2.5	3.8	15.8	1.8
肢体不自由(下肢)	100.0 (548)	4.0	2.9	0.2	4.9	2.9	-	45.4	1.1	6.0	11.7	6.4	12.8	1.6
肢体不自由(体幹)	100.0 (216)	5.1	1.4	-	6.5	4.2	-	43.5	1.4	8.3	3.7	4.2	20.4	1.4
肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (228)	0.4	-	-	0.4	1.8	0.4	10.5	1.3	49.1	-	9.6	23.7	2.6
内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸の機能の障害、免疫機能障害、肝臓)	100.0 (756)	0.4	0.7	0.4	-	3.4	0.1	54.4	0.9	1.7	7.3	8.1	20.9	1.7
20年度	100.0 (2,762)	3.0	2.1	0.5	3.0	2.5	0.0	43.9	1.3	8.0	4.8	11.4	18.5	0.8

(7) 障害の疾病名〔複数回答〕－障害名〔複数回答〕別

障害の疾病名は、1位「^{しょうがい}心臓疾患^{しっぺいめい}」(13.8%)、2位「^い脳血管障害^{のうけっかんしょうがい}」(10.5%)
3位「^い脳性まひ^{のうせい}」(9.3%)、4位「^いじん臓疾患^{ぞうしっかん}」(8.4%)

障害の疾病名の割合は「心臓疾患」(13.8%)が最も高く、次いで「脳血管障害」(10.5%)「脳性まひ」(9.3%)「じん臓疾患」(8.4%)と続く。

障害名別にみると、視覚障害では「網脈絡膜・視神経性疾患」の割合が44.4%と高く、肢体不自由(下肢)では「骨関節疾患」(31.4%)の割合が高い。また、肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)では「脳性まひ」(91.2%)の割合が高く、内部障害では「心臓疾患」が46.4%と高い割合となっている。(表Ⅱ-2-4)

問 あなたの^{しょうがい}障害の疾病名は何ですか。^{なん}

表Ⅱ-2-4 障害の疾病名〔複数回答〕－障害名〔複数回答〕別

	総 数	脳 性 ま ひ	脊 髄 性 小 児 ま ひ	(脊 髄 損 傷 Ⅰ 対 ま ひ)	(脊 髄 損 傷 Ⅱ 四 肢 ま ひ)	疾 患 進 行 性 筋 萎 縮 性	脳 血 管 障 害	脳 挫 傷	疾 患 そ の 他 の 脳 神 経	骨 関 節 疾 患	リ ウ マ チ 性 疾 患	中 耳 性 疾 患	内 耳 性 疾 患
総数	100.0 (2,659)	9.3	0.6	0.8	1.2	0.5	10.5	0.4	3.2	7.6	2.0	3.2	5.0
視覚障害	100.0 (403)	2.2	-	-	-	-	3.5	0.5	1.5	1.0	-	-	0.7
聴覚障害	100.0 (376)	1.6	-	0.3	-	-	2.1	0.3	1.6	2.1	0.3	21.3	34.3
平衡機能障害	100.0 (15)	6.7	-	-	-	-	53.3	6.7	13.3	-	-	6.7	13.3
音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (280)	4.3	-	-	0.4	0.4	25.7	1.4	5.7	1.1	-	-	0.4
肢体不自由(上肢)	100.0 (398)	7.0	0.3	1.0	3.0	1.8	39.2	0.5	7.3	6.3	10.8	0.5	0.3
肢体不自由(下肢)	100.0 (548)	2.2	2.2	2.6	2.7	1.1	25.9	0.5	5.1	31.4	6.4	0.9	0.5
肢体不自由(体幹)	100.0 (216)	11.1	0.9	3.7	8.8	2.8	28.7	0.9	15.7	6.5	0.9	0.5	0.9
肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (228)	91.2	1.8	-	0.4	-	3.5	-	3.1	1.3	-	0.4	-
内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸の機能の障害、免疫機能障害、肝臓)	100.0 (756)	0.8	-	-	0.3	0.3	3.4	0.3	0.7	1.9	0.8	0.4	0.3
20年度	100.0 (2,762)	9.2	0.9	1.0	2.0	0.5	12.4	0.5	3.2	6.6	2.2	3.9	7.0

(次ページへ続く)

表Ⅱ-2-4 障害の疾病名〔複数回答〕－障害名〔複数回答〕別（続）

	角膜疾患	水晶体疾患	網膜・視神経疾患	じん臓疾患	心臓疾患	呼吸器疾患	ぼうこう疾患	大腸疾患	小腸疾患	症候群・先天性免疫不全	その他	不明	無回答
総数	2.0	1.8	7.0	8.4	13.8	2.7	1.3	3.7	0.2	0.6	16.1	7.4	2.3
視覚障害	12.7	10.9	44.4	3.0	1.0	-	-	0.7	-	0.2	16.1	13.2	3.0
聴覚障害	0.5	0.8	1.9	0.3	1.3	0.8	0.5	1.1	0.3	0.3	14.6	24.5	4.5
平衡機能障害	6.7	6.7	-	6.7	-	-	-	-	-	-	6.7	6.7	6.7
音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	-	-	-	0.4	1.4	8.2	0.4	-	-	-	46.8	5.4	3.9
肢体不自由（上肢）	0.3	0.5	0.8	1.3	3.0	1.5	0.8	0.8	0.3	-	20.1	5.3	3.3
肢体不自由（下肢）	0.4	0.4	1.5	1.5	3.1	1.1	0.7	0.9	-	-	19.0	3.8	2.4
肢体不自由（体幹）	0.5	0.5	1.4	0.9	3.2	5.1	1.9	0.5	-	-	16.2	5.6	2.3
肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）	-	-	0.4	-	-	-	-	-	-	-	2.2	2.6	0.4
内部障害（心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸の機能の障害、免疫機能障害、肝臓）	-	0.3	1.3	29.1	46.4	5.2	3.4	12.2	0.7	1.9	3.6	0.9	0.7
20年度	2.1	2.3	7.3	8.4	14.8	3.1	1.4	2.8	0.4	0.3	14.3	6.5	1.4

(8) 身体障害者手帳以外の手帳所持の有無〔複数回答〕－障害名〔複数回答〕別

身体障害者手帳以外の手帳を持っている割合は7.1%

身体障害者手帳以外の手帳所持の有無の割合は、「手帳あり」が7.1%、「手帳なし」が88.9%となっている。

障害名別でみると、肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）の割合は、「手帳あり」が34.6%で最も高く、次いで肢体不自由（体幹）が14.4%、平衡機能障害が13.3%と続く。（表Ⅱ-2-5）

あなたは身体障害者手帳以外の手帳をお持ちですか。

表Ⅱ-2-5 身体障害者手帳以外の手帳所持の有無〔複数回答〕－障害名〔複数回答〕別

	総 数	手 帳 あ り	愛 の 手 帳	保 健 福 祉 手 帳	精 神 障 害 者 手 帳	戦 傷 病 者 手 帳	そ の 他	手 帳 な し	無 回 答
総数	100.0 (2,659)	7.1	5.6	1.1	0.0	0.5	88.9	4.0	
視覚障害	100.0 (403)	3.5	2.7	1.0	－	－	92.3	4.2	
聴覚障害	100.0 (376)	5.6	4.3	0.5	－	0.8	88.3	6.1	
平衡機能障害	100.0 (15)	13.3	13.3	－	－	－	80.0	6.7	
音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (280)	4.3	2.5	1.8	－	－	91.1	4.6	
肢体不自由（上肢）	100.0 (398)	9.8	7.0	1.3	－	1.5	85.9	4.3	
肢体不自由（下肢）	100.0 (548)	5.8	4.0	1.1	－	0.7	90.3	3.8	
肢体不自由（体幹）	100.0 (216)	14.4	12.5	1.4	－	0.5	81.0	4.6	
肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）	100.0 (228)	34.6	33.8	0.9	－	－	61.4	3.9	
内部障害（心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸の機能の障害、免疫機能障害、肝臓）	100.0 (756)	2.8	1.2	0.9	0.1	0.5	94.2	3.0	
20年度	100.0 (2,762)	6.6	5.7	0.5	0.1	0.3	89.9	3.5	

3 健康・医療

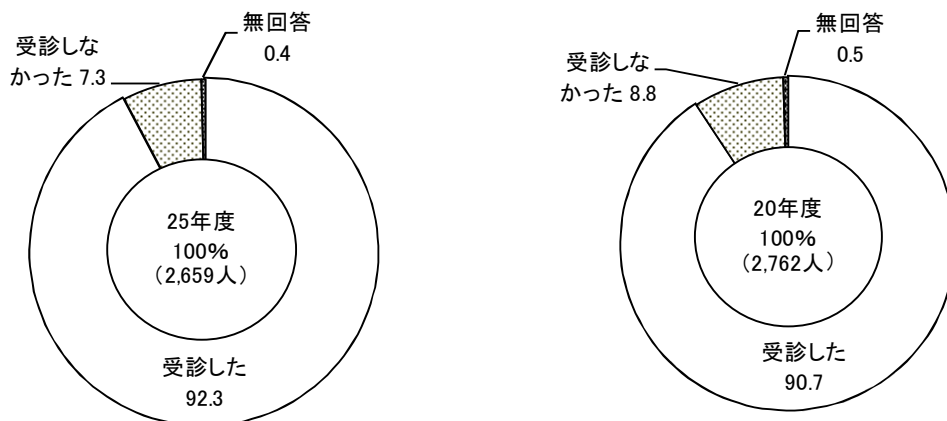
(1) 過去1年間の受診の有無

か こ ねんかん じゅしん わりあい
過去1年間に「受診した」割合は 92.3%

過去1年間に受診（障害に起因する場合に限らず、すべての病気・ケガ等を含む。）したことがあるか聞いたところ、「受診した」の割合が 92.3%であった。（図Ⅱ-3-1）

とい 問 か こ ねんかん じゅしん
あなたは過去1年間に受診したことがありますか。

図Ⅱ-3-1 過去1年間の受診の有無



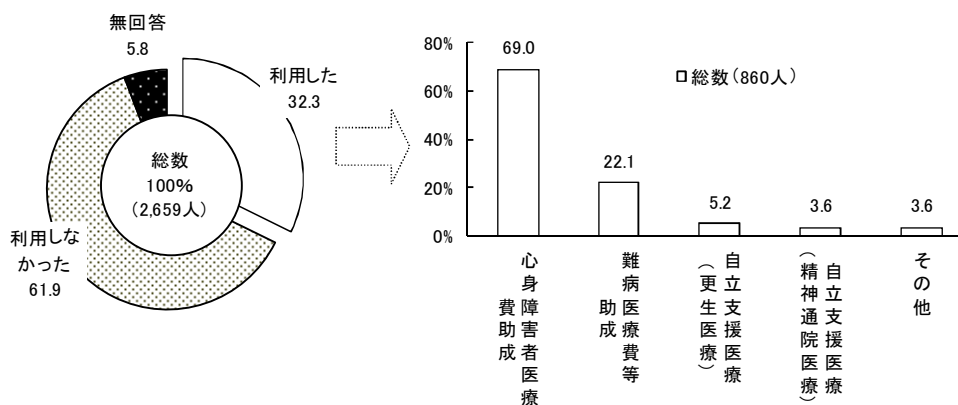
(2) 過去1年間の医療費助成等の利用の有無

か こ ねんかん いりょうひじょせいとう りょう わりあい
過去1年間に医療費助成等を「利用した」割合は 32.3%

過去1年間の医療費助成等の利用の有無の割合は「利用した」が 32.3%、「利用しなかった」が 61.9%であった。「利用した」人（860人）の内、最も割合が高いのは「心身障害者医療費助成」（69.0%）、次いで「難病医療費等助成」（22.1%）となっている。（図Ⅱ-3-2）

とい 問 か こ ねんかん いりょうひじょせいとう りょう
あなたは過去1年間に医療費助成等を利用しましたか。

図Ⅱ-3-2 過去1年間の医療費助成等の利用の有無



(3) 過去1年間の医療費助成等の利用の有無－年齢階級別

過去1年間の医療費助成等の利用の有無について、年齢階級別にみると「利用した」人は、年齢が高くなるにつれて、割合が減少している。難病医療費等助成を利用した人は40代（10.6％）と60代（10.4％）で総数（7.1％）より高い。（表Ⅱ-3-1）

表Ⅱ-3-1 過去1年間の医療費助成等の利用の有無－年齢階級別

	総 数	利 用 し た	費 心 助 身 成 障 害 者 医 療	（ 自 更 立 生 支 医 援 療 医 療 ）	療（ 自 精 立 神 支 通 通 院 院 医 医 療 療	成 難 病 病 医 医 療 療 費 費 等 等 助 助	そ の 他	利 用 し な か っ た	無 回 答
総数	100.0 (2,659)	32.3	22.3	1.7	1.2	<u>7.1</u>	1.2	61.9	5.8
29歳以下	100.0 (87)	<u>65.5</u>	55.2	2.3	6.9	1.1	1.1	28.7	5.7
30～39歳	100.0 (153)	<u>58.8</u>	50.3	3.3	2.0	2.6	1.3	39.2	2.0
40～49歳	100.0 (198)	<u>51.0</u>	32.8	7.1	2.5	<u>10.6</u>	1.5	45.5	3.5
50～59歳	100.0 (240)	<u>41.3</u>	27.9	2.1	3.3	9.2	1.3	55.4	3.3
60～69歳	100.0 (567)	<u>37.4</u>	24.7	1.8	0.9	<u>10.4</u>	1.1	58.0	4.6
70～79歳	100.0 (804)	<u>25.7</u>	16.8	0.9	0.4	7.0	1.5	67.4	6.8
80歳以上	100.0 (610)	<u>15.4</u>	10.0	0.3	0.2	4.4	0.7	76.4	8.2
（再掲）65歳以上	100.0 (1,729)	23.7	15.3	0.7	0.4	6.8	1.2	69.3	7.0
20年度	100.0 (2,762)	32.4	23.1	2.3	0.8	5.6	2.3	62.3	5.2

4 日常生活の状況

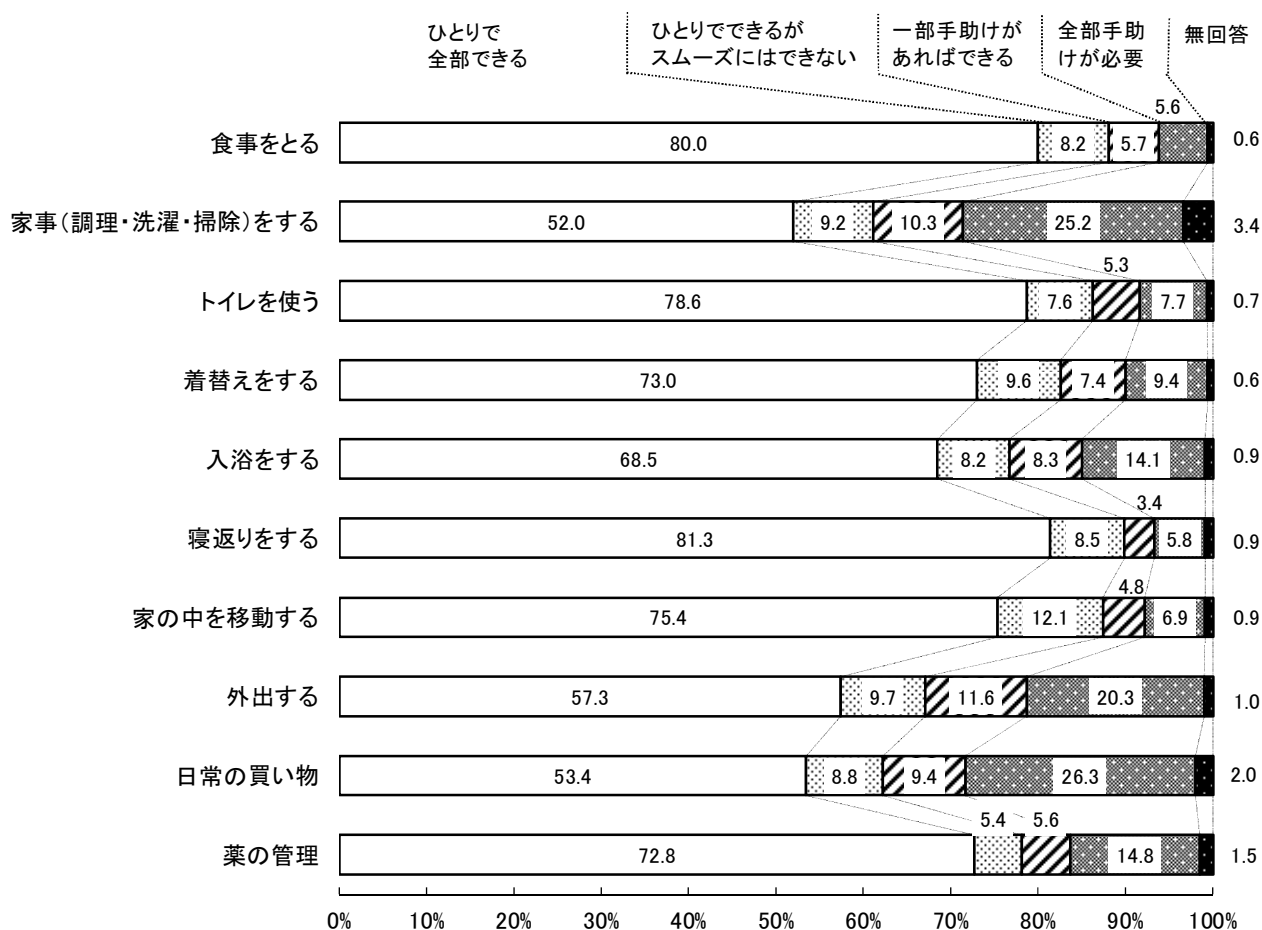
(1) 日常生活動作能力

日常生活動作能力で「ひとりで全部できる」割合が低いのは、家事（調理・洗濯・掃除）の52.0%、及び日常の買い物で53.4%

10 項目の日常生活動作能力のうち、「ひとりで全部できる」と答えた割合が最も高いのは、寝返りをする（81.3%）である。一方、割合が低いのは、家事（調理・洗濯・掃除）の52.0%と、日常の買い物の53.4%となっている。（図Ⅱ-4-1）

問 あなたは次の動作について、自分ひとりでできますか。

図Ⅱ-4-1 日常生活動作能力



(注1) できる、できないの判断について、現に補装具等を使用している人は、使用した状態で聞いている。

(注2) 総数は10項目とも2,659人である。

(2) 日常生活動作能力 (a 食事をとる b 家事 (調理・洗濯・掃除) をする c トイレを使う)
 ー 障害者になった時期、身体障害者手帳の程度 (総合等級) 別

日常生活動作能力 (a 食事をとる b 家事 (調理・洗濯・掃除) をする c トイレを使う) の「b 家事 (調理・洗濯・掃除) をする」を障害者になった時期別にみると、「ひとりで全部できる」は 30 代が最も高く 59.7%、一方で「全部手助けが必要」は出生前または出生時が最も高く 37.4% となっている。(表Ⅱ-4-1)

表Ⅱ-4-1 日常生活動作能力 (a 食事をとる b 家事 (調理・洗濯・掃除) をする c トイレを使う) ー 障害者になった時期、身体障害者手帳の程度 (総合等級) 別

		a 食事をとる						b 家事(調理・洗濯・掃除)をする						c トイレを使う						
		総 数	き と り で 全 部 で	で き な い	ひ と り で で き る	れ 一 部 で 手 助 け が あ	要 全 部 手 助 け が 必 要	無 回 答	総 数	き と り で 全 部 で	で き な い	ひ と り で で き る	れ 一 部 で 手 助 け が あ	要 全 部 手 助 け が 必 要	無 回 答	総 数	き と り で 全 部 で	で き な い	ひ と り で で き る	れ 一 部 で 手 助 け が あ
総数		100.0 (2,659)	80.0	8.2	5.7	5.6	0.6	100.0 (2,659)	52.0	9.2	10.3	25.2	3.4	100.0 (2,659)	78.6	7.6	5.3	7.7	0.7	
障 害 者 に な っ た 時 期 別	出生前または出生時	100.0 (337)	67.4	7.1	10.1	15.1	0.3	100.0 (337)	43.6	7.1	9.5	37.4	2.4	100.0 (337)	63.8	5.3	8.3	22.3	0.3	
	0～3歳	100.0 (112)	73.2	8.0	7.1	10.7	0.9	100.0 (112)	49.1	8.0	10.7	28.6	3.6	100.0 (112)	70.5	7.1	7.1	13.4	1.8	
	4～12歳	100.0 (63)	81.0	7.9	3.2	4.8	3.2	100.0 (63)	57.1	14.3	3.2	19.0	6.3	100.0 (63)	81.0	3.2	6.3	6.3	3.2	
	13～17歳	100.0 (29)	86.2	6.9	3.4	-	3.4	100.0 (29)	37.9	17.2	10.3	27.6	6.9	100.0 (29)	79.3	6.9	10.3	-	3.4	
	18～29歳	100.0 (112)	82.1	9.8	3.6	3.6	0.9	100.0 (112)	58.9	13.4	11.6	13.4	2.7	100.0 (112)	83.0	8.0	3.6	3.6	1.8	
	30～39歳	100.0 (124)	83.1	7.3	4.8	4.8	-	100.0 (124)	59.7	9.7	10.5	18.5	1.6	100.0 (124)	81.5	11.3	3.2	4.0	-	
	40～49歳	100.0 (221)	80.1	9.0	7.2	3.2	0.5	100.0 (221)	53.8	10.9	15.8	17.6	1.8	100.0 (221)	80.5	8.1	7.2	3.6	0.5	
	50～59歳	100.0 (405)	84.7	9.6	3.0	2.5	0.2	100.0 (405)	54.3	8.1	11.1	23.0	3.5	100.0 (405)	82.0	10.9	4.2	2.7	0.2	
	60～69歳	100.0 (555)	84.7	7.7	4.0	3.6	-	100.0 (555)	55.1	10.5	9.5	22.2	2.7	100.0 (555)	84.0	6.1	4.7	5.0	0.2	
	70歳以上	100.0 (544)	81.1	8.1	5.9	4.4	0.6	100.0 (544)	47.1	8.5	10.3	29.2	5.0	100.0 (544)	80.0	7.9	4.0	7.4	0.7	
(再掲)65歳以上		100.0 (814)	80.8	8.5	5.7	4.7	0.4	100.0 (814)	47.7	9.5	9.6	28.4	4.9	100.0 (814)	79.7	7.2	5.2	7.4	0.5	
身 体 障 害 者 手 帳 の 程 度 (総 合 等 級) 別	1級	100.0 (933)	70.8	8.9	8.7	11.3	0.3	100.0 (933)	42.8	8.5	9.8	35.2	3.9	100.0 (933)	68.1	7.5	8.3	15.6	0.5	
	2級	100.0 (445)	72.4	13.9	7.4	5.4	0.9	100.0 (445)	38.9	10.1	15.5	31.7	3.8	100.0 (445)	73.5	13.0	5.2	7.2	1.1	
	3級	100.0 (490)	85.3	8.4	3.3	2.2	0.8	100.0 (490)	56.9	10.8	9.2	19.4	3.7	100.0 (490)	83.7	7.3	4.9	3.3	0.8	
	4級	100.0 (504)	91.9	4.0	2.8	1.0	0.4	100.0 (504)	66.7	6.9	11.3	12.5	2.6	100.0 (504)	91.5	4.6	2.2	1.2	0.6	
	5級	100.0 (123)	89.4	5.7	2.4	1.6	0.8	100.0 (123)	65.9	12.2	4.9	14.6	2.4	100.0 (123)	89.4	7.3	-	2.4	0.8	
	6級	100.0 (159)	93.1	2.5	3.1	0.6	0.6	100.0 (159)	71.7	9.4	3.8	13.2	1.9	100.0 (159)	91.8	3.8	2.5	1.3	0.6	

(3) 日常生活動作能力 (a 食事をとる b 家事 (調理・洗濯・掃除) をする c トイレを使う) — 障害名〔複数回答〕、現在一緒に生活している人〔複数回答〕別

日常生活動作能力 (a 食事をとる b 家事 (調理・洗濯・掃除) をする c トイレを使う) を障害名別にみると、肢体不自由 (体幹) では a、b、c いずれも「ひとりで全部できる」の割合が、総数と比べて大幅に低くなっている。

現在一緒に生活している人別にみると、「全部手助けが必要」の割合は、「a 食事をとる」「b 家事 (調理・洗濯・掃除)」「c トイレを使う」のいずれも、兄弟姉妹と一緒に生活している人の割合が比較的高い。(表Ⅱ-4-2)

表Ⅱ-4-2 日常生活動作能力 (a 食事をとる b 家事 (調理・洗濯・掃除) をする c トイレを使う) — 障害名〔複数回答〕、現在一緒に生活している人〔複数回答〕別

		a 食事をとる						b 家事（調理・洗濯・掃除）をする						c トイレを使う						
		総 数	ひと りで 全部 できる	ム ー ズ に は で き な い	ひと りで で き る	一 部 手 助 け が あ れ ば で き る	全 部 手 助 け が 必 要	無 回 答	総 数	ひと りで 全部 できる	ム ー ズ に は で き な い	ひと りで で き る	一 部 手 助 け が あ れ ば で き る	全 部 手 助 け が 必 要	無 回 答	総 数	ひと りで 全部 できる	ム ー ズ に は で き な い	ひと りで で き る	一 部 手 助 け が あ れ ば で き る
総数		100.0 (2,659)	<u>80.0</u>	8.2	5.7	5.6	0.6	100.0 (2,659)	<u>52.0</u>	9.2	10.3	25.2	3.4	100.0 (2,659)	<u>78.6</u>	7.6	5.3	7.7	0.7	
身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕別	視覚障害	100.0 (403)	76.7	10.2	7.4	5.0	0.7	100.0 (403)	47.9	9.9	14.6	25.1	2.5	100.0 (403)	82.1	8.9	4.2	4.0	0.7	
	聴覚障害	100.0 (376)	88.6	5.1	2.7	2.4	1.3	100.0 (376)	69.1	6.6	8.2	13.6	2.4	100.0 (376)	88.3	4.5	3.2	2.7	1.3	
	平衡機能障害	100.0 (15)	66.7	20.0	6.7	6.7	-	100.0 (15)	13.3	13.3	26.7	40.0	6.7	100.0 (15)	66.7	13.3	13.3	6.7	-	
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (280)	81.4	8.6	5.4	4.3	0.4	100.0 (280)	55.7	8.2	8.2	22.9	5.0	100.0 (280)	85.4	4.3	5.0	5.0	0.4	
	肢体不自由（上肢）	100.0 (398)	58.5	19.3	10.6	11.3	0.3	100.0 (398)	23.9	11.3	15.1	46.5	3.3	100.0 (398)	57.5	14.8	10.3	16.6	0.8	
	肢体不自由（下肢）	100.0 (548)	75.0	11.9	6.4	6.6	0.2	100.0 (548)	38.0	9.5	15.1	35.2	2.2	100.0 (548)	69.7	13.3	7.1	9.5	0.4	
	肢体不自由（体幹）	100.0 (216)	<u>46.8</u>	16.2	13.0	21.8	2.3	100.0 (216)	<u>12.0</u>	9.3	12.0	60.6	6.0	100.0 (216)	<u>35.2</u>	19.4	13.9	28.7	2.8	
	肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）	100.0 (228)	50.4	11.0	15.4	22.4	0.9	100.0 (228)	24.6	7.9	8.8	54.4	4.4	100.0 (228)	44.3	7.9	13.6	32.9	1.3	
	内部障害（心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸の機能の障害、免疫機能障害、肝臓）	100.0 (756)	91.4	4.1	2.8	1.6	0.1	100.0 (756)	65.5	9.1	7.1	14.7	3.6	100.0 (756)	90.3	4.1	2.9	2.4	0.3	
現在一緒に生活している人〔複数回答〕別	親	100.0 (367)	67.6	8.2	9.5	13.9	0.8	100.0 (367)	41.7	7.9	9.0	37.1	4.4	100.0 (367)	66.8	5.7	8.2	18.3	1.1	
	配偶者	100.0 (1,323)	84.2	8.2	4.7	2.5	0.5	100.0 (1,323)	55.3	9.8	10.0	20.6	4.3	100.0 (1,323)	84.1	7.0	4.8	3.3	0.7	
	子供	100.0 (813)	82.7	8.1	5.5	3.2	0.5	100.0 (813)	53.3	8.9	10.0	24.0	3.9	100.0 (813)	81.5	7.9	5.4	4.7	0.5	
	兄弟姉妹	100.0 (160)	68.8	6.3	8.1	<u>16.3</u>	0.6	100.0 (160)	37.5	7.5	12.5	<u>41.9</u>	0.6	100.0 (160)	64.4	7.5	6.9	<u>20.6</u>	0.6	
	その他の親族	100.0 (127)	76.4	10.2	7.9	5.5	-	100.0 (127)	40.2	8.7	13.4	33.9	3.9	100.0 (127)	74.8	6.3	6.3	12.6	-	
	一人で暮らしている	100.0 (557)	87.1	7.2	2.2	3.2	0.4	100.0 (557)	64.3	11.5	10.1	13.5	0.7	100.0 (557)	86.9	8.1	1.4	3.2	0.4	
	その他	100.0 (29)	79.3	6.9	10.3	3.4	-	100.0 (29)	51.7	10.3	17.2	20.7	-	100.0 (29)	72.4	10.3	6.9	10.3	-	

(注)「現在一緒に生活している人」は在宅者を対象とした設問のため、総数は 2,568 人である。

(4) 日常生活動作能力 (d 着替えをする e 入浴をする f 寝返りをする)

－障害者になった時期、身体障害者手帳の程度(総合等級)別

日常生活動作能力 (d 着替えをする e 入浴をする f 寝返りをする) の「e 入浴をする」を障害者になった時期別にみると、「ひとりで全部できる」は 18～29 歳が最も高く 76.8%、次いで 30 代が 76.6%、4～12 歳が 76.2%と続いている。一方で、「全部手助けが必要」は出生前または出生時が最も高く 27.9%となっている。(表Ⅱ-4-3)

表Ⅱ-4-3 日常生活動作能力 (d 着替えをする e 入浴をする f 寝返りをする)

－障害者になった時期、身体障害者手帳の程度(総合等級)別

		d 着替えをする						e 入浴をする						f 寝返りをする									
		総 数	き と り で 全 部 で	ど の 一 人 で 全 部 で	ど の 一 人 で 全 部 で	一 部 手 助 け が あ る	要 全 部 手 助 け が 必 ず	無 回 答	総 数	き と り で 全 部 で	ど の 一 人 で 全 部 で	ど の 一 人 で 全 部 で	一 部 手 助 け が あ る	要 全 部 手 助 け が 必 ず	無 回 答	総 数	き と り で 全 部 で	ど の 一 人 で 全 部 で	ど の 一 人 で 全 部 で	一 部 手 助 け が あ る	要 全 部 手 助 け が 必 ず	無 回 答	
総数		100.0 (2,659)	73.0	9.6	7.4	9.4	0.6	100.0 (2,659)	68.5	8.2	8.3	14.1	0.9	100.0 (2,659)	81.3	8.5	3.4	5.8	0.9				
障害者 になっ た時 期別	出生前または出生時	100.0 (337)	59.6	7.7	9.5	22.8	0.3	100.0 (337)	57.9	5.3	8.0	27.9	0.9	100.0 (337)	72.1	10.7	5.3	11.6	0.3				
	0～3歳	100.0 (112)	67.0	7.1	9.8	14.3	1.8	100.0 (112)	63.4	8.0	7.1	20.5	0.9	100.0 (112)	80.4	8.9	3.6	5.4	1.8				
	4～12歳	100.0 (63)	74.6	4.8	9.5	7.9	3.2	100.0 (63)	76.2	3.2	6.3	11.1	3.2	100.0 (63)	85.7	1.6	1.6	7.9	3.2				
	13～17歳	100.0 (29)	72.4	10.3	17.2	-	-	100.0 (29)	69.0	10.3	10.3	10.3	-	100.0 (29)	79.3	13.8	-	3.4	3.4				
	18～29歳	100.0 (112)	76.8	12.5	4.5	5.4	0.9	100.0 (112)	76.8	9.8	4.5	8.0	0.9	100.0 (112)	81.3	8.9	3.6	3.6	2.7				
	30～39歳	100.0 (124)	75.8	12.9	4.8	6.5	-	100.0 (124)	76.6	8.1	6.5	8.9	-	100.0 (124)	87.9	6.5	2.4	3.2	-				
	40～49歳	100.0 (221)	74.7	10.0	9.5	5.4	0.5	100.0 (221)	71.9	10.0	6.8	10.4	0.9	100.0 (221)	82.4	10.0	3.6	3.2	0.9				
	50～59歳	100.0 (405)	76.3	11.9	7.9	3.7	0.2	100.0 (405)	70.4	11.1	8.1	9.9	0.5	100.0 (405)	84.2	9.1	3.7	2.5	0.5				
	60～69歳	100.0 (555)	77.5	8.5	5.6	8.1	0.4	100.0 (555)	72.3	8.1	7.7	11.7	0.2	100.0 (555)	84.9	6.3	3.1	5.0	0.7				
	70歳以上	100.0 (544)	72.8	10.8	7.0	9.0	0.4	100.0 (544)	64.5	7.9	11.9	14.2	1.5	100.0 (544)	81.6	8.1	2.9	7.0	0.4				
	(再掲)65歳以上	100.0 (814)	72.2	10.3	7.1	10.1	0.2	100.0 (814)	65.1	7.9	11.3	14.7	1.0	100.0 (814)	81.3	8.0	2.9	7.1	0.6				
身体障 害者 手帳 の程 度 (総合 等級) 別	1級	100.0 (933)	63.5	9.1	9.5	17.4	0.5	100.0 (933)	59.5	7.5	8.8	23.5	0.8	100.0 (933)	74.2	8.9	5.0	11.3	0.6				
	2級	100.0 (445)	62.7	16.6	10.1	9.7	0.9	100.0 (445)	58.0	11.7	13.3	16.0	1.1	100.0 (445)	76.2	13.0	4.0	5.4	1.3				
	3級	100.0 (490)	79.4	8.6	6.9	4.7	0.4	100.0 (490)	72.0	9.8	8.6	8.8	0.8	100.0 (490)	84.1	9.2	2.9	2.9	1.0				
	4級	100.0 (504)	86.7	6.7	4.0	2.0	0.6	100.0 (504)	81.7	6.7	5.8	5.0	0.8	100.0 (504)	90.3	5.4	1.8	1.6	1.0				
	5級	100.0 (123)	82.1	11.4	2.4	3.3	0.8	100.0 (123)	84.6	5.7	3.3	5.7	0.8	100.0 (123)	92.7	5.7	-	0.8	0.8				
	6級	100.0 (159)	88.7	3.1	3.8	3.8	0.6	100.0 (159)	86.2	3.1	3.1	5.7	1.9	100.0 (159)	94.3	3.8	1.3	-	0.6				

(5) 日常生活動作能力 (d 着替えをする e 入浴をする f 寝返りをする)

－障害名〔複数回答〕、現在一緒に生活している人〔複数回答〕別

日常生活動作能力 (d 着替えをする e 入浴をする f 寝返りをする) で「全部手助けが必要」の割合を障害名別にみると、「d 着替えをする」「e 入浴をする」については肢体不自由 (乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害) の割合が最も高く (d 36.0%、e 44.3%)、「f 寝返りをする」については「全部手助けが必要」の割合が高いのは肢体不自由 (体幹) の 23.1%となっている。

表Ⅱ-4-4 日常生活動作能力 (d 着替えをする e 入浴をする f 寝返りをする)

－障害名〔複数回答〕、現在一緒に生活している人〔複数回答〕別

		d 着替えをする						e 入浴をする						f 寝返りをする						
		総 数	ひと りで 全部 できる	ム ー ズ に は で き な い ス	ひと りで で き る	一部 手 助 け が あ れ ば	全部 手 助 け が 必 要	無 回 答	総 数	ひと りで 全部 できる	ム ー ズ に は で き な い ス	ひと りで で き る	一部 手 助 け が あ れ ば	全部 手 助 け が 必 要	無 回 答	総 数	ひと りで 全部 できる	ム ー ズ に は で き な い ス	ひと りで で き る	一部 手 助 け が あ れ ば
総数		100.0 (2,659)	73.0	9.6	7.4	9.4	0.6	100.0 (2,659)	68.5	8.2	8.3	14.1	0.9	100.0 (2,659)	81.3	8.5	3.4	5.8	0.9	
身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕別	視覚障害	100.0 (403)	76.2	10.7	7.7	5.0	0.5	100.0 (403)	73.4	9.9	7.4	8.7	0.5	100.0 (403)	88.3	6.2	2.0	2.5	1.0	
	聴覚障害	100.0 (376)	87.2	3.5	4.5	3.7	1.1	100.0 (376)	85.1	3.5	3.7	6.1	1.6	100.0 (376)	90.4	4.5	1.6	1.3	2.1	
	平衡機能障害	100.0 (15)	46.7	13.3	26.7	13.3	-	100.0 (15)	46.7	6.7	20.0	26.7	-	100.0 (15)	73.3	6.7	6.7	13.3	-	
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (280)	78.9	4.6	8.6	7.5	0.4	100.0 (280)	71.1	6.4	9.6	11.8	1.1	100.0 (280)	88.2	4.6	2.5	3.9	0.7	
	肢体不自由(上肢)	100.0 (398)	42.7	20.6	15.3	21.1	0.3	100.0 (398)	37.2	16.1	12.6	33.7	0.5	100.0 (398)	56.5	19.3	8.8	14.3	1.0	
	肢体不自由(下肢)	100.0 (548)	59.3	16.2	11.7	12.6	0.2	100.0 (548)	49.8	15.5	11.9	22.4	0.4	100.0 (548)	66.8	17.3	6.2	8.9	0.7	
	肢体不自由(体幹)	100.0 (216)	31.9	19.0	17.6	29.2	2.3	100.0 (216)	25.9	9.3	20.4	41.7	2.8	100.0 (216)	43.5	18.1	12.5	<u>23.1</u>	2.8	
	肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (228)	37.7	11.0	14.0	<u>36.0</u>	1.3	100.0 (228)	35.5	8.8	9.6	<u>44.3</u>	1.8	100.0 (228)	57.9	14.5	7.9	18.4	1.3	
	内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸の機能の障害、免疫機能障害、肝臓)	100.0 (756)	86.5	6.7	3.2	3.4	0.1	100.0 (756)	83.5	5.7	5.2	5.4	0.3	100.0 (756)	91.5	4.5	1.5	2.0	0.5	
現在一緒に生活している人〔複数回答〕別	親	100.0 (367)	60.8	9.0	9.5	19.9	0.8	100.0 (367)	60.2	6.0	7.9	24.8	1.1	100.0 (367)	77.7	7.6	4.4	9.3	1.1	
	配偶者	100.0 (1,323)	77.4	9.8	6.7	5.5	0.5	100.0 (1,323)	74.7	8.2	7.4	9.0	0.7	100.0 (1,323)	84.9	8.3	2.9	3.1	0.8	
	子供	100.0 (813)	75.2	9.7	8.1	6.5	0.5	100.0 (813)	70.8	8.0	9.2	11.2	0.7	100.0 (813)	84.6	6.9	3.8	4.1	0.6	
	兄弟姉妹	100.0 (160)	60.0	8.1	9.4	22.5	-	100.0 (160)	56.3	3.8	9.4	30.0	0.6	100.0 (160)	74.4	7.5	5.6	11.9	0.6	
	その他の親族	100.0 (127)	67.7	7.9	10.2	13.4	0.8	100.0 (127)	62.2	6.3	8.7	22.8	-	100.0 (127)	80.3	10.2	2.4	7.1	-	
	一人で暮らしている	100.0 (557)	82.8	9.7	3.6	3.6	0.4	100.0 (557)	75.9	10.1	6.6	6.6	0.7	100.0 (557)	85.6	9.3	1.3	3.1	0.7	
	その他	100.0 (29)	69.0	6.9	3.4	20.7	-	100.0 (29)	65.5	13.8	-	20.7	-	100.0 (29)	79.3	-	10.3	10.3	-	

(注)「現在一緒に生活している人」は在宅者を対象とした設問のため、総数は 2,568 人である。

(6) 日常生活動作能力 (g 家の中を移動する h 外出をする i 日常の買い物 j 薬の管理)

－障害者になった時期、身体障害者手帳の程度（総合等級）別

日常生活動作能力 (g 家の中を移動する h 外出をする i 日常の買い物 j 薬の管理) を障害者になった時期別にみると、「g 家の中を移動する」「j 薬の管理」では「全部手助けが必要」の割合が、出生前または出生時で高いのが目立つ (g 15.4%、j 26.7%)。

身体障害者手帳の程度（総合等級）別にみると「i 日常の買い物」について「全部手助けが必要」の割合は、1 級 (36.4%)、2 級 (33.9%) で約 3 人に 1 人となっている。また「j 薬の管理」では、「全部手助けが必要」の割合が 1 級で 23.5% と他の程度よりも高い割合となっている。(表 II-4-5)

表 II-4-5 日常生活動作能力 (g 家の中を移動する h 外出をする i 日常の買い物 j 薬の管理)
－障害者になった時期、身体障害者手帳の程度（総合等級）別

		g 家の中を移動する							h 外出をする							i 日常の買い物							j 薬の管理						
		総 数	き と り で 全 部 で	ひ と り で 全 部 で	が ス ム い ズ に は る	れ ば 手 助 け が あ る	要 全 部 手 助 け が 必 要	無 回 答	総 数	き と り で 全 部 で	ひ と り で 全 部 で	が ス ム い ズ に は る	れ ば 手 助 け が あ る	要 全 部 手 助 け が 必 要	無 回 答	総 数	き と り で 全 部 で	ひ と り で 全 部 で	が ス ム い ズ に は る	れ ば 手 助 け が あ る	要 全 部 手 助 け が 必 要	無 回 答	総 数	き と り で 全 部 で	ひ と り で 全 部 で	が ス ム い ズ に は る	れ ば 手 助 け が あ る	要 全 部 手 助 け が 必 要	無 回 答
総数		100.0 (2,659)	75.4	12.1	4.8	6.9	0.9	100.0 (2,659)	57.3	9.7	11.6	20.3	1.0	100.0 (2,659)	53.4	8.8	9.4	26.3	2.0	100.0 (2,659)	72.8	5.4	5.6	14.8	1.5				
障 害 者 に な っ た 時 期 別	出生前または出生時	100.0 (337)	65.9	10.1	7.4	15.4	1.2	100.0 (337)	51.0	8.9	9.8	29.4	0.9	100.0 (337)	48.1	7.1	10.7	32.3	1.8	100.0 (337)	61.7	3.0	5.9	26.7	2.7				
	0～3歳	100.0 (112)	71.4	10.7	8.0	8.0	1.8	100.0 (112)	51.8	13.4	8.0	25.9	0.9	100.0 (112)	48.2	12.5	9.8	27.7	1.8	100.0 (112)	60.7	8.0	7.1	18.8	5.4				
	4～12歳	100.0 (63)	76.2	11.1	4.8	4.8	3.2	100.0 (63)	65.1	3.2	12.7	15.9	3.2	100.0 (63)	60.3	4.8	12.7	19.0	3.2	100.0 (63)	73.0	6.3	9.5	7.9	3.2				
	13～17歳	100.0 (29)	75.9	17.2	6.9	-	-	100.0 (29)	58.6	6.9	13.8	20.7	-	100.0 (29)	51.7	10.3	10.3	24.1	3.4	100.0 (29)	69.0	6.9	6.9	13.8	3.4				
	18～29歳	100.0 (112)	81.3	9.8	4.5	3.6	0.9	100.0 (112)	60.7	14.3	15.2	8.9	0.9	100.0 (112)	59.8	11.6	13.4	13.4	1.8	100.0 (112)	80.4	7.1	3.6	5.4	3.6				
	30～39歳	100.0 (124)	79.0	13.7	1.6	4.8	0.8	100.0 (124)	61.3	13.7	7.3	17.7	-	100.0 (124)	61.3	12.1	3.2	22.6	0.8	100.0 (124)	79.8	6.5	6.5	7.3	-				
	40～49歳	100.0 (221)	76.9	12.2	5.0	5.0	0.9	100.0 (221)	58.4	9.5	12.2	19.5	0.5	100.0 (221)	54.8	13.1	9.5	21.7	0.9	100.0 (221)	80.5	4.1	3.6	11.3	0.5				
	50～59歳	100.0 (405)	77.3	15.1	4.0	3.5	0.2	100.0 (405)	59.0	10.6	14.6	14.6	1.2	100.0 (405)	55.6	9.9	10.6	22.7	1.2	100.0 (405)	79.0	7.4	4.9	7.9	0.7				
	60～69歳	100.0 (555)	80.9	9.5	3.8	5.4	0.4	100.0 (555)	63.6	8.6	10.3	16.8	0.7	100.0 (555)	57.5	7.7	8.3	25.0	1.4	100.0 (555)	78.4	4.3	4.7	12.1	0.5				
	70歳以上	100.0 (544)	73.0	14.5	4.2	7.9	0.4	100.0 (544)	51.8	10.1	13.2	24.1	0.7	100.0 (544)	47.8	7.5	9.7	31.6	3.3	100.0 (544)	68.0	4.6	6.3	20.4	0.7				
(再掲) 65歳以上		100.0 (814)	74.0	13.1	4.9	7.6	0.4	100.0 (814)	54.2	9.7	12.2	23.1	0.9	100.0 (814)	49.8	7.5	9.0	30.7	3.1	100.0 (814)	69.5	4.3	6.1	19.4	0.6				
身 体 障 害 者 手 帳 の 程 度 (総 合 等 級) 別	1級	100.0 (933)	66.0	12.1	7.6	13.2	1.1	100.0 (933)	48.4	7.7	11.4	31.4	1.1	100.0 (933)	44.1	7.1	10.0	36.4	2.5	100.0 (933)	62.7	4.9	7.1	23.5	1.8				
	2級	100.0 (445)	67.4	18.9	5.4	7.2	1.1	100.0 (445)	41.8	14.4	18.0	24.5	1.3	100.0 (445)	39.1	11.7	13.5	33.9	1.8	100.0 (445)	67.4	8.8	7.0	15.1	1.8				
	3級	100.0 (490)	81.2	11.8	3.7	2.7	0.6	100.0 (490)	62.2	12.2	11.4	13.3	0.8	100.0 (490)	58.0	11.8	9.2	19.4	1.6	100.0 (490)	78.8	5.5	4.7	9.8	1.2				
	4級	100.0 (504)	87.5	8.1	1.4	2.2	0.8	100.0 (504)	72.0	8.5	8.3	10.3	0.8	100.0 (504)	68.3	7.1	7.9	14.5	2.2	100.0 (504)	83.3	4.0	4.0	7.7	1.0				
	5級	100.0 (123)	82.9	13.8	0.8	1.6	0.8	100.0 (123)	73.2	8.1	10.6	7.3	0.8	100.0 (123)	68.3	9.8	6.5	14.6	0.8	100.0 (123)	83.7	5.7	3.3	6.5	0.8				
	6級	100.0 (159)	91.8	3.8	3.1	0.6	0.6	100.0 (159)	79.9	5.0	6.9	6.9	1.3	100.0 (159)	78.0	6.3	3.1	10.7	1.9	100.0 (159)	86.2	2.5	2.5	7.5	1.3				

(7) 日常生活動作能力 (g 家の中を移動する h 外出をする i 日常の買い物 j 薬の管理)

－障害名〔複数回答〕、現在一緒に生活している人〔複数回答〕別

日常生活動作能力 (g 家の中を移動する h 外出をする i 日常の買い物 j 薬の管理) を障害名別にみると、「全部手助けが必要」の割合は肢体不自由(体幹)で「h 外出をする」(54.2%)、「i 日常の買い物」(59.7%) が高くなっており、ともに 5 割を超えている。

また「j 薬の管理」については、「全部手助けが必要」の割合が肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)で 37.7%、肢体不自由(体幹)で 37.5% となっている。(表Ⅱ-4-6)

表Ⅱ-4-6 日常生活動作能力 (g 家の中を移動する h 外出をする i 日常の買い物 j 薬の管理)

－障害名〔複数回答〕、現在一緒に生活している人〔複数回答〕別

		g 家の中を移動する						h 外出する						i 日常の買い物						j 薬の管理					
		総 数	る ひと りで 全部 でき	な い ス ム ー ズ に は で き が	一 部 手 助 け が あ れ	全 部 手 助 け が 必 要	無 回 答	総 数	る ひと りで 全部 でき	な い ス ム ー ズ に は で き が	一 部 手 助 け が あ れ	全 部 手 助 け が 必 要	無 回 答	総 数	る ひと りで 全部 でき	な い ス ム ー ズ に は で き が	一 部 手 助 け が あ れ	全 部 手 助 け が 必 要	無 回 答	総 数	る ひと りで 全部 でき	な い ス ム ー ズ に は で き が	一 部 手 助 け が あ れ	全 部 手 助 け が 必 要	無 回 答
総数		100.0 (2,659)	75.4	12.1	4.8	6.9	0.9	100.0 (2,659)	57.3	9.7	11.6	20.3	1.0	100.0 (2,659)	53.4	8.8	9.4	26.3	2.0	100.0 (2,659)	72.8	5.4	5.6	14.8	1.5
身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕別	視覚障害	100.0 (403)	73.7	16.6	4.5	4.7	0.5	100.0 (403)	39.2	16.1	18.9	25.1	0.7	100.0 (403)	35.7	13.2	16.9	32.8	1.5	100.0 (403)	65.0	8.7	7.4	17.6	1.2
	聴覚障害	100.0 (376)	86.7	6.1	3.7	2.4	1.1	100.0 (376)	72.6	6.1	8.5	11.4	1.3	100.0 (376)	70.7	6.4	6.1	13.8	2.9	100.0 (376)	82.2	4.0	4.0	8.0	1.9
	平衡機能障害	100.0 (15)	53.3	26.7	6.7	13.3	-	100.0 (15)	46.7	6.7	13.3	33.3	-	100.0 (15)	26.7	26.7	6.7	40.0	-	100.0 (15)	60.0	13.3	6.7	20.0	-
	音声機能・言語機能・ しゃく機能の障害	100.0 (280)	86.4	5.4	3.2	5.0	-	100.0 (280)	66.8	6.8	11.1	15.4	-	100.0 (280)	58.6	7.9	8.6	24.3	0.7	100.0 (280)	72.1	4.3	6.8	16.1	0.7
	肢体不自由(上肢)	100.0 (398)	52.0	21.1	10.6	15.8	0.5	100.0 (398)	34.7	12.3	15.3	36.2	1.5	100.0 (398)	30.7	11.6	10.3	45.5	2.0	100.0 (398)	53.0	11.3	8.0	26.6	1.0
	肢体不自由(下肢)	100.0 (548)	62.2	21.4	6.4	9.3	0.7	100.0 (548)	41.8	15.0	13.9	28.6	0.7	100.0 (548)	38.5	12.0	10.9	37.2	1.3	100.0 (548)	67.9	7.7	5.7	18.1	0.7
	肢体不自由(体幹)	100.0 (216)	32.4	24.1	14.4	26.9	2.3	100.0 (216)	19.4	6.9	17.1	54.2	2.3	100.0 (216)	15.3	7.9	12.5	59.7	4.6	100.0 (216)	36.6	9.3	13.9	37.5	2.8
	肢体不自由(乳幼児期以前の非 進行性の脳病変による脳原性運動 機能障害)	100.0 (228)	46.9	14.9	10.5	24.1	3.5	100.0 (228)	32.0	9.2	10.5	46.5	1.8	100.0 (228)	28.9	8.8	10.1	48.7	3.5	100.0 (228)	43.0	6.1	7.9	37.7	5.3
	内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、 ぼうこう、直腸、小腸の機能の障 害、免疫機能障害、肝臓)	100.0 (756)	87.8	7.0	2.4	2.4	0.4	100.0 (756)	73.9	7.8	7.8	9.8	0.7	100.0 (756)	69.3	7.1	7.3	14.6	1.7	100.0 (756)	86.1	3.3	3.2	7.0	0.4
現在一緒に生活している人〔複数回答〕別	親	100.0 (367)	68.1	10.9	6.5	13.1	1.4	100.0 (367)	51.8	7.6	11.2	28.1	1.4	100.0 (367)	49.9	8.4	9.0	30.8	1.9	100.0 (367)	60.5	4.6	6.8	24.8	3.3
	配偶者	100.0 (1,323)	81.3	10.3	4.5	3.5	0.5	100.0 (1,323)	63.0	9.1	11.2	15.9	0.8	100.0 (1,323)	57.9	8.4	9.4	22.5	1.7	100.0 (1,323)	79.0	5.1	5.3	9.7	1.0
	子供	100.0 (813)	78.4	10.7	5.2	5.4	0.4	100.0 (813)	57.8	9.2	13.2	18.9	0.9	100.0 (813)	55.4	7.4	9.0	25.7	2.6	100.0 (813)	74.2	5.2	6.2	13.5	1.0
	兄弟姉妹	100.0 (160)	63.8	14.4	6.9	14.4	0.6	100.0 (160)	45.0	8.1	10.6	35.0	1.3	100.0 (160)	42.5	7.5	9.4	40.0	0.6	100.0 (160)	56.3	4.4	6.3	30.6	2.5
	その他の親族	100.0 (127)	68.5	12.6	5.5	13.4	-	100.0 (127)	44.1	12.6	12.6	30.7	-	100.0 (127)	42.5	8.7	13.4	34.6	0.8	100.0 (127)	64.6	3.1	4.7	26.8	0.8
	一人で暮らしている	100.0 (557)	79.4	16.0	1.3	2.3	1.1	100.0 (557)	64.8	13.5	9.7	11.5	0.5	100.0 (557)	61.9	11.7	7.9	17.6	0.9	100.0 (557)	83.7	6.8	5.4	3.1	1.1
	その他	100.0 (29)	69.0	10.3	6.9	10.3	3.4	100.0 (29)	58.6	10.3	10.3	20.7	-	100.0 (29)	48.3	13.8	13.8	20.7	3.4	100.0 (29)	65.5	3.4	6.9	20.7	3.4

(注)「現在一緒に生活している人」は在宅者を対象とした設問のため、総数は 2,568 人である。

5 就労の状況

(1) 収入を伴う仕事の有無（調査基準日現在）－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

「^{しごと}仕事をしている」人は^{ひと}65歳未満では40.5%

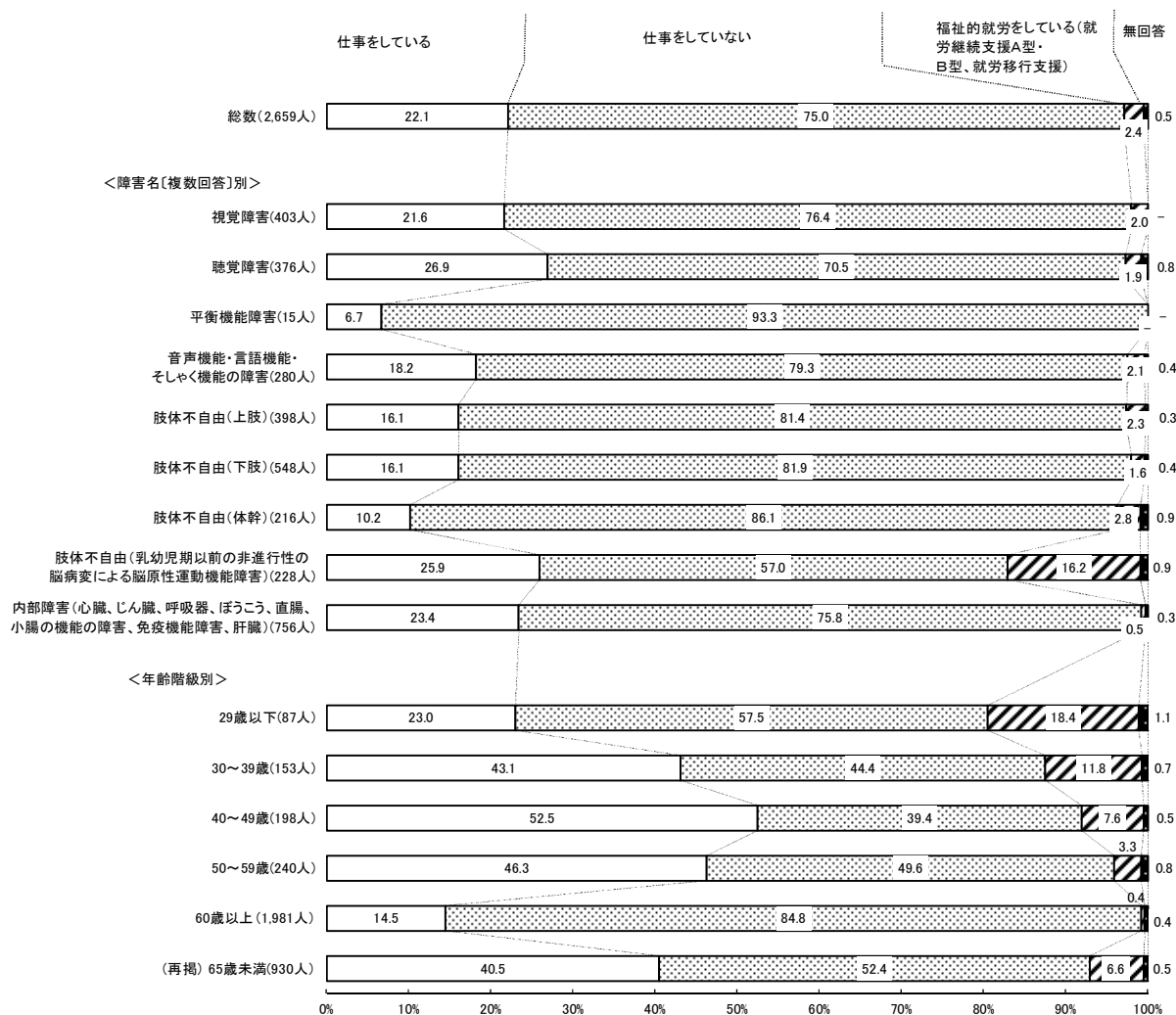
収入を伴う仕事の有無は「仕事をしている」割合が22.1%、「仕事をしていない」が75.0%、「福祉的就労をしている」は2.4%であった。

障害名別にみると、「仕事をしている」割合は、聴覚障害が26.9%と最も高く、「福祉的就労をしている」の割合は肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）が16.2%と他の障害と比較して10ポイント以上高くなっている。

年齢階級別にみると「仕事をしている」割合は、65歳未満で40.5%となっている。（図Ⅱ-5-1）

問 あなたは平成25年10月16日（調査基準日）現在、収入を伴う仕事をしていますか。

図Ⅱ-5-1 収入を伴う仕事の有無（調査基準日現在）－障害名〔複数回答〕、年齢階級別



(注) 20年度調査とは選択肢が異なるため、比較は行わない。

(2) 仕事の種類〔複数回答〕－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

※調査基準日現在、「仕事をしている」と回答した 588 人が対象

正規の職員・従業員の割合が最も高く 32.7%

仕事の種類を聞いたところ、「正規の職員・従業員」の割合が 32.7%で最も高く、次いで「非正規の職員・従業員（パート・アルバイト・日雇等（契約職員・派遣職員を含む））」が 30.1%、「自営業」が 22.4%であった。

障害名別にみると肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）では「正規の職員・従業員」の割合が 50.8%と 5 割を超えている。（表Ⅱ-5-1）

問 仕事の種類は何ですか。

表Ⅱ-5-1 仕事の種類〔複数回答〕－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

		総数	正規の職員・従業員	会社等の役員	（派遣職員を含む） （パート・アルバイト・日雇等） （非正規の職員・従業員）	自営業	家業の手伝い	内職	その他	無回答
総数		100.0 (588)	32.7	9.2	30.1	22.4	3.1	1.7	1.9	0.5
身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕別	視覚障害	100.0 (87)	35.6	9.2	21.8	27.6	2.3	1.1	1.1	2.3
	聴覚障害	100.0 (101)	43.6	3.0	30.7	12.9	4.0	3.0	3.0	1.0
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (51)	31.4	9.8	31.4	13.7	9.8	2.0	3.9	-
	肢体不自由(上肢)	100.0 (64)	34.4	6.3	34.4	23.4	1.6	-	-	-
	肢体不自由(下肢)	100.0 (88)	22.7	8.0	37.5	23.9	3.4	3.4	1.1	-
	肢体不自由(体幹)	100.0 (22)	22.7	18.2	36.4	22.7	-	-	-	-
	肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (59)	50.8	3.4	37.3	5.1	3.4	1.7	-	-
	内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸の機能の障害、免疫機能障害、肝臓)	100.0 (177)	24.3	14.7	26.6	32.2	1.7	1.1	2.3	-
年齢階級別	29歳以下	100.0 (20)	55.0	-	45.0	-	-	-	-	-
	30～39歳	100.0 (66)	53.0	-	39.4	3.0	4.5	-	1.5	1.5
	40～49歳	100.0 (104)	57.7	3.8	25.0	11.5	1.9	-	1.0	-
	50～59歳	100.0 (111)	56.8	7.2	24.3	8.1	3.6	0.9	0.9	-
	60歳以上	100.0 (287)	8.0	14.6	31.0	38.0	3.1	3.1	2.8	0.7
	(再掲) 65歳以上	100.0 (211)	2.4	16.6	28.9	43.6	2.8	3.8	2.4	0.5

(注 1) 20 年度調査とは選択肢が異なるため、比較は行わない。

(注 2) 平衡機能障害は、母集団が少数であるため省略した。

(3) 1週間の就労日数－障害名〔複数回答〕、仕事の種類〔複数回答〕別

※調査基準日現在、「仕事をしている」と回答した 588 人が対象

しゅうかん しゅうろうにつすう いつ か いじょう
1週間の就労日数は「5 日 以上」が 66.7%

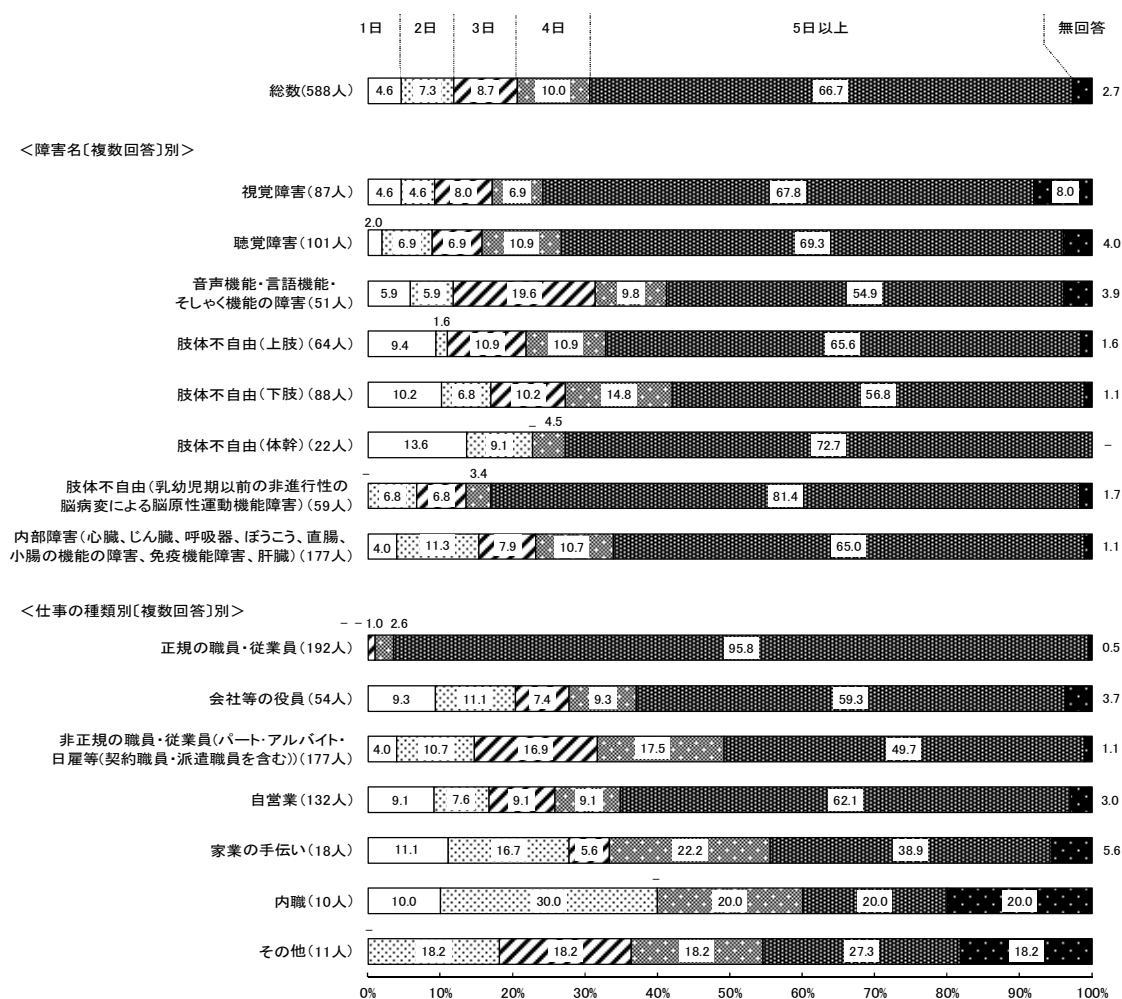
「仕事をしている」と回答した人（588 人）に 1 週間の就労日数を聞いたところ、最も割合が高かったのは「5 日以上」の 66.7%であった。

障害名別にみると「5 日以上」の割合が最も高いのは、肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）の 81.4%、次いで肢体不自由（体幹）の 72.7%と続く。

仕事の種類別にみると「5 日以上」の割合が最も高いのは、正規の職員・従業員の 95.8%、次いで自営業の 62.1%と続く。（図Ⅱ-5-2）

とい しゅうかん しゅうろうにつすう
問 1 週間の就労日数はどのくらいですか。

図Ⅱ-5-2 1週間の就労日数－障害名〔複数回答〕、仕事の種類〔複数回答〕別



(注) 平衡機能障害は、母集団が少数であるため省略した。

(4) 1週間の労働時間－障害名〔複数回答〕、仕事の種類〔複数回答〕別

※調査基準日現在、「仕事をしている」と回答した 588 人が対象

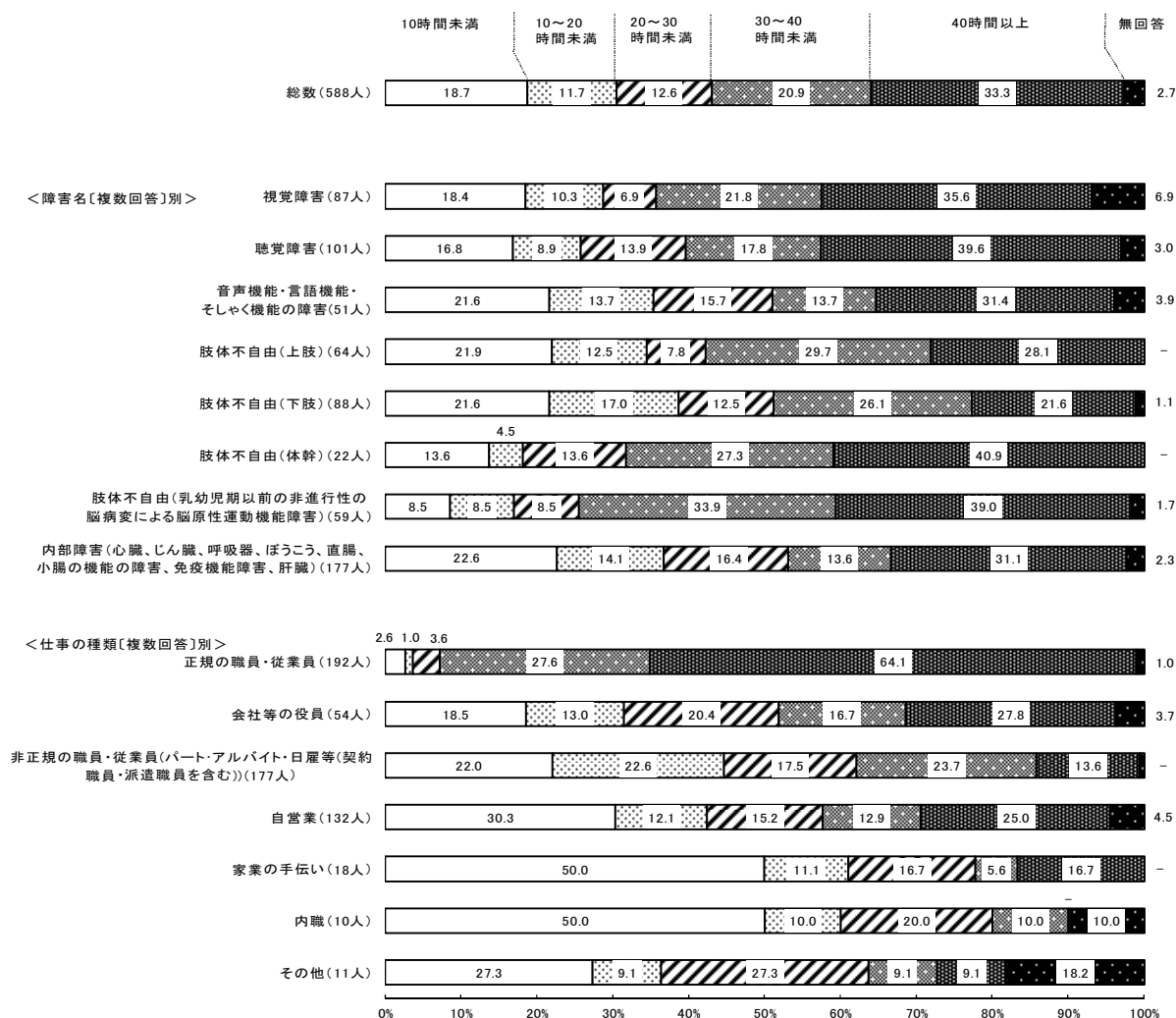
1週間の労働時間は「40時間以上」が 33.3%

1週間の労働時間をみると「40時間以上」の割合が最も高く 33.3%、次いで「30～40時間未満」が 20.9%であった。

障害名別にみると、「40時間以上」の割合が高いのは、肢体不自由（体幹）（40.9%）、聴覚障害（39.6%）及び肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）（39.0%）で約4割である。仕事の種類別にみると、「40時間以上」の割合が高いのは正規の職員・従業員（64.1%）と、会社等の役員（27.8%）であった。（図Ⅱ-5-3）

問 1週間の労働時間はどのくらいですか。

図Ⅱ-5-3 1週間の労働時間－障害名〔複数回答〕、仕事の種類〔複数回答〕別

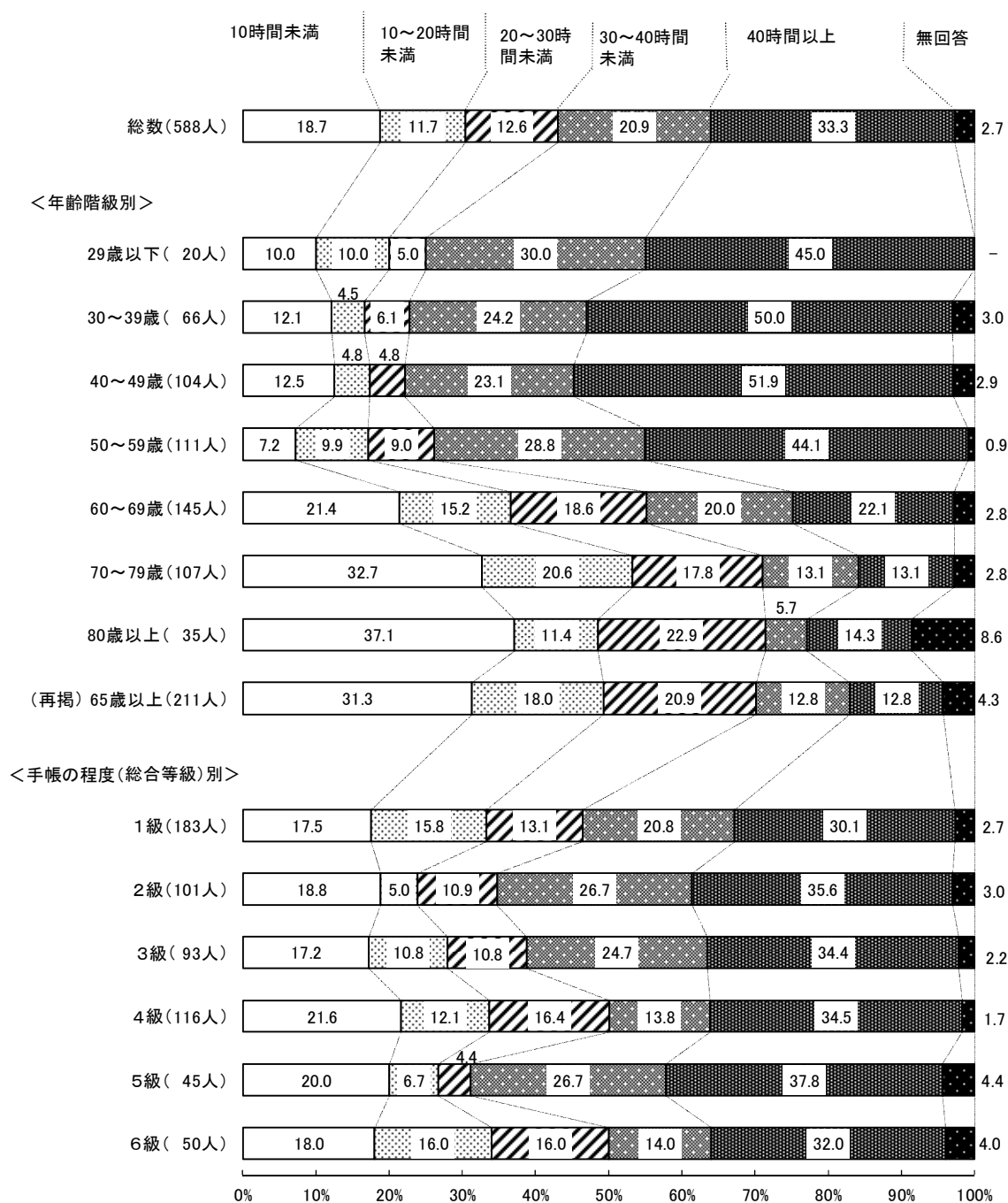


(注) 平衡機能障害は、母集団が少数であるため省略した。

(5) 1週間の労働時間－年齢階級、手帳の程度（総合等級）別

1週間の労働時間を年齢階級別にみると、30代と40代は「40時間以上」労働している人の割合が5割以上となっている（30代 50.0%、40代 51.9%）。（図Ⅱ-5-4）

図Ⅱ-5-4 1週間の労働時間－年齢階級、手帳の程度（総合等級）別



(6) 就職した時期－障害名〔複数回答〕、年齢階級、仕事の種類〔複数回答〕別

※仕事の種類が正規の職員・従業員、会社等の役員、非正規の職員・従業員（パート・アルバイト・日雇等（契約職員、派遣職員を含む））である 423 人が対象

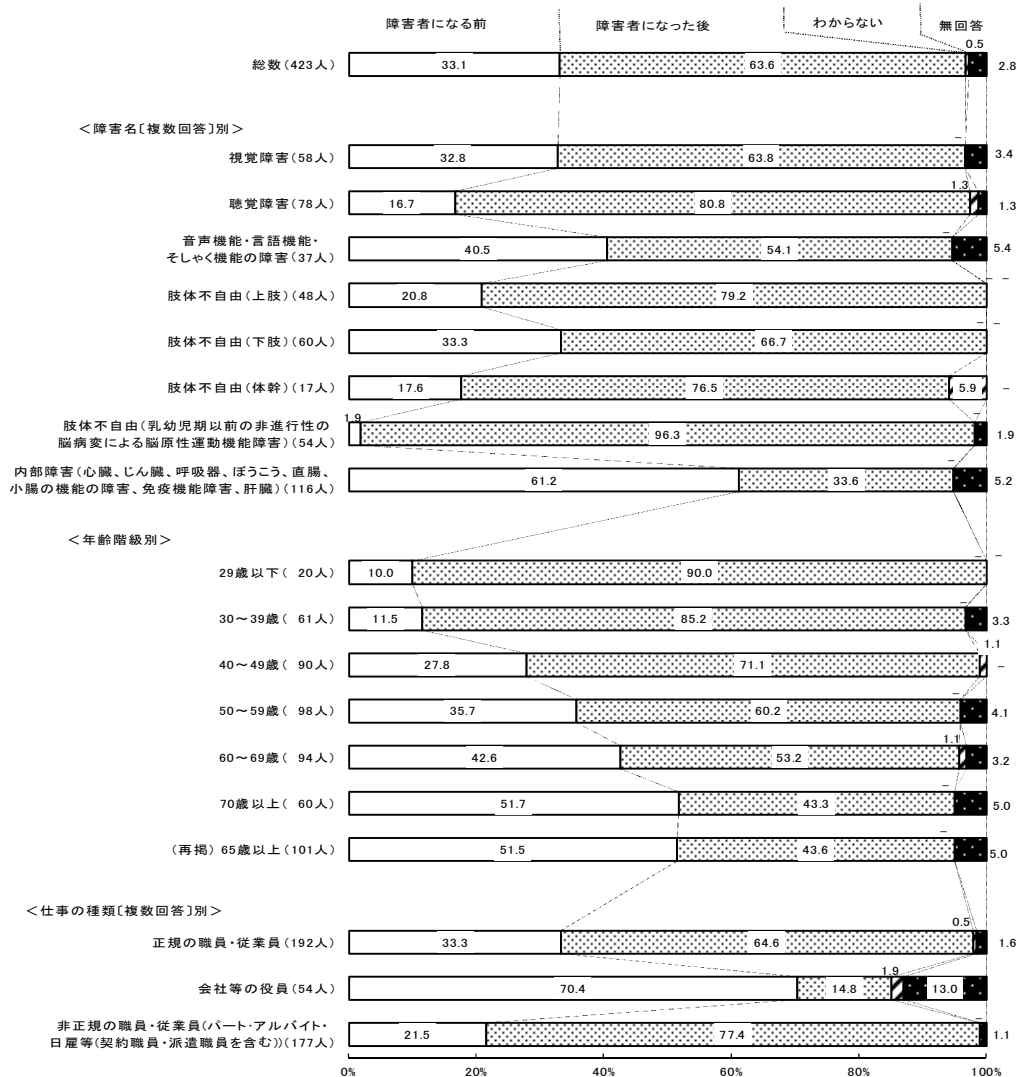
現在の就職先に就職をした時期は「障害者になった後」が 63.6%

現在の就職先に就職したのは障害者になる前か、それともなった後か聞いたところ、「障害者になる前」が 33.1%、「障害者になった後」が 63.6%であった。

年齢階級別にみると、「障害者になった後」に就職をした人は、年齢が高くなるにつれて割合が減少している。仕事の種類別にみると、非正規の職員・従業員では「障害者になった後」の割合が 8 割近くになっている。（図Ⅱ-5-5）

問 現在の就職先に就職をしたのは障害者になる前ですか、それともなった後ですか。

図Ⅱ-5-5 就職した時期－障害名〔複数回答〕、年齢階級、仕事の種類〔複数回答〕別



(7) 就職をするために支援を受けたところ（人）〔複数回答〕

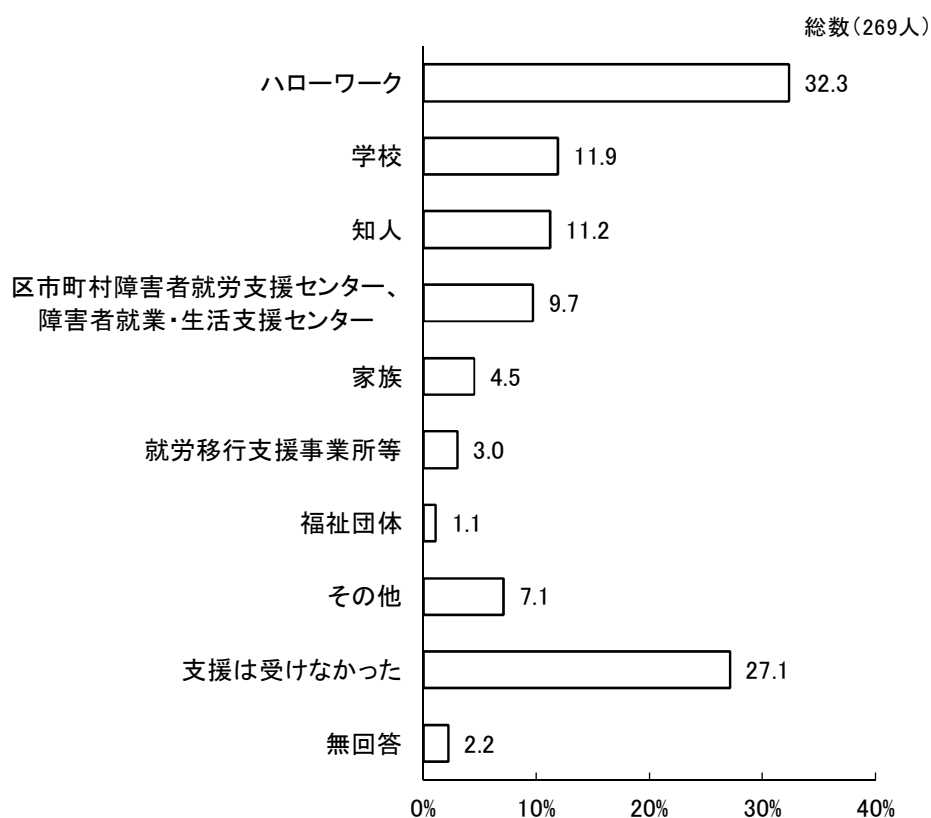
※仕事の種類が正規の職員・従業員、会社等の役員、非正規の職員・従業員（パート・アルバイト・日雇等（契約職員、派遣職員を含む））である人（423人）のうち、障害者になった後に現在の就職先に就職した269人が対象

就 職 を する ため に 支 援 を 受 け た と ころ は 「ハローワーク」 が 32.3%

どこ（誰）の支援を受けて仕事に就いたか聞いたところ、最も割合が高かったのは「ハローワーク」で32.3%、次いで「学校」11.9%、「知人」11.2%と続いた。一方で、「支援は受けなかった」の割合は27.1%となっている。（図Ⅱ-5-6）

ど こ（誰）の 支 援 を 受 け て 現 在 の 仕 事 に 就 き ま し た か。

図Ⅱ-5-6 就職をするために支援を受けたところ（人）〔複数回答〕



(8) 現在の仕事に就いてからの期間－年齢階級、仕事の種類〔複数回答〕別

※仕事の種類が正規の職員・従業員、会社等の役員、非正規の職員・従業員（パート・アルバイト・日雇等（契約職員、派遣職員を含む））である 423 人が対象

現在の仕事に就いてからの期間は「10年以上」が 51.5%

現在の仕事に就いてからの期間を聞いたところ、最も高い割合は「10 年以上」の 51.5%、次いで「5 年以上 10 年未満」19.4%となっている。

年齢階級別にみると、40 歳以上の年齢階級では、「10 年以上」の割合が全ての階級で最も高くなっている。

仕事の種類別にみると、正規の職員・従業員及び会社等の役員は「10 年以上」の割合が 6 割を超えているが、非正規の職員・従業員では「10 年以上」の割合が 25.4%、「5 年以上 10 年未満」の割合が 26.6%でいずれも 3 割を下回っている。（表Ⅱ-5-2）

問 現在の仕事に就いてからの期間はどれくらいですか。

表Ⅱ-5-2 現在の仕事に就いてからの期間－年齢階級、仕事の種類〔複数回答〕別

		総 数	3 か 月 未 満	6 3 か か 月 月 未 以 満 上	1 6 年 か 未 月 満 以 上	年 1 未 年 満 以 上 3	年 3 未 年 満 以 上 5	1 5 0 年 以 未 上 満	1 0 年 以 上	無 回 答
総数		100.0 (423)	2.1	1.4	2.4	9.0	9.5	19.4	51.5	4.7
年 齢 階 級 別	29歳以下	100.0 (20)	5.0	－	5.0	30.0	20.0	30.0	－	10.0
	30～39歳	100.0 (61)	1.6	－	3.3	9.8	9.8	42.6	26.2	6.6
	40～49歳	100.0 (90)	1.1	1.1	3.3	2.2	12.2	13.3	64.4	2.2
	50～59歳	100.0 (98)	－	3.1	－	9.2	5.1	14.3	63.3	5.1
	60～69歳	100.0 (94)	5.3	1.1	3.2	12.8	11.7	13.8	48.9	3.2
	70歳以上	100.0 (60)	1.7	1.7	1.7	5.0	5.0	18.3	60.0	6.7
	（再掲）65歳以上	100.0 (101)	1.0	2.0	4.0	7.9	8.9	17.8	52.5	5.9
仕 事 の 回 答 の 種 類 別 （複 数 回 答）	正規の職員・従業員	100.0 (192)	0.5	0.5	0.5	5.2	4.2	16.7	68.2	4.2
	会社等の役員	100.0 (54)	－	－	－	1.9	－	5.6	77.8	14.8
	非正規の職員・従業員（パート・アルバイト・日雇等（契約職員・派遣職員を含む））	100.0 (177)	4.5	2.8	5.1	15.3	18.1	26.6	25.4	2.3

(9) 仕事をしていく上で困ること〔3つまでの複数回答〕

－障害名〔複数回答〕、仕事の種類〔複数回答〕別

※仕事の種類が正規の職員・従業員、会社等の役員、非正規の職員・従業員（パート・アルバイト・日雇等（契約職員、派遣職員を含む））である 423 人が対象

仕事をしていく上で困ることは、総数では「通勤時の混雑」の割合が最も高いが、障害の種類によって困ることが異なる

仕事をしていく上で「困ることがある」と答えた割合は 52.7%、「困ることは特にない」が 43.3%であった。困ることの内容は、「通勤時の混雑」の割合が 11.8%と最も高い。

障害名別にみると、視覚障害では「仕事の内容」（17.2%）、聴覚障害では「相手の言っていることが分からない」（46.2%）、音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害では「相手に対して、言いたい内容が伝わらない」（45.9%）の割合が他の障害よりも高くなっている。また、肢体不自由（体幹）及び肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）では「通勤時の混雑」（29.4%、22.2%）、内部障害では「定期的な通院や健康管理との両立」（17.2%）の割合がそれぞれ他の障害よりも高いのが目立つ。

仕事の種類別にみると「困ることがある」の割合は正規の職員・従業員で高く 59.9%であった。（表Ⅱ-5-3）

問 仕事をしていく上で困ることは何ですか。

表Ⅱ-5-3 仕事をしていく上で困ること〔3つまでの複数回答〕

－障害名〔複数回答〕、仕事の種類〔複数回答〕別

		総数	困ることがある	仕事の内容	人間関係（職場内でのいじめなど）	相手に対して、言いたい内容が伝わらない	相手の言っていることが分からない	職場の（物理的な）不十分	勤務時間・日数	通勤距離・時間	通勤時の混雑	定期的な通院や健康管理との両立	急な体調の変化への配慮が難しい	その他	困ることは特にない	無回答
総数		100.0 (423)	52.7	9.5	10.9	10.2	10.6	7.3	3.8	6.1	11.8	9.2	5.7	7.6	43.3	4.0
身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕別	視覚障害	100.0 (58)	51.7	17.2	10.3	5.2	3.4	12.1	1.7	6.9	15.5	3.4	3.4	6.9	43.1	5.2
	聴覚障害	100.0 (78)	66.7	12.8	25.6	19.2	46.2	9.0	1.3	2.6	3.8	3.8	2.6	10.3	29.5	3.8
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (37)	67.6	5.4	8.1	45.9	10.8	5.4	5.4	5.4	5.4	8.1	2.7	2.7	27.0	5.4
	肢体不自由(上肢)	100.0 (48)	58.3	14.6	10.4	8.3	4.2	10.4	6.3	6.3	12.5	10.4	4.2	6.3	41.7	—
	肢体不自由(下肢)	100.0 (60)	55.0	10.0	6.7	6.7	5.0	5.0	1.7	10.0	15.0	10.0	3.3	15.0	45.0	—
	肢体不自由(体幹)	100.0 (17)	64.7	—	11.8	17.6	—	5.9	—	17.6	29.4	—	5.9	23.5	35.3	—
	肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (54)	55.6	7.4	13.0	11.1	5.6	11.1	1.9	5.6	22.2	3.7	7.4	9.3	37.0	7.4
	内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸の機能の障害、免疫機能障害、肝臓)	100.0 (116)	38.8	6.0	5.2	0.9	0.9	3.4	6.9	6.0	8.6	17.2	12.1	1.7	56.0	5.2
〔仕事の種類〕別	正規の職員・従業員	100.0 (192)	59.9	10.4	13.5	10.4	15.1	10.4	3.6	9.4	14.1	9.4	3.6	9.9	37.5	2.6
	会社等の役員	100.0 (54)	44.4	7.4	1.9	7.4	3.7	5.6	—	1.9	9.3	11.1	9.3	5.6	42.6	13.0
	非正規の職員・従業員(パート・アルバイト・日雇等(契約職員・派遣職員を含む))	100.0 (177)	47.5	9.0	10.7	10.7	7.9	4.5	5.1	4.0	10.2	8.5	6.8	5.6	49.7	2.8

(10) 仕事で困ったときの相談先〔複数回答〕

－障害名〔複数回答〕、仕事の種類〔複数回答〕別

※仕事の種類が正規の職員・従業員、会社等の役員、非正規の職員・従業員（パート・アルバイト・日雇等（契約職員、派遣職員を含む））である 423 人が対象

仕事で困ったことがあったときの相談先は「^{かいしゃ}会社の上^{じょうし}司」、「^{かいしゃ}会社の同^{どうりょう}僚」、「^{かぞく}家族」
が3割を超えている

仕事の種類が正規の職員・従業員、会社等の役員、非正規の職員・従業員（パート・アルバイト・日雇等（契約職員、派遣職員を含む））の仕事をしている人（423 人）に、仕事で困ったときの相談先を尋ねたところ、「会社の上司」（37.1%）、「会社の同僚」（31.0%）、及び「家族」（31.4%）の割合が高くなっている。

仕事の種類別にみると、正規の職員・従業員、及び非正規の職員・従業員では、「会社の上司」の割合が最も高く、それぞれ 53.1%、30.5%となっている。（表Ⅱ-5-4）

問 仕事で困ったことがあったとき、誰に相談しますか。

表Ⅱ-5-4 仕事で困ったときの相談先〔複数回答〕

－障害名〔複数回答〕、仕事の種類〔複数回答〕別

		総 数	会 社 の 上 司	会 社 の 同 僚	職 場 に 派 遣 さ れ た ジョ ー ナ ー	職 員 就 業 支 援 セ ン タ ー 等 の	家 族	会 社 の 同 僚 以 外 の 友 人	ホ ー ム の 職 員 、 グ ル ー プ	出 身 校 の 教 員	そ の 他	相 談 す る 相 手 は い な い	は な ま で 特 に 困 っ た こ と	無 回 答
総数		100.0 (423)	37.1	31.0	0.5	1.7	31.4	11.6	0.5	1.2	1.7	5.9	21.7	4.5
身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕別	視覚障害	100.0 (58)	37.9	32.8	-	-	27.6	15.5	1.7	5.2	-	5.2	20.7	6.9
	聴覚障害	100.0 (78)	38.5	43.6	-	2.6	38.5	16.7	-	-	1.3	7.7	10.3	2.6
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (37)	40.5	32.4	2.7	2.7	27.0	13.5	-	5.4	2.7	2.7	16.2	8.1
	肢体不自由(上肢)	100.0 (48)	31.3	18.8	4.2	6.3	35.4	6.3	-	-	2.1	2.1	27.1	-
	肢体不自由(下肢)	100.0 (60)	38.3	23.3	1.7	5.0	28.3	6.7	-	-	3.3	1.7	33.3	-
	肢体不自由(体幹)	100.0 (17)	23.5	29.4	-	-	29.4	17.6	-	-	-	5.9	29.4	-
	肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (54)	57.4	44.4	-	5.6	29.6	16.7	-	1.9	-	11.1	14.8	3.7
	内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸の機能の障害、免疫機能障害、肝臓)	100.0 (116)	30.2	23.3	-	-	28.4	6.9	0.9	-	2.6	6.0	26.7	6.9
仕事の種類別〔複数回答〕	正規の職員・従業員	100.0 (192)	53.1	42.7	-	2.1	30.7	16.1	-	2.6	1.6	4.7	14.6	2.6
	会社等の役員	100.0 (54)	1.9	9.3	-	-	40.7	13.0	1.9	-	3.7	7.4	24.1	14.8
	非正規の職員・従業員(パート・アルバイト・日雇等(契約職員・派遣職員を含む))	100.0 (177)	30.5	24.9	1.1	1.7	29.4	6.2	0.6	-	1.1	6.8	28.8	3.4

(注) 平衡機能障害は、母集団が少数であるため省略した。

(11) 福祉的就労経験の有無－仕事の種類〔複数回答〕別

※仕事の種類が正規の職員・従業員、会社等の役員、非正規の職員・従業員（パート・アルバイト・日雇等（契約職員、派遣職員を含む））である 423 人が対象

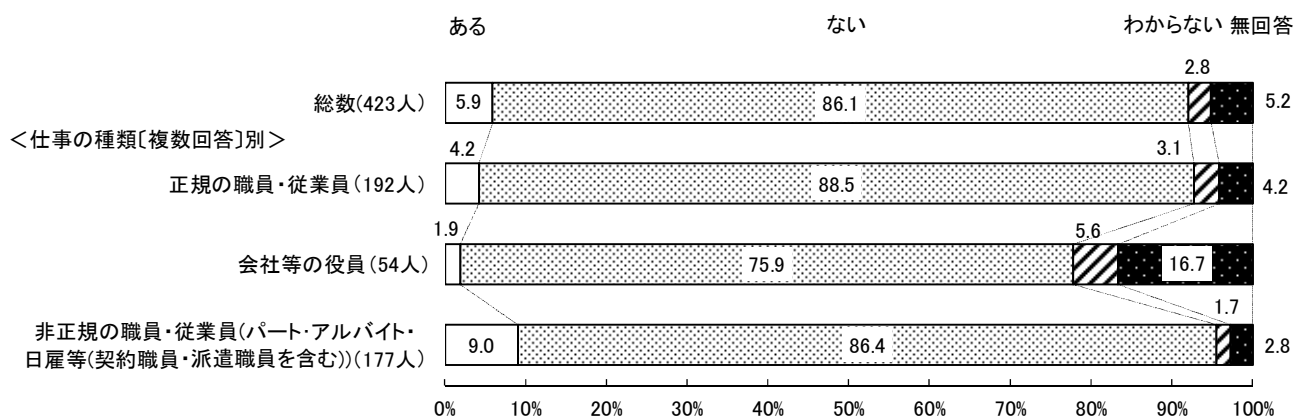
これまでに、^{ふくしてきしゅうろう}福祉的就労経験がある^{せいき ひせいき しよくいんとう わりあい}正規・非正規の職員等の割合は 5.9%

これまでに、福祉的就労をしたことがあるか聞いたところ、「ある」が 5.9%、「ない」が 86.1%であった。

仕事の種類別にみると「ある」の割合は、正規の職員・従業員が 4.2%、非正規の職員、従業員（パート・アルバイト・日雇等（契約職員・派遣職員を含む））が 9.0%となっている。（図Ⅱ-5-7）

問 これまでに、^{ふくしてきしゅうろう}福祉的就労をしたことがありますか。

図Ⅱ-5-7 福祉的就労経験の有無－仕事の種類〔複数回答〕別



(12) 現在、仕事をしていない理由、又は福祉的就労をしている理由〔3つまでの複数回答〕

－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

※仕事をしていない人及び福祉的就労をしている人（2,059人）が対象

げんざい しごと りゆう また ふくしてきしゅうろう りゆう さい い か けんこう
 現在、仕事をしていない理由、又は福祉的就労をしている理由は、69歳以下では「健康・
 たいりょくじょう りゆう びょうきとう ふく もつと たか
 体力上の理由（病気等を含む）」が最も高い

現在、仕事をしていない、又は福祉的就労をしている理由を聞いたところ、「健康・体力上の理由（病気等を含む）」の割合が最も高く 57.1%、次いで「高齢のため（定年を含む）」51.3%となっている。

年齢階級別にみると 69 歳以下の階級ではいずれも「健康・体力上の理由（病気等を含む）」の割合が最も高くなっている。また、29 歳以下では「学校などで勉強しているため」の割合が 24.2%と、他の年齢階級よりも高くなっている。（表Ⅱ-5-5）

と い げんざい しごと りゆう また ふくしてきしゅうろう りゆう なん
 問 現在、仕事をしていない理由、又は福祉的就労をしている理由は何ですか。

表Ⅱ-5-5 現在、仕事をしていない理由、又は福祉的就労をしている理由〔3つまでの複数回答〕

－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

	総数	な 自 分 に あ つ た 仕 事 が	（ 健 康 ・ 体 力 上 の 理 由 ）	な 会 社 倒 産 ・ 人 員 整 理	な 家 庭 の 都 合 （ 結 婚 ・ 育 児 ・ 介 護 等 ）	（ 高 齢 の た め ）	め 人 間 関 係 が 難 し い た め	い 学 校 な ど で 勉 強 し て	場 受 け な い 入 れ て く れ る 職	働 く 必 要 が な い た め	働 き た く な い た め	そ の 他	無 回 答
総数	100.0 (2,059)	6.0	57.1	0.6	2.5	51.3	1.7	0.9	9.4	13.9	3.0	2.5	3.4
身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕別													
視覚障害	100.0 (316)	4.7	60.1	0.3	1.6	52.8	1.3	1.9	8.5	13.6	1.9	1.9	3.2
聴覚障害	100.0 (272)	7.4	35.7	0.7	5.1	71.3	2.9	0.7	9.2	17.6	3.7	1.5	2.2
平衡機能障害	100.0 (14)	7.1	78.6	-	7.1	42.9	-	-	7.1	-	7.1	-	7.1
音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (228)	7.9	62.3	-	1.8	46.9	3.5	-	12.7	9.2	1.3	0.9	4.8
肢体不自由（上肢）	100.0 (333)	4.2	68.8	0.3	2.1	42.9	1.2	0.6	7.8	12.0	2.1	2.7	3.9
肢体不自由（下肢）	100.0 (458)	4.1	60.0	0.2	3.1	48.7	1.1	-	6.8	16.6	3.3	2.8	3.9
肢体不自由（体幹）	100.0 (192)	3.6	69.3	-	-	39.1	-	1.6	6.8	7.3	4.2	6.3	5.2
肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）	100.0 (167)	14.4	67.1	1.2	1.2	10.2	7.2	3.0	17.4	3.6	4.8	9.0	5.4
内部障害（心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸の機能の障害、免疫機能障害、肝臓）	100.0 (577)	4.7	58.8	1.0	2.1	57.9	0.5	0.3	8.1	15.9	3.3	2.1	2.3
年齢階級別													
29歳以下	100.0 (66)	13.6	50.0	-	-	-	3.0	24.2	15.2	-	1.5	15.2	3.0
30～39歳	100.0 (86)	19.8	70.9	1.2	2.3	-	10.5	1.2	25.6	3.5	2.3	9.3	3.5
40～49歳	100.0 (93)	18.3	67.7	2.2	6.5	-	6.5	1.1	20.4	3.2	4.3	6.5	4.3
50～59歳	100.0 (127)	13.4	71.7	1.6	6.3	3.1	1.6	0.8	22.0	7.9	6.3	3.9	3.9
60～69歳	100.0 (421)	7.1	69.4	1.4	3.3	35.2	3.1	-	14.0	10.9	2.4	2.6	3.3
70～79歳	100.0 (696)	3.3	56.2	0.3	1.7	64.7	0.4	-	6.2	14.9	2.9	1.0	3.7
80歳以上	100.0 (570)	1.9	43.0	-	1.8	79.6	-	-	2.3	21.1	2.8	0.7	2.8
（再掲）65歳以上	100.0 (1,511)	3.2	53.0	0.3	2.0	66.8	0.7	-	5.4	16.9	2.7	0.9	3.2

(13) 会社等での就労経験の有無一年齢階級、収入を伴う仕事の有無別

※仕事をしていない人及び福祉的就労をしている 2,059 人が対象。

過去、会社等で働いたこと（パート、アルバイト等を含む）がある割合は 79.7%

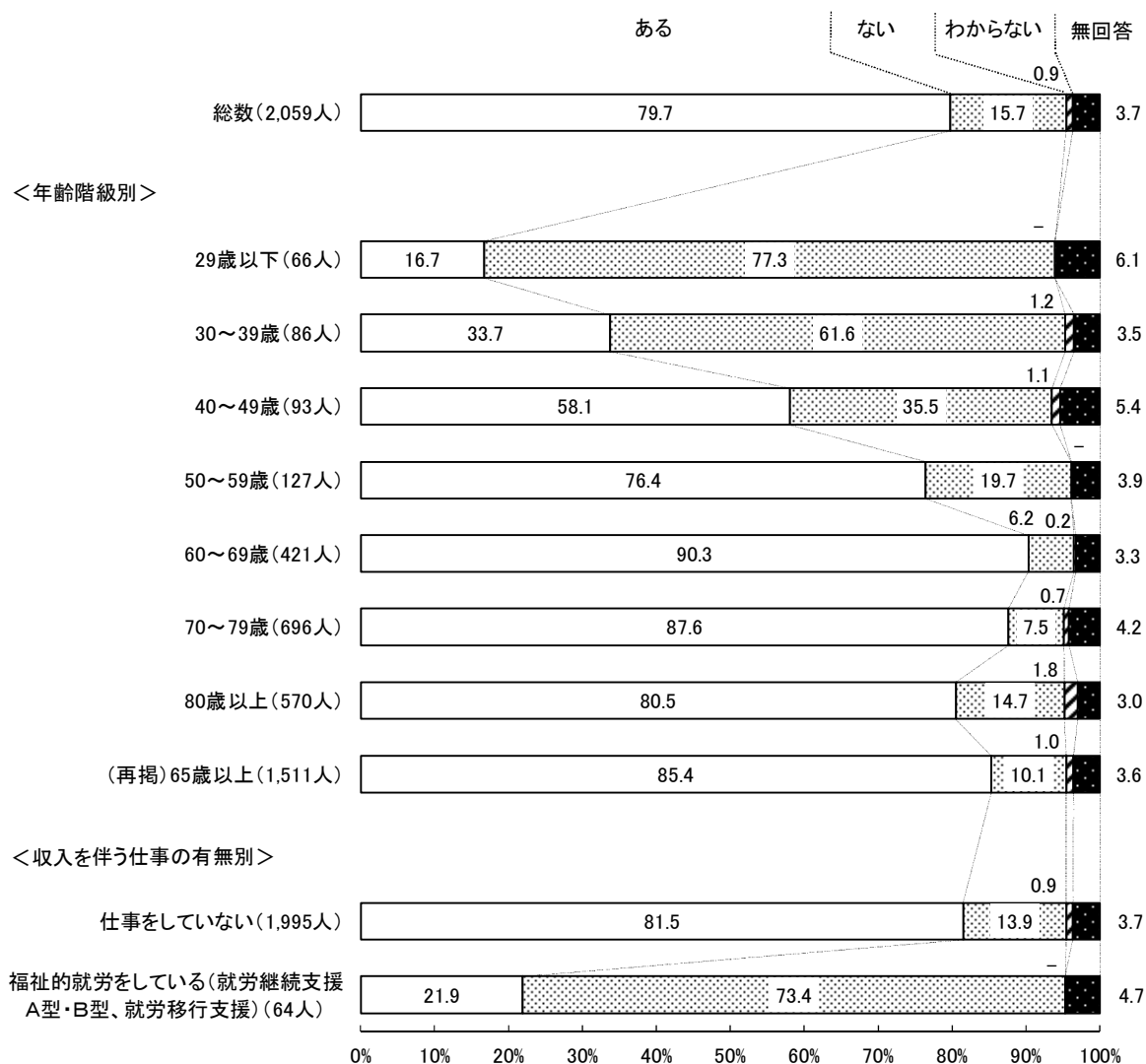
過去に会社等で働いたこと（パート、アルバイト等を含む）が「ある」と答えた割合は 79.7%、「ない」は 15.7%となっている。

収入を伴う仕事の有無別にみると、福祉的就労をしている人で、過去に会社等で働いたことが「ある」と答えた割合は 21.9%であった。

年齢階級別にみると、過去に会社等で働いたことが「ある」と回答した割合は 60 代で最も高く、9 割を超えている。（図Ⅱ-5-8）

問 あなたは、過去、会社等で働いたこと（パート、アルバイト等を含む）がありますか。

図Ⅱ-5-8 会社等での就労経験の有無一年齢階級、収入を伴う仕事の有無別



(14) 会社等での就労意向の有無－年齢階級別

※仕事をしていない人及び福祉的就労をしている人 2,059 人が対象

今後、会社等で働きたい（パート、アルバイト等を含む）割合は 12.9%

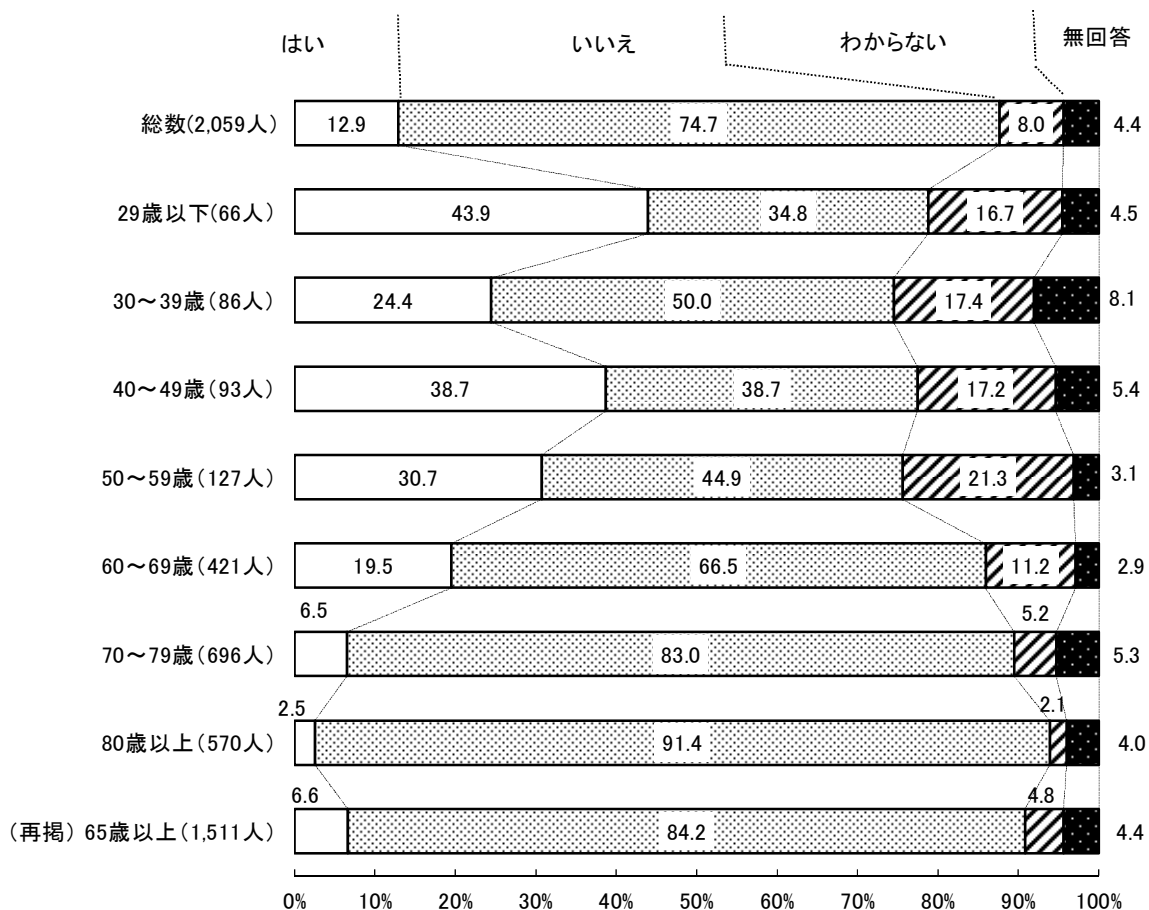
仕事をしていない人及び福祉的就労をしている人（2,059 人）に、今後、会社等で働きたいか聞いたところ、「はい」と答えた割合は 12.9%、「いいえ」は 74.7%であった。

年齢階級別にみると、「はい」と答えた割合は 29 歳以下で最も高く 43.9%となっている。

（図Ⅱ-5-9）

問 今後、会社等で働きたい（パート、アルバイト等を含む。）と思いますか。

図Ⅱ-5-9 会社等での就労意向の有無－年齢階級別



(15) 会社等で働くにあたって、心配なこと（課題）

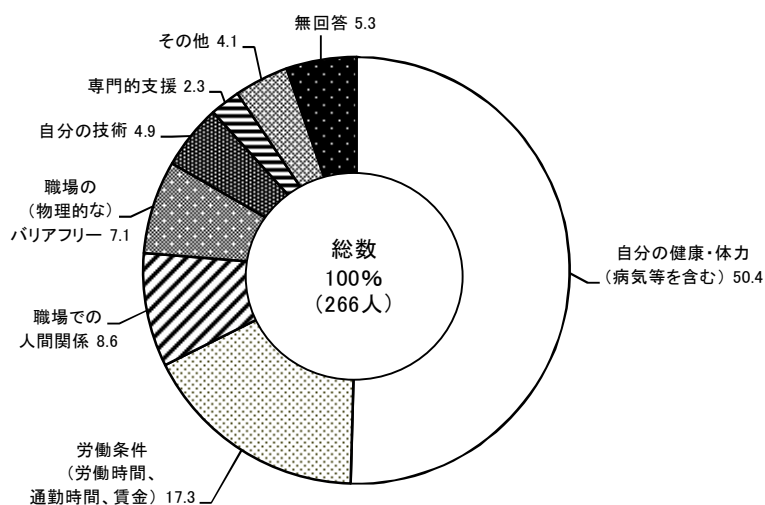
※仕事をしていない人及び福祉的就労をしている人の中で、今後、会社等で働きたい（パート、アルバイト等を含む）と答えた 266 人が対象

会社等で働くにあたって、心配なこと（課題）は「自分の健康・体力（病気等を含む）」の割合が高い

今後、会社等で働きたい（パート、アルバイト等を含む）と答えた 266 人に、会社等で働くにあたって、心配なこと（課題）を聞いたところ、「自分の健康・体力（病気等を含む）」の割合が最も高く 50.4%、次いで「労働条件（労働時間、通勤時間、賃金）」が 17.3%であった。（図Ⅱ-5-10）

問 会社等で働くにあたって、心配なこと（課題）は何ですか。

図Ⅱ-5-10 会社等で働くにあたって、心配なこと（課題）



6 経済基盤

(1) 収入の種類〔3つまでの複数回答〕－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

収入の種類は「年金・恩給」の割合が最も高く77.3%

平成24年中の収入の種類を聞いたところ、「年金・恩給」の割合が最も高く77.3%、次いで「手当」20.8%、「賃金・給料」17.9%となっている。

年齢階級別にみると、「賃金・給料」の割合は、30代から50代では4割を超え（41.2～49.5%）、総数（17.9%）を大幅に上回っている。（表Ⅱ-6-1）

問 平成24年中のあなたご自身の収入の種類についてお聞きします。

表Ⅱ-6-1 収入の種類〔3つまでの複数回答〕－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

		総数	賃金・給料	事業所得	内職収入	家賃・地代	利子・配当	仕送り・小遣い※	養育費・慰謝料	年金・恩給	生活保護費	手当	雇用保険	保険金・補償金	作業所等の工賃	その他の収入	収入はなかった	無回答
総数		100.0 (2,659)	17.9	3.0	0.6	5.9	1.8	1.4	0.0	77.3	7.4	20.8	0.4	0.6	1.9	1.9	3.1	1.1
身体障害者手帳の障害名	視覚障害	100.0 (403)	15.9	4.0	0.2	5.2	1.5	1.2	-	76.4	9.9	23.1	1.0	-	1.2	1.0	2.2	1.0
	聴覚障害	100.0 (376)	22.6	1.9	1.6	4.0	1.9	2.4	-	76.9	5.1	17.3	-	-	2.1	2.4	2.7	2.9
	平衡機能障害	100.0 (15)	6.7	-	6.7	20.0	-	6.7	-	80.0	-	20.0	-	-	-	6.7	6.7	-
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (280)	16.4	1.4	0.4	7.9	2.5	1.1	0.4	76.1	8.2	13.9	-	1.4	0.7	1.4	4.3	-
	肢体不自由(上肢)	100.0 (398)	13.6	1.8	0.3	4.3	2.0	2.3	-	75.6	8.0	26.4	0.8	1.3	2.8	2.5	4.5	1.3
	肢体不自由(下肢)	100.0 (548)	13.0	1.8	0.9	5.8	1.1	1.6	-	80.5	7.5	19.5	-	0.9	1.5	2.9	3.1	1.1
	肢体不自由(体幹)	100.0 (216)	8.8	0.9	0.5	7.4	1.4	0.9	-	77.8	10.6	29.2	-	0.9	2.3	2.3	3.2	1.4
	肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (228)	24.1	0.9	1.8	0.4	0.9	3.1	-	77.2	4.8	52.2	1.8	-	13.6	1.8	4.4	1.8
	内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸の機能の障害、免疫機能障害、肝臓)	100.0 (756)	17.3	4.6	0.3	8.1	2.6	0.7	-	79.2	7.8	16.3	0.3	0.8	0.4	1.5	2.5	0.4
	29歳以下	100.0 (87)	27.6	-	1.1	-	-	11.5	-	52.9	-	44.8	-	-	17.2	1.1	10.3	3.4
年齢階級別	30～39歳	100.0 (153)	41.2	0.7	1.3	0.7	1.3	0.7	0.7	61.4	4.6	42.5	2.0	2.0	7.8	2.0	4.6	1.3
	40～49歳	100.0 (198)	49.5	2.5	0.5	1.0	0.5	2.0	-	44.9	3.5	35.9	0.5	1.5	8.1	1.0	5.1	2.0
	50～59歳	100.0 (240)	43.8	2.5	0.4	5.0	1.3	1.7	-	44.6	9.6	31.7	0.4	2.1	1.7	2.1	6.3	1.7
	60～69歳	100.0 (567)	20.3	5.5	0.4	2.8	0.7	0.5	-	77.6	12.9	22.9	1.1	0.7	0.2	2.6	2.6	0.4
	70～79歳	100.0 (804)	6.7	3.5	0.9	7.8	2.4	0.9	-	90.4	7.0	14.1	-	0.1	0.2	1.7	1.5	0.5
	80歳以上	100.0 (610)	2.6	1.3	0.5	10.2	3.1	1.5	-	90.7	4.9	9.5	-	0.2	-	1.6	2.5	1.5
	(再掲) 65歳以上	100.0 (1,729)	7.1	2.9	0.6	7.7	2.4	1.0	-	89.1	7.2	13.8	0.1	0.3	0.1	1.8	1.9	0.8
20年度		100.0 (2,762)	19.6	2.9	0.3	5.6	1.1	0.8	-	76.5	7.0	22.8	0.3	0.4	2.2	3.0	3.5	1.0

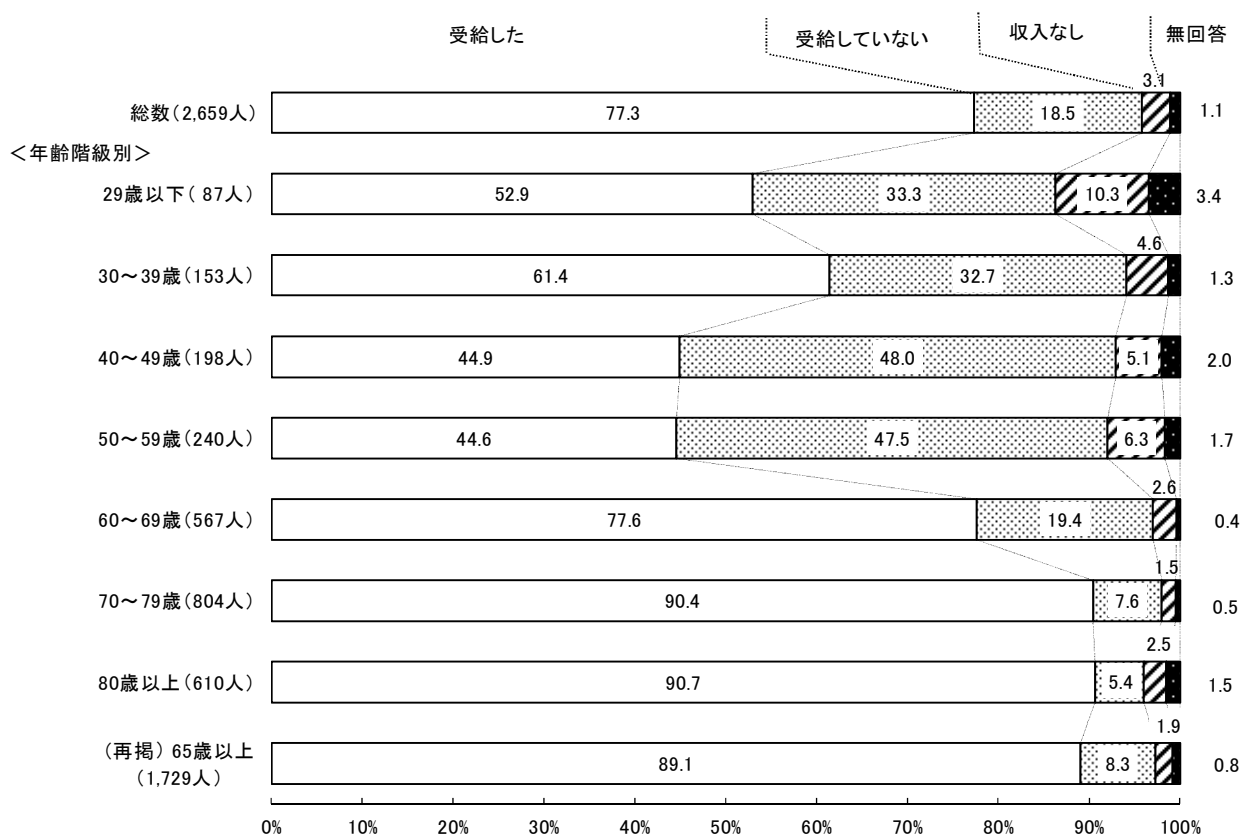
(注)※は20年度調査では「仕送り」としていた。

(2) 年金・恩給の受給の有無一年齢階級別

平成24年中に年金・恩給を「受給した」は77.3%、「受給していない」が18.5%となっている。

年齢階級別にみると、「受給した」の割合は30代では6割を超えている。(図Ⅱ-6-1)

図Ⅱ-6-1 年金・恩給の受給の有無一年齢階級別



(3) 年金・恩給の収入額－年齢階級別

※年金・恩給を受給している 2,056 人が対象

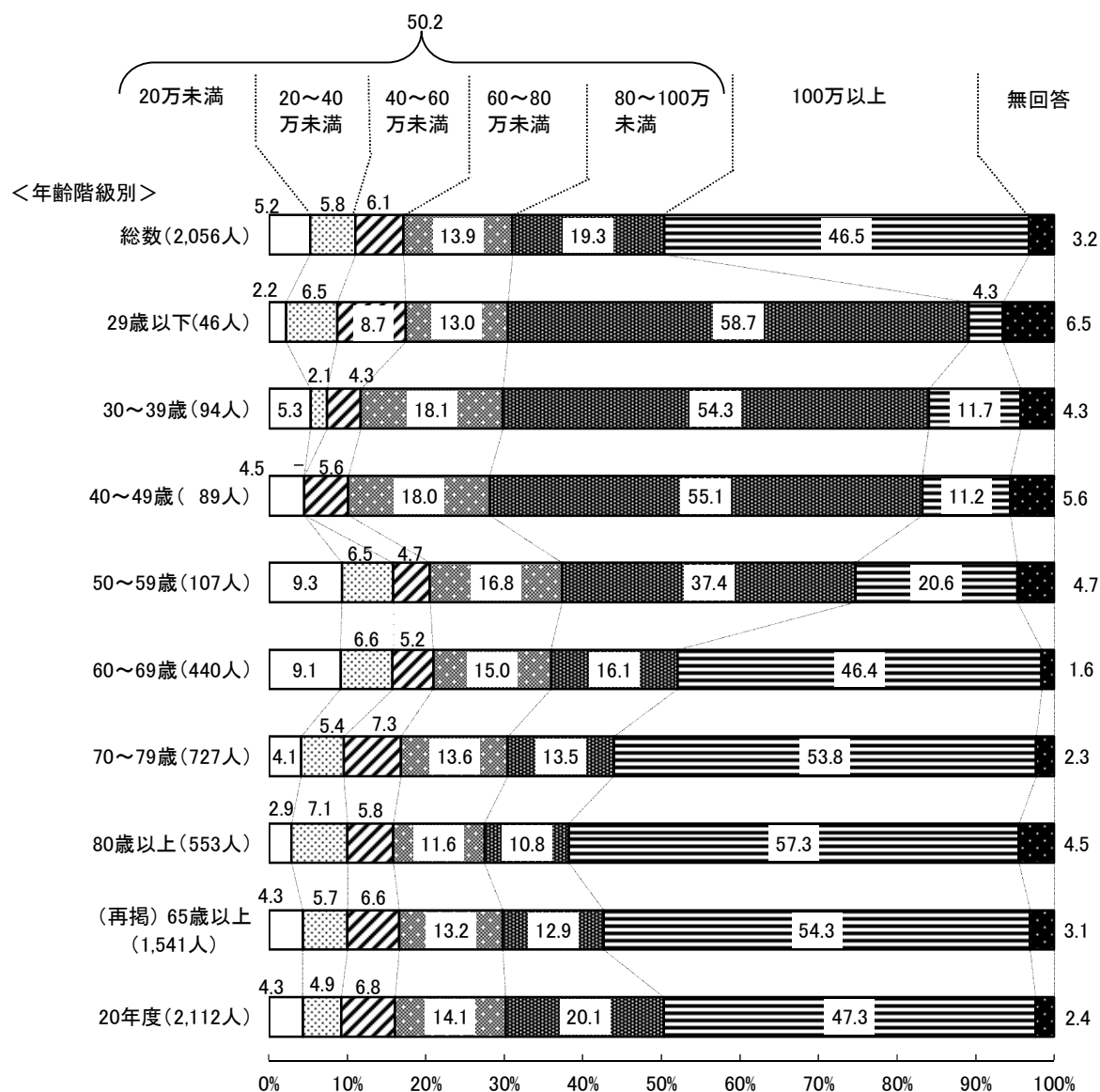
年金・恩給の収入額は「100万円未満」の割合が5割

平成 24 年中における年金・恩給の収入額は「100 万円未満」の割合が 50.2%、「100 万円以上」の割合は 46.5%となっている。

年齢階級別にみると、59 歳以下では「80～100 万円未満」の割合が最も高く、60 歳以上では「100 万円以上」の割合が最も高くなっている。(図Ⅱ-6-2)

問 平成24年中における年金・恩給の収入額はいくらですか。

図Ⅱ-6-2 年金・恩給の収入額－年齢階級別

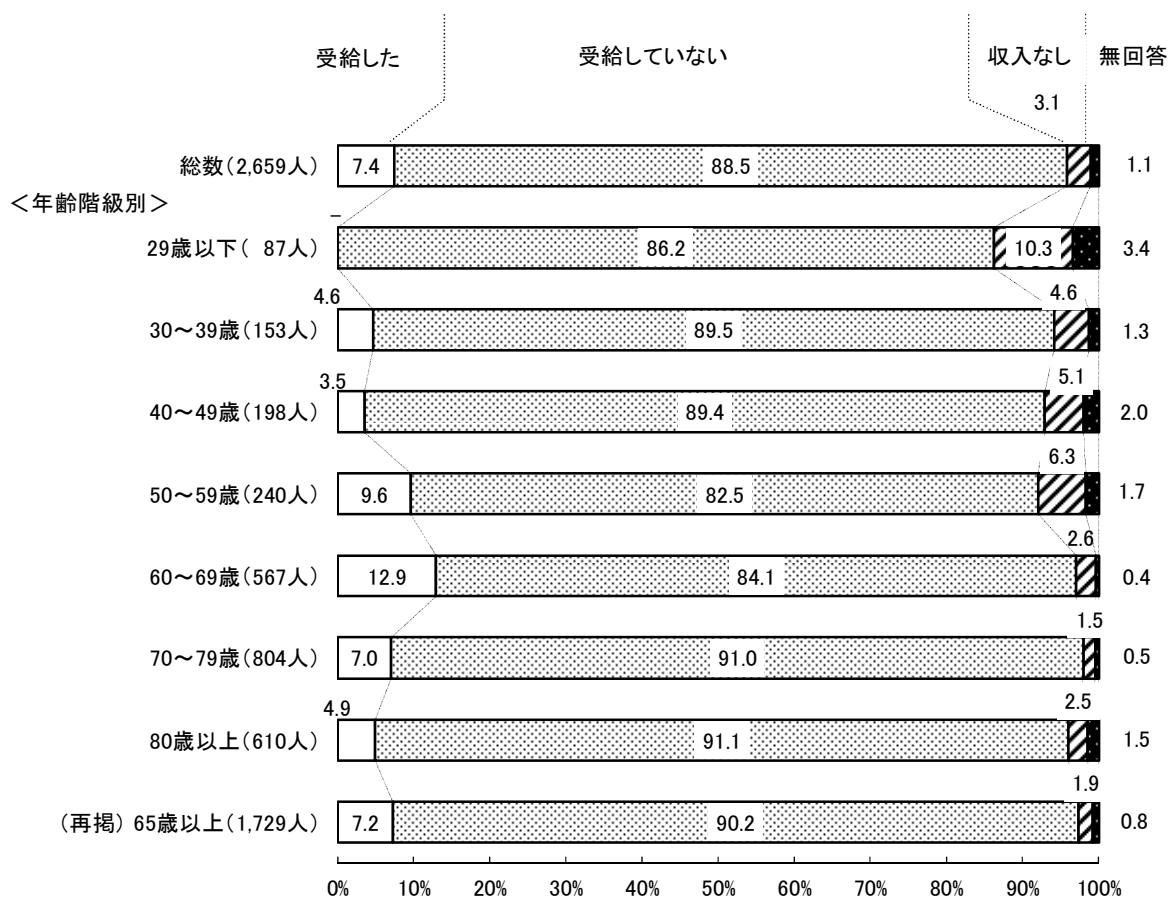


(4) 生活保護の受給の有無一年齢階級別

平成 24 年中に生活保護を「受給した」割合は 7.4%、「受給していない」は 88.5%であった。

年齢階級別にみると、「受給した」割合は 60 代が最も高く 12.9%となっている。(図Ⅱ-6-3)

図Ⅱ-6-3 生活保護の受給の有無一年齢階級別



(5) 平成24年中の収入額（生活保護費を除く）－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

ねんしゅう まんえん まんえんみ まん わりあい もっと たか
 年収は「50万円～100万円未満」の割合が最も高い

平成24年中の収入額は「50～100万円未満」の割合が最も高く19.2%、次いで「100～150万円未満」が15.3%である。（表Ⅱ-6-2）

とひ へいせい ねんちゅう しゅうにゅうがく しゅうにゅう じしん はたら え
 問 あなたの平成24年中の収入額はいくらですか。収入には、ご自身で働いて得た
 しゅうにゅう しゅうろうけいぞくしえんじぎょうしよ しゅうにゅう ねんきん てあて しゅうにゅう
 収入や就労継続支援事業所などからの収入のほか、あなたの年金・手当による収入
 かぞく しおく こづか ふく せいかつ ほご のぞ
 や家族からの仕送りや小遣いを含みますが、生活保護費は除きます。

表Ⅱ-6-2 平成24年中の収入額（生活保護費を除く）－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

		総 数	収 入 な し	5 0 万 円 未 満	5 0 万 円 未 満 1 0 万 円 未 満	1 0 万 円 未 満 1 5 万 円 未 満	1 5 万 円 未 満 2 0 万 円 未 満	2 0 万 円 未 満 2 5 万 円 未 満	2 5 万 円 未 満 3 0 万 円 未 満	3 0 万 円 未 満 3 5 万 円 未 満	3 5 万 円 未 満 4 0 万 円 未 満	4 0 万 円 未 満 4 5 万 円 未 満	4 5 万 円 未 満 5 0 万 円 未 満	5 0 万 円 未 満 6 0 万 円 未 満	6 0 万 円 未 満 7 0 万 円 未 満	7 0 万 円 未 満 8 0 万 円 未 満	8 0 万 円 未 満 9 0 万 円 未 満	9 0 万 円 未 満 1 0 0 万 円 未 満	無 回 答	
総 数		100.0 (2,659)	7.1	9.6	19.2	15.3	9.8	10.6	6.9	6.5	3.9	2.2	1.0	3.0	4.9					
身体障害者手帳の障害名（複数回答）別	視覚障害	100.0 (403)	7.4	9.4	18.9	20.3	7.9	7.7	6.2	5.7	4.0	2.0	1.0	3.2	6.2					
	聴覚障害	100.0 (376)	6.4	9.3	18.1	18.4	9.6	7.7	6.6	7.2	5.1	2.9	1.1	1.3	6.4					
	平衡機能障害	100.0 (15)	6.7	6.7	13.3	13.3	-	20.0	20.0	-	-	-	-	-	20.0					
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (280)	9.3	8.2	15.4	13.9	7.9	12.9	7.1	11.1	5.0	2.1	0.4	2.8	3.9					
	肢体不自由（上肢）	100.0 (398)	7.3	13.3	19.3	15.6	10.6	11.3	4.5	5.5	2.8	2.0	1.0	1.5	5.3					
	肢体不自由（下肢）	100.0 (548)	6.4	12.2	23.7	15.5	8.9	11.7	4.6	5.5	2.6	1.8	0.7	1.9	4.6					
	肢体不自由（体幹）	100.0 (216)	10.6	6.5	19.4	17.6	13.0	10.2	5.1	6.0	1.9	2.3	0.9	1.0	5.6					
	肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）	100.0 (228)	5.3	7.5	23.7	19.7	11.0	12.7	4.4	4.4	1.3	1.8	0.4	0.8	7.0					
	内部障害（心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸の機能の障害、免疫機能障害、肝臓）	100.0 (756)	6.6	9.4	17.2	11.5	11.0	11.1	10.2	6.3	4.8	2.4	1.5	4.9	3.2					
年 齢 階 級 別	29歳以下	100.0 (87)	11.5	18.4	14.9	12.6	12.6	9.2	4.6	5.7	-	2.3	-	-	8.0					
	30～39歳	100.0 (153)	7.8	7.8	19.0	17.0	8.5	11.1	3.9	8.5	5.9	3.9	1.3	0.7	4.6					
	40～49歳	100.0 (198)	7.6	6.6	17.7	10.1	9.6	10.6	3.5	5.6	9.6	4.5	3.0	6.6	5.1					
	50～59歳	100.0 (240)	10.4	11.3	15.0	10.4	9.2	5.0	4.2	6.3	7.5	5.0	2.1	8.4	5.4					
	60～69歳	100.0 (567)	9.9	12.2	15.9	18.3	9.0	10.6	6.5	6.3	2.8	1.4	0.7	3.7	2.6					
	70～79歳	100.0 (804)	5.2	7.8	22.6	16.7	10.9	12.4	8.5	5.6	2.9	1.2	0.5	1.5	4.1					
	80歳以上	100.0 (610)	4.8	9.2	20.7	14.1	9.3	10.3	8.4	8.0	3.1	2.0	1.0	2.0	7.2					
	（再掲）65歳以上	100.0 (1,729)	5.7	8.7	21.3	16.7	10.1	10.8	8.1	6.5	3.1	1.3	0.8	2.0	5.0					
	20年度		100.0 (2,762)	6.8	9.1	20.5	15.8	10.8	9.9	7.1	6.8	3.1	2.0	1.3	3.1	3.8				

7 社会参加等

(1) 平日の日中主に過ごしたところ－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

「^{じぶん いえ}自分の家」の割合が最も高く 72.8%、次いで職場（^{しょくば}福祉的就労の施設を除く）が 14.3%

平日の日中主に過ごしたところについて聞いたところ、「自分の家」の割合が 72.8%と最も高く、次いで「職場（福祉的就労の施設を除く）」が 14.3%、「通所施設（デイケア、地域活動支援センター等を含む・福祉的就労の施設を除く）」が 4.1%と続く。（表Ⅱ-7-1）

問 この1年間にあなたは、平日の日中主にどこで過ごしましたか。

表Ⅱ-7-1 平日の日中主に過ごしたところ－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

		総 数	自 分 の 家	職 場 （ 福 祉 的 就 労 の 施 設 を 除 く ）	職 場 （ 福 祉 的 就 労 の 施 設 ）	学 校	福 祉 的 就 労 の 施 設 は 除 く ・ 通 所 施 設 （ デ イ ケ ア ・ 地 域 ・ 活 動 支 援 セ ン タ ー 等 を 含 む ）	入 所 施 設 ・ 入 院 施 設	そ の 他	無 回 答
総 数		100.0 (2,659)	72.8	14.3	2.0	0.9	4.1	2.9	2.0	1.0
身 体 障 害 者 手 帳 の 障 害 名 〔 複 数 回 答 〕 別	視覚障害	100.0 (403)	73.9	13.2	1.5	1.5	3.0	3.7	2.2	1.0
	聴覚障害	100.0 (376)	72.3	17.8	1.3	0.8	1.9	1.9	2.4	1.6
	平衡機能障害	100.0 (15)	86.7	6.7	－	－	6.7	－	－	－
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (280)	78.9	11.4	1.4	－	3.2	2.5	1.4	1.1
	肢体不自由（上肢）	100.0 (398)	73.4	10.8	2.0	0.8	4.5	6.0	1.8	0.8
	肢体不自由（下肢）	100.0 (548)	79.4	8.9	1.1	0.4	3.3	4.6	1.3	1.1
	肢体不自由（体幹）	100.0 (216)	63.4	6.9	3.2	1.4	12.0	9.3	3.2	0.5
	肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）	100.0 (228)	35.1	20.6	15.4	2.2	17.5	5.3	1.3	2.6
	内部障害（心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸の機能の障害、免疫機能障害、肝臓）	100.0 (756)	79.9	14.4	0.4	0.4	1.6	0.8	2.0	0.5
年 齢 階 級 別	29歳以下	100.0 (87)	13.8	20.7	19.5	17.2	21.8	3.4	1.1	2.3
	30～39歳	100.0 (153)	29.4	35.3	9.2	2.6	17.0	3.9	1.3	1.3
	40～49歳	100.0 (198)	36.4	45.5	6.6	0.5	6.1	2.0	2.5	0.5
	50～59歳	100.0 (240)	53.3	36.7	2.1	0.8	1.3	2.9	1.7	1.3
	60～69歳	100.0 (567)	79.0	15.0	0.5	0.2	1.1	0.5	2.6	1.1
	70～79歳	100.0 (804)	87.1	5.0	0.1	－	2.5	2.2	2.0	1.1
	80歳以上	100.0 (610)	87.2	1.0	－	－	3.9	5.9	1.5	0.5
	（再掲）65歳以上	100.0 (1,729)	86.7	4.7	0.1	0.1	2.7	3.2	1.8	0.8

（注）選択肢が異なるため、20 年度調査との比較は行わない。

(2) 現在利用している施設に満足しているか－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

※平日の日中主に職場（福祉的就労の施設）または通所施設（デイケア、地域活動支援センター等を含む・福祉的就労の施設は除く）で過ごしている 163 人が対象

現在利用している施設に満足している（「とても満足している」＋「満足している」＋「だいたい満足している」）割合は 71.2%。そのうち、「とても満足している」割合は 20.9%

平日の日中主に職場（福祉的就労の施設）または通所施設（デイケア、地域活動支援センター等を含む・福祉的就労の施設は除く）で過ごしている人で、現在利用している施設に「とても満足している」と答えた割合は 20.9%、「満足している」（25.2%）及び「だいたい満足している」（25.2%）と合わせると、7 割以上の人満足していると回答している。一方で、不満である（「やや不満である」（4.3%）「不満である」（3.7%）「とても不満である」（1.2%））と回答した人は 9.2%であった。（表Ⅱ-7-2）

問 あなたは、現在利用している施設に対して満足していますか。

表Ⅱ-7-2 現在利用している施設に満足しているか－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

		総数	とても満足している	満足している	だいたい満足している	ふつう	やや不満である	不満である	とても不満である	無回答
総数		100.0 (163)	20.9	25.2	25.2	15.3	4.3	3.7	1.2	4.3
			71.2				9.2			
身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕別	視覚障害	100.0 (18)	11.1	33.3	16.7	27.8	-	11.1	-	-
	聴覚障害	100.0 (12)	25.0	25.0	16.7	16.7	8.3	-	-	8.3
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (13)	38.5	23.1	23.1	-	-	-	7.7	7.7
	肢体不自由(上肢)	100.0 (26)	15.4	26.9	26.9	11.5	3.8	3.8	-	11.5
	肢体不自由(下肢)	100.0 (24)	12.5	20.8	37.5	16.7	-	-	-	12.5
	肢体不自由(体幹)	100.0 (33)	6.1	42.4	24.2	15.2	6.1	3.0	-	3.0
	肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (75)	25.3	18.7	24.0	17.3	5.3	5.3	1.3	2.7
	内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸の機能の障害、免疫機能障害、肝臓)	100.0 (15)	26.7	20.0	26.7	13.3	13.3	-	-	-
年齢階級別	29歳以下	100.0 (36)	16.7	19.4	30.6	16.7	2.8	5.6	-	8.3
	30～39歳	100.0 (40)	20.0	37.5	20.0	10.0	5.0	2.5	-	5.0
	40～49歳	100.0 (25)	16.0	8.0	28.0	24.0	12.0	8.0	4.0	-
	50～59歳	100.0 (8)	25.0	25.0	12.5	25.0	-	-	-	12.5
	60～69歳	100.0 (9)	33.3	22.2	11.1	11.1	-	11.1	11.1	-
	70～79歳	100.0 (21)	23.8	23.8	33.3	14.3	4.8	-	-	-
	80歳以上	100.0 (24)	25.0	33.3	25.0	12.5	-	-	-	4.2
	(再掲) 65歳以上	100.0 (48)	25.0	29.2	27.1	14.6	2.1	-	-	2.1

(注) 平衡機能障害は、母集団が少数のため省略した。

(3) 趣味や社会活動への参加〔複数回答〕－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

20年度調査より「スポーツやレジャーなどの活動」の割合が2.6ポイント上昇

この1年間に行った趣味、学習、スポーツ、社会活動について聞いたところ、「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞、見物」の割合が27.8%と最も高く、次いで「スポーツやレジャーなどの活動」が18.9%となっている。一方で、「活動したいと思うができない」の割合も26.2%にのぼる。

年齢階級別にみると「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞、見物」の割合は、29歳以下と40代で5割を超えている。

20年度調査と比べると、「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞、見物」は2.2ポイント上昇、「スポーツやレジャーなどの活動」は2.6ポイント上昇している。(表Ⅱ-7-3)

この1年間にあなたは、趣味や学習、スポーツ、社会活動などの活動をしましたか。

表Ⅱ-7-3 趣味や社会活動への参加〔複数回答〕－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

	総数	コンサートや映画、見物、スポーツなどの鑑賞	スポーツやレジャーなどの活動	学習活動	趣味のサークル活動	ボランティア活動やNPO活動	障害者団体などの活動	参加できる活動場所がない	活動をしたと思うができない	活動したいと思わない	その他	無回答
総数	100.0 (2,659)	27.8	18.9	7.7	14.2	5.6	5.6	2.3	26.2	20.5	7.3	3.9
身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕別												
視覚障害	100.0 (403)	23.3	17.1	9.4	16.4	4.7	8.2	2.0	27.5	21.3	7.9	3.5
聴覚障害	100.0 (376)	27.1	23.1	7.4	14.9	6.6	6.6	2.9	21.8	21.8	6.4	4.8
平衡機能障害	100.0 (15)	6.7	6.7	-	6.7	6.7	6.7	-	60.0	13.3	13.3	6.7
音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (280)	27.9	15.4	6.1	10.4	3.9	7.5	3.9	23.6	23.9	6.8	4.3
肢体不自由(上肢)	100.0 (398)	24.4	12.8	6.0	12.1	4.5	4.8	2.5	31.9	19.8	8.0	5.0
肢体不自由(下肢)	100.0 (548)	24.6	13.9	5.8	15.9	5.8	3.1	2.0	29.6	21.0	9.1	3.1
肢体不自由(体幹)	100.0 (216)	22.7	10.6	6.5	8.3	1.9	9.3	2.3	34.3	23.1	5.6	5.1
肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (228)	40.8	27.2	8.3	14.9	6.6	18.4	3.9	21.5	11.4	5.3	6.6
内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸の機能の障害、免疫機能障害、肝臓)	100.0 (756)	27.5	19.8	7.8	12.8	6.1	2.4	1.5	27.1	20.1	8.9	2.6
年齢階級別												
29歳以下	100.0 (87)	55.2	46.0	24.1	18.4	11.5	18.4	1.1	12.6	5.7	4.6	8.0
30～39歳	100.0 (153)	46.4	33.3	14.4	15.0	3.9	16.3	1.3	17.6	11.8	3.9	2.0
40～49歳	100.0 (198)	55.1	33.8	14.1	12.6	6.1	12.1	2.5	14.1	10.1	4.0	4.0
50～59歳	100.0 (240)	33.3	24.2	9.2	9.2	5.4	9.6	2.5	24.2	12.9	7.5	6.7
60～69歳	100.0 (567)	27.5	17.3	7.2	13.8	8.3	5.1	2.8	29.6	18.2	7.8	3.2
70～79歳	100.0 (804)	23.6	17.0	6.1	16.8	5.6	2.7	1.7	27.5	22.1	8.0	3.2
80歳以上	100.0 (610)	13.8	8.5	3.8	13.0	2.8	1.6	2.8	30.0	31.1	8.2	4.1
(再掲) 65歳以上	100.0 (1,729)	21.1	14.4	5.1	14.6	5.4	2.8	2.3	28.7	24.2	8.2	3.5
20年度	100.0 (2,762)	25.6	16.3	7.4	15.9	5.9	4.9	1.6	26.8	19.8	8.1	5.1

(4) 社会参加をする上で妨げになっていること〔3つまでの複数回答〕

－障害名〔複数回答〕、平日の日中主に過ごしたところ別

「電車やバスなどを使つての移動が不便」、^{「道路や駅などの利用が不便」}の割合は
20年度調査よりも減少

社会参加をする上で妨げになっていることを聞いたところ、「電車やバスなどを使つての移動が不便」(19.0%)、「道路や駅などの利用が不便」(17.4%)の割合が高くなっている。一方で、「特にない」と答えた割合は46.6%であった。

平日の日中主に過ごしたところ別にみると、職場（福祉的就労の施設）で過ごしている人は「電車やバスなどを使つての移動が不便」(41.5%)、「道路や駅などの利用が不便」(39.6%)の割合が高いのが目立つ。

20年度調査と比べると「道路や駅などの利用が不便」の割合は3.1ポイント減少、「まわりの人の障害者に対する理解不足」も2.6ポイント減少した。（表Ⅱ-7-4）

問 あなたが社会参加をする上で、妨げになっていることはありますか。

表Ⅱ-7-4 社会参加する上で妨げになっていること〔3つまでの複数回答〕

－障害名〔複数回答〕、平日の日中主に過ごしたところ別

	総数	道路や駅などの利用が不便	電車やバスなどを使つての移動が不便	利用する建物の設備が整備されていない	点字版が古い、破損等により利用が不便	介助者がいない	情報がない	連絡などの問合せができない	FAX番号やメールアドレスなど連絡方法の整備がされていないため、参加	まわりの人の障害者に対する理解不足	障害を理由に施設等の利用を拒否される	適切な指導者がいない	一緒に行く仲間がいない	通訳・文字表示、点字など配慮がされていない	障害者の参加を想定していないため、	その他	特にない	無回答
総数	100.0 (2,659)	17.4	19.0	5.8	0.4	8.8	4.7	2.1	8.3	0.9	2.1	7.0	2.7	11.1	46.6	3.2		
身体障害者手帳の障害名（複数回答）別																		
視覚障害	100.0 (403)	26.1	23.8	6.5	2.0	15.9	5.0	0.5	8.2	0.7	1.2	6.7	6.0	8.9	37.0	4.0		
聴覚障害	100.0 (376)	8.5	10.6	1.1	0.5	8.0	10.9	8.2	12.2	1.6	2.1	9.3	8.5	10.1	46.8	3.7		
平衡機能障害	100.0 (15)	20.0	13.3	-	-	20.0	6.7	-	13.3	-	6.7	20.0	-	13.3	40.0	-		
音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (280)	9.6	10.7	2.1	-	7.5	4.3	5.7	11.8	1.1	3.6	7.9	2.9	15.7	45.7	3.9		
肢体不自由(上肢)	100.0 (398)	19.6	27.9	9.0	-	12.1	3.3	1.8	7.0	0.3	1.5	7.3	0.3	12.6	39.4	3.5		
肢体不自由(下肢)	100.0 (548)	23.0	27.4	8.4	-	9.5	3.5	1.5	5.8	0.5	2.4	5.7	0.4	9.7	44.9	2.7		
肢体不自由(体幹)	100.0 (216)	26.4	27.3	9.7	-	18.5	3.7	0.9	7.9	0.5	0.9	7.9	0.9	16.2	32.4	4.2		
肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (228)	25.4	27.6	14.5	0.4	14.0	4.4	0.4	13.2	3.1	3.9	7.5	1.8	10.5	26.8	6.6		
内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸の機能の障害、免疫機能障害、肝臓)	100.0 (756)	12.0	13.1	3.8	-	3.8	3.2	0.3	5.3	0.3	2.2	6.1	0.4	12.3	60.4	2.0		
過ごしたところ別																		
自分の家	100.0 (1,937)	17.7	19.8	5.3	0.4	9.3	4.3	1.8	7.0	0.6	2.2	7.6	2.1	12.3	47.2	2.2		
職場(福祉的就労の施設を除く)	100.0 (381)	12.6	12.1	6.6	0.3	1.6	6.6	5.0	13.9	1.8	1.6	5.0	6.6	3.7	56.4	2.1		
職場(福祉的就労の施設)	100.0 (53)	39.6	41.5	9.4	3.8	13.2	9.4	1.9	13.2	-	7.5	13.2	3.8	5.7	17.0	5.7		
学校	100.0 (23)	30.4	30.4	17.4	-	-	8.7	-	13.0	8.7	-	4.3	8.7	4.3	39.1	-		
通所施設(デイケア、地域活動支援センター等を含む・福祉的就労の施設は除く)	100.0 (110)	20.9	24.5	5.5	-	22.7	2.7	-	10.0	0.9	1.8	5.5	0.9	12.7	34.5	4.5		
入所施設	100.0 (77)	13.0	15.6	9.1	-	16.9	3.9	1.3	5.2	-	-	3.9	-	18.2	36.4	13.0		
その他	100.0 (52)	17.3	15.4	5.8	-	5.8	5.8	1.9	13.5	1.9	-	1.9	3.8	21.2	36.5	5.8		
20年度	100.0 (2,762)	20.5	21.5	7.8	0.3	7.9	5.0	1.8	10.9	0.9	1.6	6.3	2.6	12.7	41.8	5.0		

(5) 障害のためにあきらめたり妥協したこと〔複数回答〕

－障害名〔複数回答〕、障害者になった時期別

しょうがい 障害のためにあきらめたり だきょう 妥協したことは「りょこう えんきより がいしゅつ 旅行や遠距離の外出」の割合が最も高い

障害のためにあきらめたり、妥協せざるを得なかったことは「旅行や遠距離の外出」の割合が39.9%と最も高い。障害名別にみると「旅行や遠距離の外出」の割合は、肢体不自由（体幹）で5割を超えている。

20年度調査と比べると「旅行や遠距離の外出」が1.6ポイント、「スポーツ・文化活動」が2.0ポイント、それぞれ減少している。（表Ⅱ-7-5）

問 あなたはしょうがい 障害があるためにあきらめたり、だきょう 妥協せざるを得なかったことがありますか。

表Ⅱ-7-5 障害のためにあきらめたり妥協したこと〔複数回答〕

－障害名〔複数回答〕、障害者になった時期別

	総数	進学	就職	異性との付き合い	結婚	出産・育児	人付き合い	近距離の外出	旅行や遠距離の外出	おしゃべりやファッションなどの	スポーツ・文化活動	その他	特にない	無回答
総数	100.0 (2,659)	4.6	12.9	5.6	6.4	3.0	16.2	19.3	39.9	8.1	22.0	3.7	36.7	2.8
身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕別														
視覚障害	100.0 (403)	5.5	13.4	5.0	5.2	2.2	17.4	28.8	45.7	11.9	27.8	5.7	30.3	3.0
聴覚障害	100.0 (376)	7.4	12.2	5.6	5.9	3.2	21.3	9.0	21.8	4.0	14.1	2.4	45.7	3.5
平衡機能障害	100.0 (15)	－	13.3	6.7	6.7	－	20.0	40.0	46.7	13.3	20.0	6.7	26.7	－
音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (280)	2.9	14.6	4.3	4.6	2.1	25.0	16.1	33.2	6.4	18.9	4.3	40.7	3.2
肢体不自由(上肢)	100.0 (398)	4.5	15.6	6.3	7.0	3.3	16.8	25.1	45.7	13.1	25.6	5.5	31.4	1.8
肢体不自由(下肢)	100.0 (548)	2.4	11.3	3.6	5.1	2.2	15.1	27.2	48.5	13.7	26.5	3.5	32.7	1.5
肢体不自由(体幹)	100.0 (216)	7.4	17.6	10.2	10.2	6.9	22.2	39.4	52.3	13.4	29.6	4.2	24.1	4.6
肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (228)	19.7	29.4	21.1	25.9	10.5	19.7	19.3	35.5	15.4	23.2	3.5	23.7	7.0
内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸の機能の障害、免疫機能障害、肝臓)	100.0 (756)	0.4	8.1	2.0	2.6	1.9	10.8	14.7	45.4	4.0	20.8	3.7	41.1	1.5
障害者になった時期別														
出生前または出生時	100.0 (337)	16.9	23.4	18.4	22.0	10.7	18.4	12.8	27.9	11.3	21.4	3.3	30.6	5.0
0～3歳	100.0 (112)	18.8	23.2	17.0	18.8	8.0	22.3	15.2	35.7	10.7	23.2	2.7	31.3	1.8
4～12歳	100.0 (63)	19.0	22.2	9.5	11.1	6.3	20.6	14.3	22.2	6.3	17.5	1.6	38.1	1.6
13～17歳	100.0 (29)	34.5	41.4	13.8	17.2	20.7	24.1	17.2	34.5	31.0	24.1	6.9	24.1	6.9
18～29歳	100.0 (112)	4.5	31.3	9.8	13.4	6.3	17.0	19.6	37.5	8.9	29.5	6.3	28.6	－
30～39歳	100.0 (124)	0.8	21.0	7.3	8.9	4.8	21.8	18.5	35.5	7.3	28.2	5.6	35.5	0.8
40～49歳	100.0 (221)	0.9	18.1	5.9	5.0	1.8	14.9	21.3	48.9	14.5	27.6	6.3	27.6	2.3
50～59歳	100.0 (405)	1.0	12.3	1.5	2.5	0.5	16.5	21.0	47.2	7.4	27.4	4.2	33.1	3.0
60～69歳	100.0 (555)	－	5.8	0.4	0.4	0.2	13.2	19.8	41.8	5.6	20.2	3.1	43.8	1.3
70歳以上	100.0 (544)	0.2	1.8	0.7	0.2	－	13.6	23.2	46.0	5.3	16.5	2.4	42.6	2.9
(再掲)65歳以上	100.0 (814)	0.1	2.6	0.6	0.2	－	13.3	22.6	44.5	5.5	17.1	2.9	43.6	2.3
20年度	100.0 (2,762)	4.6	13.5	5.5	6.7	3.7	15.3	19.7	41.5	7.4	24.0	4.0	34.6	3.0

8 情報の入手やコミュニケーションの手段

(1) 情報の入手やコミュニケーションの手段（視覚障害者）〔複数回答〕

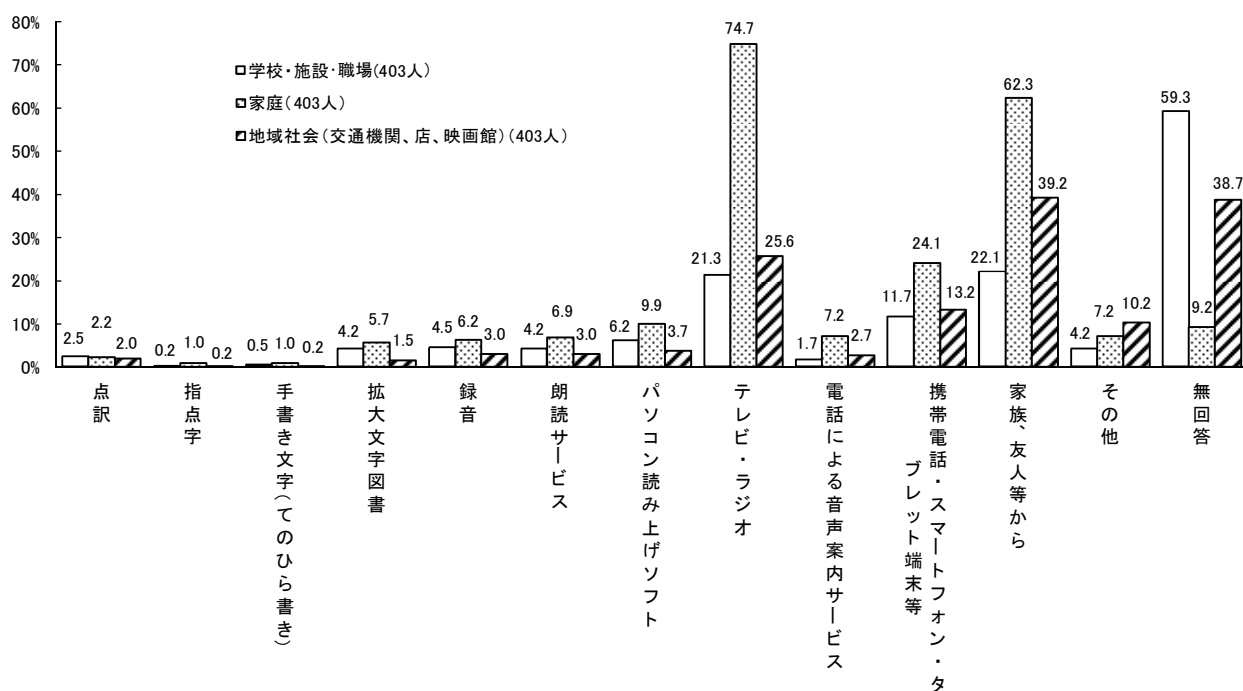
※視覚障害者 403 人が対象

視覚障害者の「学校・施設・職場」「地域社会（交通機関、店、映画館）」における情報の入手やコミュニケーションの手段は、「家族、友人等から」の割合が最も高い

視覚障害者 403 人に「学校・施設・職場」「家庭」「地域社会」のそれぞれの場所において情報の入手やコミュニケーションの手段について聞いた。それぞれ、最も高い割合は「学校・施設・職場」では、「家族、友人等から」の 22.1%、「家庭」では、「テレビ・ラジオ」の 74.7%、「地域社会（交通機関、店、映画館）」では「家族、友人等から」の 39.2%となっている。また、「携帯電話・スマートフォン・タブレット端末等」の割合は、「家庭」で最も高く 24.1%であった。（図Ⅱ-8-1）

問 あなたは、「学校・施設・職場」「家庭」「地域社会」のそれぞれの場所において、どのようにして情報を得たり、コミュニケーションをとったりしていますか。

図Ⅱ-8-1 情報の入手やコミュニケーションの手段（視覚障害者）〔複数回答〕



(2) 情報を入手したり、コミュニケーションをとる上で困ること（視覚障害者）

〔2つまでの複数回答〕※視覚障害者 403 人が対象

視覚障害者が情報を入手したり、コミュニケーションをとる上で困ることは、「初めて行くところでは、どのように行けばよいか迷う」の割合が最も高い

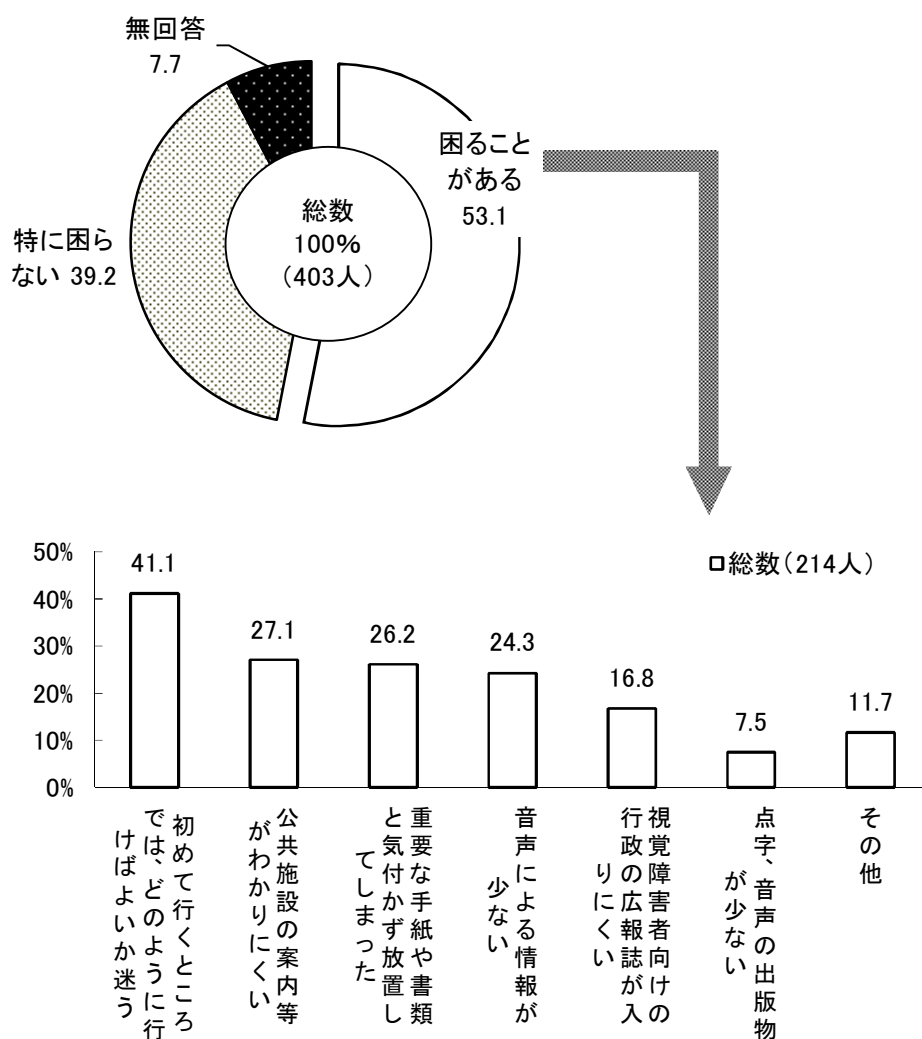
情報を入手したり、コミュニケーションをとる上で困ることがあるか聞いたところ「困ることがある」と答えた割合は 53.1%と半数以上の人困ることがあると回答した。

困る内容で最も割合が高かったのは、「初めて行くところでは、どのように行けばよいか迷う」で 41.1%であった。（図Ⅱ-8-2）

問 あなたは、情報を入手したり、コミュニケーションをとる上で困ることがありますか。

図Ⅱ-8-2 情報を入手したり、コミュニケーションをとる上で困ること（視覚障害者）

〔2つまでの複数回答〕



(3) 情報の入手やコミュニケーションの手段（聴覚障害者）〔複数回答〕

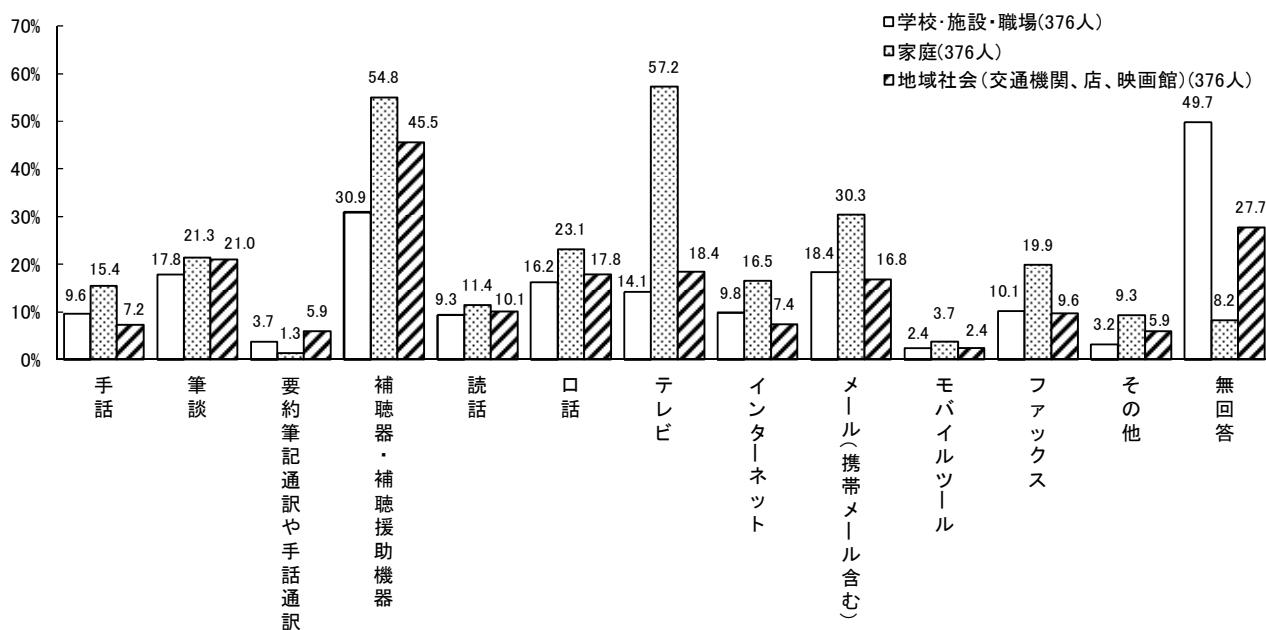
※聴覚障害者 376 人が対象

聴覚障害者の情報の入手やコミュニケーションの手段は、「学校・施設・職場」「地域社会（交通機関、店、映画館）」においては「補聴器・補聴援助機器」の割合が最も高い

聴覚障害者 376 人に「学校・施設・職場」「家庭」「地域社会」のそれぞれの場所において情報の入手やコミュニケーションの手段について聞いた。それぞれ、最も高い割合は「学校・施設・職場」では「補聴器・補聴援助機器」の 30.9%、「家庭」では「テレビ」の割合が 57.2%、「地域社会（交通機関、店、映画館）」では「補聴器・補聴援助機器」の 45.5%であった。また、「家庭」においては「メール（携帯メールを含む）」の割合が 30.3%と高い割合となっている。（図Ⅱ-8-3）

問 あなたは、「学校・施設・職場」「家庭」「地域社会」のそれぞれの場所において、どのようにして情報を得たり、コミュニケーションをとったりしていますか。

図Ⅱ-8-3 情報の入手やコミュニケーションの手段（聴覚障害者）〔複数回答〕



(4) 情報を入手したり、コミュニケーションをとる上で困ること（聴覚障害者）

〔2つまでの複数回答〕※聴覚障害者 376 人が対象

聴覚障害者が情報を入手したり、コミュニケーションをとる上で困ることは、「車内等での緊急・非常時の情報が入りにくい」の割合が最も高く、次いで「まわりの人と意思疎通が不十分なため人間関係がうまくいかない」となっており、いずれも3割を超えている

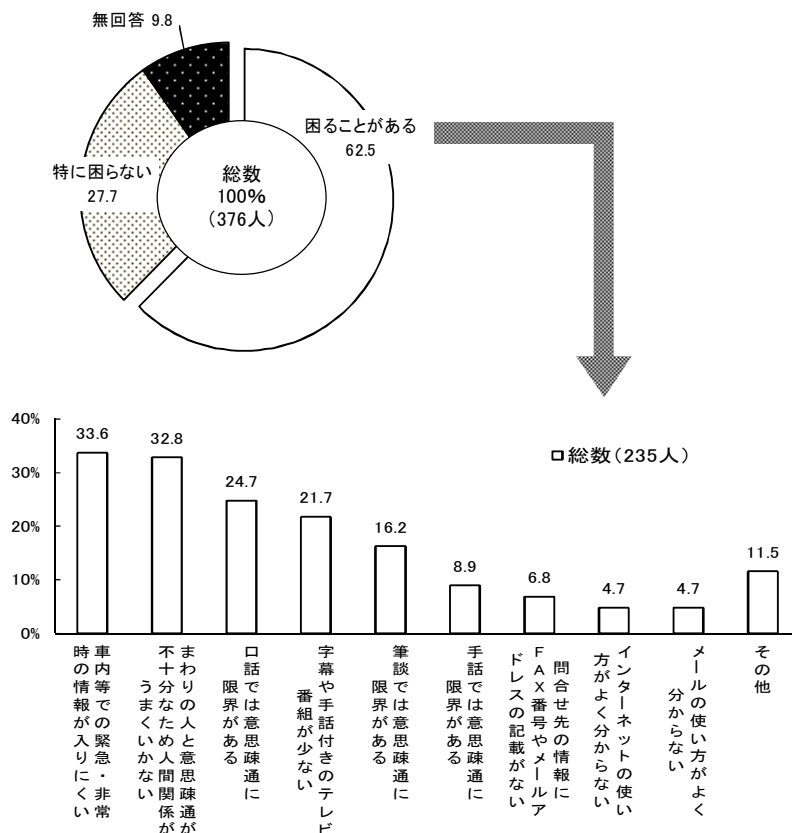
情報を入手したり、コミュニケーションをとる上で困ることがあるか聞いたところ「困ることがある」と答えた割合は62.5%と6割以上の方が困ることがあると回答した。

困る内容で最も割合が高かったのは「車内等での緊急・非常時の情報が入りにくい」(33.6%)、次いで「まわりの人との意思疎通が不十分なため人間関係がうまくいかない」(32.8%)となっており、いずれも3割を超えている。

困る内容で「その他」と回答した割合は11.5%となっており、その主な内容では「電話が聞き取りにくい、又は聞こえない」「補聴器を使用しても聞き取りにくい」等の意見がみられた。(図Ⅱ-8-4)

問 あなたは、情報を入手したり、コミュニケーションをとる上で困ることがありますか。

図Ⅱ-8-4 情報を入手したり、コミュニケーションをとる上で困ること（聴覚障害者）
〔2つまでの複数回答〕



(5) 意思を伝える場合に困ること〔複数回答〕－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

しょうがい 障害があるため、いし つた 意思を伝える場合に ばあい こま 困ることは「かいわ 会話」が 26.3%

障害があるため、意思を伝える場合に困ることがあるか聞いたところ、「会話」が 26.3%であったが、「困ることはない」の割合も 62.0%となっている。

障害名別にみると、「会話」の割合は音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害が 77.5%と最も高く、「筆記」の割合は平衡機能障害が 40.0%と最も高い。

年齢階級別にみると、29 歳以下では「会話」の割合が 44.8%と、総数（26.3%）に比べて高くなっているのが目立つ。（表Ⅱ-8-1）

とい 問 あなたは、しょうがい 障害があるため、いし つた 意思を伝える場合に ばあい こま 困ることがありますか。

表Ⅱ-8-1 意思を伝える場合に困ること〔複数回答〕－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

		総数	会話	筆記	その他	困ることはない	無回答
総数		100.0 (2,659)	<u>26.3</u>	15.2	3.5	<u>62.0</u>	3.2
身体障害者手帳の障害名（複数回答）別	視覚障害	100.0 (403)	12.4	27.5	4.5	59.1	2.5
	聴覚障害	100.0 (376)	58.2	18.1	5.3	31.6	2.9
	平衡機能障害	100.0 (15)	46.7	<u>40.0</u>	—	33.3	6.7
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (280)	<u>77.5</u>	26.4	6.4	13.9	3.6
	肢体不自由（上肢）	100.0 (398)	26.9	19.3	3.8	60.1	4.8
	肢体不自由（下肢）	100.0 (548)	18.4	11.5	2.7	71.9	4.6
	肢体不自由（体幹）	100.0 (216)	36.6	23.6	5.1	52.3	4.6
	肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）	100.0 (228)	40.4	27.6	8.3	39.9	7.9
	内部障害（心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸の機能の障害、免疫機能障害、肝臓）	100.0 (756)	4.9	3.8	0.9	91.0	1.5
年齢階級別	29歳以下	100.0 (87)	<u>44.8</u>	24.1	8.0	33.3	12.6
	30～39歳	100.0 (153)	37.3	24.2	9.2	45.1	3.3
	40～49歳	100.0 (198)	30.8	18.2	4.5	58.1	2.5
	50～59歳	100.0 (240)	31.3	20.0	2.9	54.6	3.8
	60～69歳	100.0 (567)	22.8	14.6	1.8	68.3	1.6
	70～79歳	100.0 (804)	25.0	14.1	2.7	64.4	2.7
	80歳以上	100.0 (610)	22.6	11.0	3.9	65.6	4.1
	（再掲）65歳以上	100.0 (1,729)	23.5	13.0	3.1	65.8	2.9

(6) 情報の入手やコミュニケーションを円滑にするために利用している日常生活用具

〔複数回答〕－障害名〔複数回答〕別

にちじょうせいかつようぐ りよう わりあい
日常生活用具を利用している割合は 11.8%

情報を入手したり、コミュニケーションを円滑にするための日常生活用具を「利用しているものがある」と答えた割合は 11.8%、「利用したいものはない」が 72.9%、「利用したいがメニューにない」が 3.5%であった。

利用している日常生活用具で最も割合が高かったのは、「ファックス」で 2.9%、次いで「盲人用時計」が 1.7%となっている。(表Ⅱ-8-2)

とい 問 あなたは、じょうほう にゆうしゆ えんかつ にちじょうせいかつ
ようぐきゆうふうとうじぎょう りよう にちじょうせいかつようぐ
用具給付等事業で利用している日常生活用具はありますか。

表Ⅱ-8-2 情報の入手やコミュニケーションを円滑にするために利用している
日常生活用具〔複数回答〕－障害名〔複数回答〕別

	総 数	利 用 し て い る も の が あ る	携 帯 用 会 話 補 助 装 置	情 報 ・ 通 信 支 援 用 具	点 字 デ ィ ス プ レ ィ	点 字 器	点 字 タ イ プ ラ イ タ ー	視 覚 障 害 者 ポ ー タ ブ ル レ コ ー ダ ー	視 覚 障 害 者 用 活 字 文 書 読 上 げ 装 置	器 視 覚 障 害 者 用 拡 大 読 書	盲 人 用 時 計
総数	100.0 (2,659)	11.8	0.8	0.7	0.3	0.6	0.3	1.2	0.6	1.6	1.7
視覚障害	100.0 (403)	29.3	－	4.0	2.0	3.7	2.2	7.7	4.0	10.4	10.9
聴覚障害	100.0 (376)	25.3	－	0.3	0.3	－	0.3	0.5	0.3	－	1.3
平衡機能障害	100.0 (15)	6.7	－	－	－	－	－	－	－	－	－
音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (280)	27.9	7.5	－	－	－	－	－	－	－	－
肢体不自由(上肢)	100.0 (398)	2.8	0.3	0.3	－	－	0.3	0.3	－	0.3	0.3
肢体不自由(下肢)	100.0 (548)	2.9	0.4	0.2	－	－	0.2	－	－	0.2	－
肢体不自由(体幹)	100.0 (216)	3.7	－	0.5	－	－	－	－	－	－	0.5
肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (228)	5.7	0.4	1.3	－	－	－	0.4	－	0.4	－
内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸の機能の障害、免疫機能障害、肝臓)	100.0 (756)	2.0	0.1	0.1	－	－	－	0.1	－	0.1	0.3

(次ページに続く)

表Ⅱ-8-2 情報の入手やコミュニケーションを円滑にするために利用している

日常生活用具〔複数回答〕－障害名〔複数回答〕別（続）

	聴覚障害者用通信装置	聴覚障害者用情報受信装置	人工咽頭	福祉電話	ファックス	視覚障害者用ワードプロセッサ	点字図書	その他	利用したいものはないが	利用したいものはない	無回答
総数	1.0	1.2	1.6	0.4	2.9	0.2	0.5	1.7	3.5	72.9	11.9
視覚障害	-	0.5	-	0.5	0.2	1.2	3.0	3.2	5.2	53.6	12.2
聴覚障害	6.9	8.2	-	1.1	14.6	-	0.3	2.1	6.4	57.7	11.2
平衡機能障害	-	-	-	-	6.7	-	-	-	6.7	73.3	13.3
音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	-	-	15.0	0.4	6.1	-	-	2.5	2.5	56.1	13.6
肢体不自由(上肢)	-	-	-	-	0.3	-	0.3	1.5	3.0	81.4	12.8
肢体不自由(下肢)	0.2	0.2	0.2	0.2	0.5	-	-	0.7	3.5	79.6	14.1
肢体不自由(体幹)	0.5	-	0.5	0.5	1.4	-	-	1.4	4.6	78.7	13.4
肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	-	-	-	0.9	0.4	-	0.4	2.2	3.5	76.3	14.5
内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸の機能の障害、免疫機能障害、肝臓)	-	-	0.1	-	0.3	-	-	1.2	2.2	84.9	10.8

9 障害者総合支援法※による障害福祉サービス等

※（平成 25 年 3 月までは障害者自立支援法。以下同じ。）

（1）障害者総合支援法で利用したサービス（過去 1 年間）〔複数回答〕

※在宅で生活している 2,568 人が対象

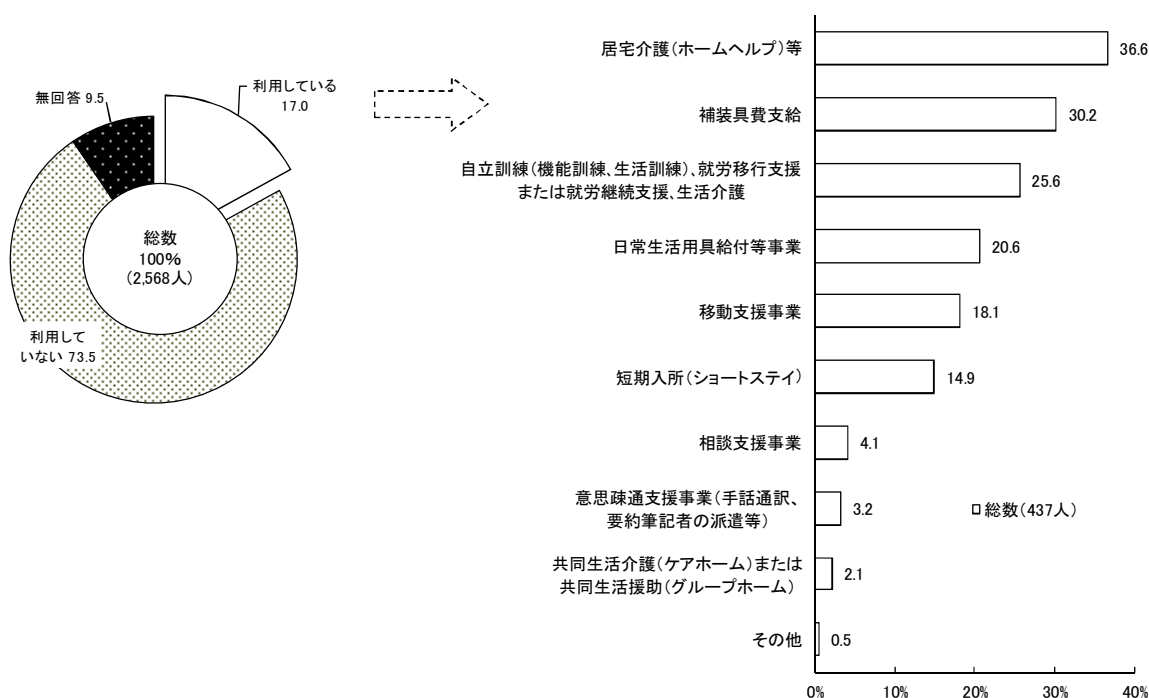
障害者総合支援法によるサービスを「利用している」割合は 17.0%で、「居宅介護（ホームヘルプ）等」の割合が最も高い

過去 1 年間に障害者総合支援法によるサービスを「利用している」割合は 17.0%、「利用していない」は 73.5%であった。

利用した内容で最も割合が高かったのは、「居宅介護（ホームヘルプ）等」36.6%、次いで「補装具費支給」30.2%で、いずれも 3 割を超えた。（図Ⅱ-9-1）

問 過去1年間に障害者総合支援法による障害福祉サービスについて、どのような内容のサービスを利用しましたか。

図Ⅱ-9-1 障害者総合支援法で利用したサービス（過去 1 年間）〔複数回答〕



(2) 障害者総合支援法で利用したサービス（過去 1 年間）〔複数回答〕

－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

※在宅で生活している 2,568 人が対象

障害者総合支援法で利用したサービス（過去 1 年間）について、障害名別にみると「利用している」割合は肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）で 56.1%と 5 割を超えており、利用したサービス内容では「居宅介護（ホームヘルプ）等」の割合が最も高く 28.8%となっている。年齢階級別にみると、「利用している」割合は 29 歳以下で 59.0%と、総数（17.0%）に比べて大幅に高くなっている。（表Ⅱ-9-1）

表Ⅱ-9-1 障害者総合支援法で利用したサービス（過去 1 年間）〔複数回答〕

－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

		総 数	利 用 し て い る	居 宅 介 護 （ ホ ー ム ヘ ル プ ） 等	短 期 入 所 （ シ ョ ー ト ス テ イ ）	自 立 訓 練 （ 機 能 訓 練 、 生 活 訓 練 ） 、 就 労 移 行 支 援 ま た は 就 就	共 同 生 活 介 護 （ ケ ア ホ ー ム ） ま た は 共 同 生 活 援 助 （ グ ル ー プ ホ ー ム ）	補 装 具 費 支 給	相 談 支 援 事 業	意 思 疎 通 支 援 事 業 （ 手 話 通 訳 、 要 約 筆 記 者 の 派 遣 等 ）	日 常 生 活 用 具 給 付 等 事 業	移 動 支 援 事 業	そ の 他	利 用 し て い な い	無 回 答
総数		100.0 (2,568)	17.0	6.2	2.5	4.4	0.4	5.1	0.7	0.5	3.5	3.1	0.1	73.5	9.5
身 体 障 害 者 手 帳 の 障 害 名 （ 複 数 回 答 ） 別	視覚障害	100.0 (387)	23.0	13.2	1.3	3.1	－	5.7	0.3	－	6.5	5.4	－	69.8	7.2
	聴覚障害	100.0 (367)	15.8	2.5	0.5	2.5	1.1	6.3	0.5	3.8	4.4	1.9	－	73.8	10.4
	平衡機能障害	100.0 (15)	6.7	6.7	－	－	－	－	－	－	－	－	－	46.7	46.7
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (273)	15.0	2.6	1.1	5.5	－	3.7	1.1	－	2.6	1.5	－	74.4	10.6
	肢体不自由(上肢)	100.0 (370)	18.4	7.6	3.0	4.9	1.6	5.9	1.9	－	3.0	4.6	－	68.6	13.0
	肢体不自由(下肢)	100.0 (524)	14.1	4.8	1.3	3.1	0.8	5.3	1.0	－	1.9	3.4	－	75.2	10.7
	肢体不自由(体幹)	100.0 (194)	28.9	14.4	7.7	9.3	－	8.2	1.0	0.5	4.1	4.1	－	57.2	13.9
	肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (212)	56.1	28.8	18.9	25.9	1.9	13.7	1.4	－	6.6	13.2	0.5	37.7	6.1
内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸の機能の障害、免疫機能障害、肝臓)	100.0 (748)	9.0	1.2	0.4	0.9	0.1	4.0	0.4	－	2.4	0.8	0.1	81.8	9.2	
年 齢 階 級 別	29歳以下	100.0 (83)	59.0	28.9	26.5	31.3	2.4	22.9	2.4	－	14.5	16.9	1.2	38.6	2.4
	30～39歳	100.0 (146)	41.1	13.7	18.5	19.9	1.4	8.2	0.7	－	4.8	8.9	－	56.8	2.1
	40～49歳	100.0 (193)	31.1	13.0	3.6	11.4	0.5	9.3	2.6	1.6	6.2	5.2	－	61.7	7.3
	50～59歳	100.0 (232)	29.3	15.5	2.2	6.5	0.4	6.9	1.3	0.9	5.2	5.2	－	62.9	7.8
	60歳以上	100.0 (1,914)	10.4	2.9	0.2	1.0	0.2	3.5	0.4	0.5	2.5	1.6	0.1	78.7	10.8
	(再掲) 65歳以上	100.0 (1,664)	8.8	2.0	0.1	0.8	0.1	3.2	0.2	0.4	2.2	1.4	－	80.3	10.9

(3) 障害者総合支援法で利用したサービス（過去1年間）〔複数回答〕

－介護保険制度の利用の有無別

※在宅で生活している40歳以上の2,339人が対象

障害者総合支援法で利用したサービス（過去1年間）について介護保険制度の利用の有無別にみると、介護保険制度を「利用している」人では、障害者総合支援法によるサービスを「利用している」人の割合が13.0%であった。一方、介護保険制度を「利用していない」人で、障害者総合支援法によるサービスを「利用している」人の割合は、14.1%となっている。（表Ⅱ-9-2）

表Ⅱ-9-2 障害者総合支援法で利用したサービス（過去1年間）〔複数回答〕

－介護保険制度の利用の有無別

	総 数	利 用 し て い る	居 宅 介 護 （ ホ ー ム ヘ ル プ ） 等 （ 重 度 訪 問 介 護 、 同 行 援 護 、 行 動 援 護 、 重 度 障 害 者 等 包 括 支 援 を 含 む ）	短 期 入 所 （ シ ョ ー ト ス テ イ ）	就 労 移 行 支 援 ま た は 就 労 継 続 支 援 、 生 活 介 護	自 立 訓 練 （ 機 能 訓 練 、 生 活 訓 練 ）	共 同 生 活 援 助 （ グ ル ー プ ホ ー ム ） ま た は 共 同 生 活 介 護 （ ケ ア ホ ー ム ）	補 装 具 費 支 給	相 談 支 援 事 業	筆 記 者 の 派 遣 等 ）	意 思 疎 通 支 援 事 業 （ 手 話 通 訳 、 要 約	日 常 生 活 用 具 給 付 等 事 業	移 動 支 援 事 業	そ の 他	利 用 し て い な い	無 回 答
総数	100.0 (2,339)	14.0	5.0	0.7	2.4	0.2	4.3	0.6	0.6	3.0	2.2	0.0	75.8	10.2		
介護保険制度を利用している	100.0 (621)	13.0	3.7	0.3	1.3	0.3	4.3	0.6	0.2	2.6	2.6	-	63.8	23.2		
ホームヘルプサービス （訪問介護）	100.0 (314)	13.4	4.5	-	1.0	0.3	4.5	0.6	-	2.2	2.9	-	56.1	30.6		
訪問入浴介護	100.0 (86)	17.4	8.1	-	2.3	-	4.7	1.2	-	1.2	5.8	-	53.5	29.1		
訪問看護	100.0 (81)	18.5	4.9	-	2.5	1.2	6.2	1.2	-	3.7	4.9	-	54.3	27.2		
訪問リハビリテーション	100.0 (71)	16.9	5.6	-	7.0	-	1.4	-	-	-	2.8	-	54.9	28.2		
デイサービス（通所介 護）	100.0 (211)	13.7	3.3	0.9	0.9	0.9	5.2	0.5	-	3.3	2.8	-	64.0	22.3		
デイケア（通所リハビ リテーション）	100.0 (107)	14.0	1.9	-	0.9	-	5.6	0.9	-	5.6	2.8	-	68.2	17.8		
ショートステイ（短期入 所生活介護）	100.0 (67)	11.9	1.5	-	1.5	-	6.0	-	-	4.5	3.0	-	56.7	31.3		
その他	100.0 (39)	2.6	-	-	-	-	2.6	-	-	-	-	-	64.1	33.3		
在宅サービスは受けて いない	100.0 (71)	12.7	1.4	-	-	-	9.9	-	-	1.4	2.8	-	76.1	11.3		
介護保険制度を利用していない	100.0 (1,668)	14.1	5.2	0.8	2.8	0.2	4.3	0.6	0.8	3.2	2.0	0.1	82.0	3.9		

（４）居宅介護等のサービスの種類〔複数回答〕

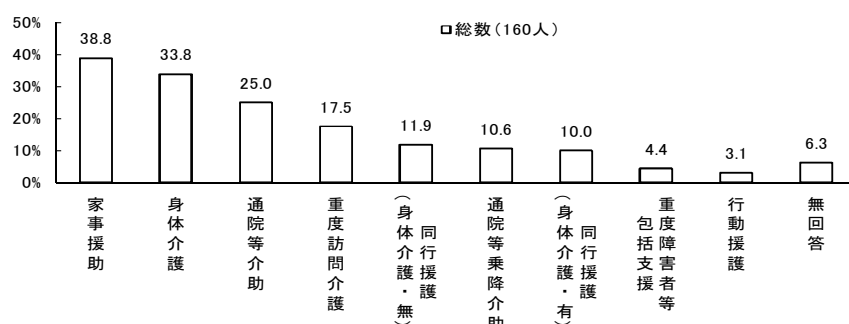
※居宅介護（ホームヘルプ）等（重度訪問介護、同行援護、行動援護、重度障害者包括支援を含む）を利用している 160 人が対象

利用した居宅介護等のサービスの種類は「家事援助」が 38.8%

障害者総合支援法による障害福祉サービスで居宅介護等を利用した人のサービスの種類は「家事援助」（38.8%）と「身体介護」（33.8%）の割合が高くなっている。（図Ⅱ-9-2）

問 あなたが利用した居宅介護等のサービスの種類は何ですか。

図Ⅱ-9-2 居宅介護等のサービスの種類〔複数回答〕



（５）サービス支給量は十分か（居宅介護、短期入所）

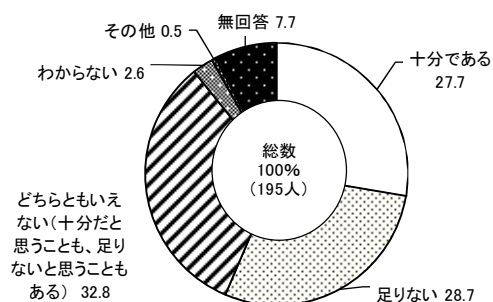
※居宅介護（ホームヘルプ）等（重度訪問介護、同行援護、行動援護、重度障害者包括支援を含む）、短期入所（ショートステイ）を利用している 195 人が対象

サービス支給量が「十分である」と思っている人は 27.7%

障害者総合支援法による障害福祉サービスで居宅介護（ホームヘルプ）等及び短期入所（ショートステイ）を利用した人に支給量は十分か聞いたところ、「十分である」は 27.7%、「足りない」は 28.7%、「どちらともいえない」は 32.8%であった。（図Ⅱ-9-3）

問 あなたが利用したサービスについて、支給量は十分だと思いますか。

図Ⅱ-9-3 サービス支給量は十分か（居宅介護、短期入所）



（６）障害者総合支援法における障害程度区分

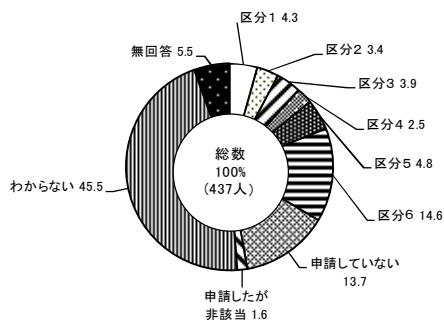
※過去１年間に障害者総合支援法のサービスを利用した４３７人が対象

しょうがいいていどくぶん 障害程度区分は「区分６」の割合が 14.6% わりあい

障害程度区分は「区分６」の割合が 14.6%だが、「申請していない」が 13.7%、「わからない」も 45.5%となっている。（図Ⅱ-9-4）

と い 問 あなたの障害程度区分はいくつですか。

図Ⅱ-9-4 障害者総合支援法における障害程度区分



（７）障害者総合支援法における障害福祉サービスの費用負担

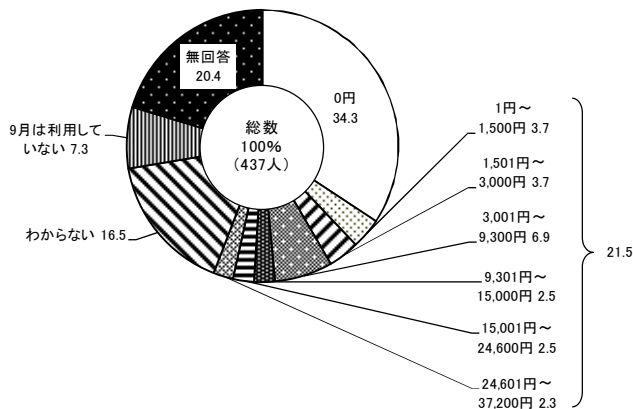
※過去１年間に障害者総合支援法のサービスを利用した４３７人が対象

しょうがいしゃそうごうしえんぼう 障害者総合支援法における障害福祉サービスの費用負担は「０円」の割合が 34.3% えん わりあい

平成 25 年 9 月の費用負担の費用負担額（食費等実費負担は除く）を聞いたところ、「０円」が 34.3%で最も高い。一方、「１円～37,200 円」の費用負担があった場合は 21.5%となっている。（図Ⅱ-9-5）

と い 問 あなたの障害者総合支援法における障害福祉サービスの費用負担についてお聞きします。1か月にあなたが負担した額（食費等実費負担は除く）はいくらですか。

図Ⅱ-9-5 障害者総合支援法における障害福祉サービスの費用負担



(8) 介護保険制度の利用の有無－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

※調査基準日現在 40 歳以上の 2,419 人が対象

介護保険制度を利用している人は、27.7%

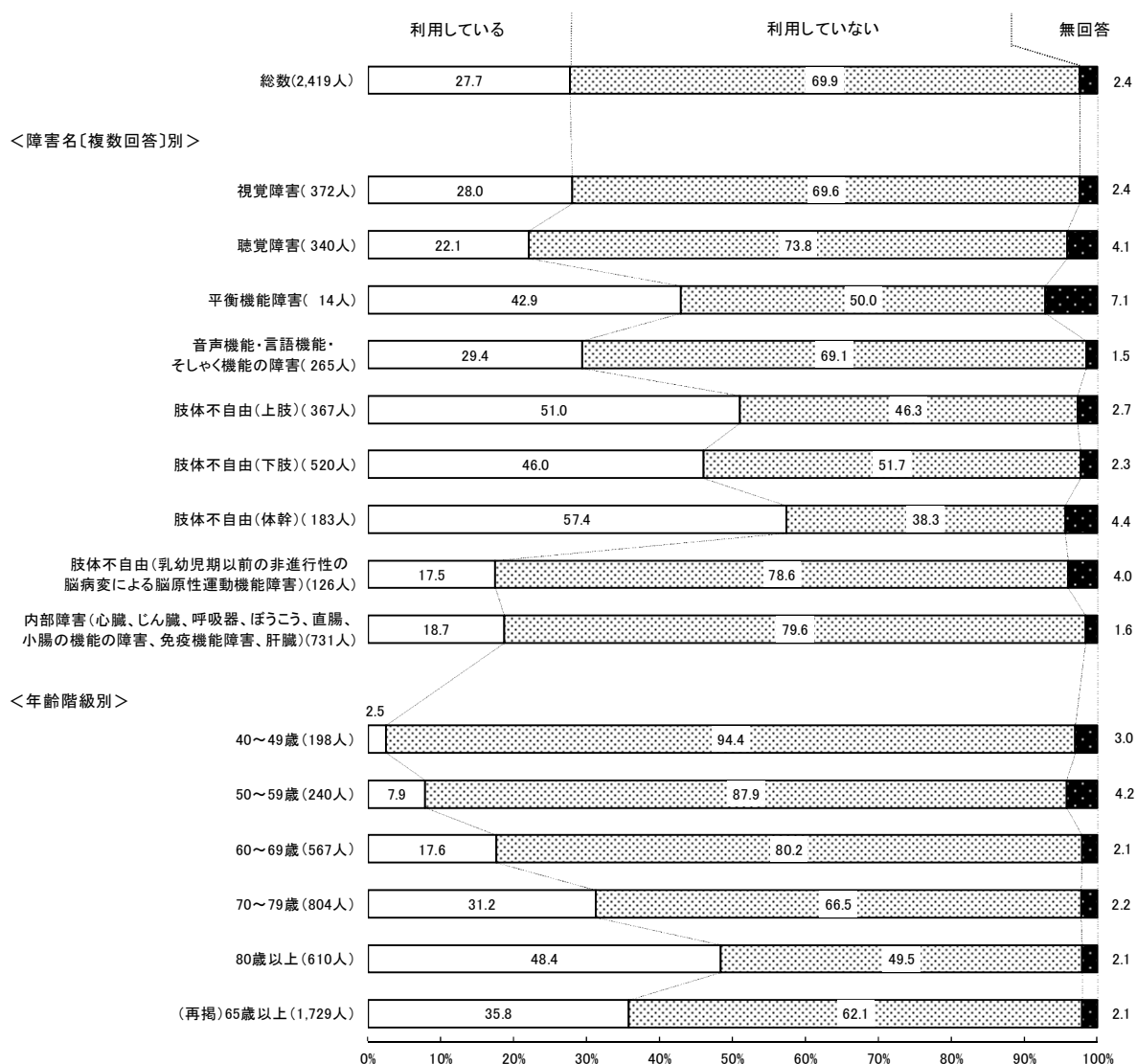
平成 25 年 10 月 16 日現在、40 歳以上の人に介護保険制度の利用状況を聞いたところ「利用している」と答えた人の割合は 27.7%、「利用していない」は 69.9%であった。

障害名別にみると「利用している」割合は、肢体不自由（体幹）（57.4%）と肢体不自由（上肢）（51.0%）で 5 割を超えている。

年齢階級別にみると「利用している」割合は年齢が高くなるにつれて上昇しており、80 歳以上では約 5 割の人が「利用している」と回答している。（図Ⅱ-9-6）

問 あなたは介護保険制度を利用していますか。

図Ⅱ-9-6 介護保険制度の利用の有無－障害名〔複数回答〕、年齢階級別



(9) 介護保険制度の要介護度－身体障害者手帳の程度（総合等級）別

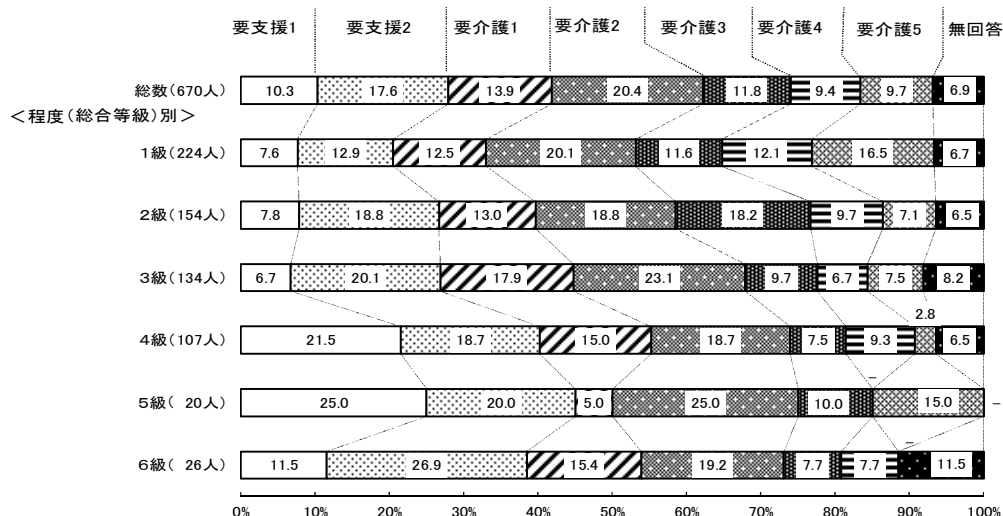
※介護保険制度を利用している 670 人が対象

介護保険を利用している人の要介護度は「要介護2」の割合が最も高く 20.4%

介護保険制度を利用している人の要介護度を聞いたところ、「要介護2」の割合が20.4%と最も高く、次いで「要支援2」が17.6%、「要介護1」が13.9%であった。（図Ⅱ-9-7）

問 あなたの要介護度は何度ですか。

図Ⅱ-9-7 介護保険制度の要介護度－身体障害者手帳の程度（総合等級）別



(10) 介護保険法におけるサービスの費用負担

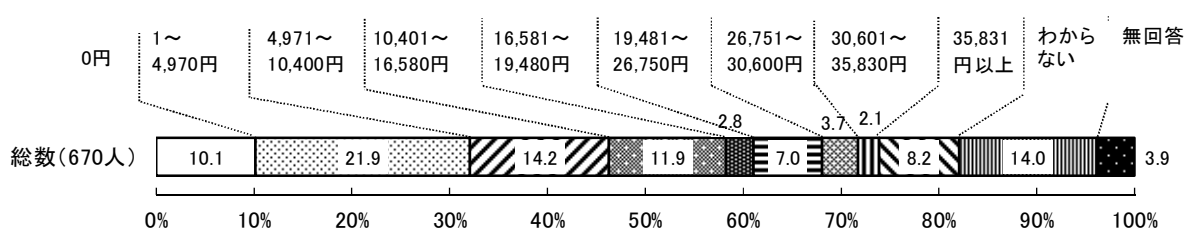
※介護保険制度を利用している 670 人が対象

介護保険法におけるサービスの費用負担は「1～4,970円」の割合が最も高い

介護保険法におけるサービスの費用負担額は「1～4,970円」の割合が最も高く21.9%、次いで「4,971～10,400円」14.2%、「10,401～16,580円」11.9%となっている。（図Ⅱ-9-8）

問 あなたの介護保険法におけるサービスの費用負担についてお聞きします。1か月にあなたが負担する額（食費等実費負担は除く）はいくらですか。

図Ⅱ-9-8 介護保険法におけるサービスの費用負担



(11) 介護保険で受けている在宅サービス〔複数回答〕

－障害名〔複数回答〕、介護保険の要介護度別

※介護保険制度を利用している 670 人が対象

介護保険で受けている在宅サービスは「ホームヘルプサービス」の割合が最も高く 47.2%

介護保険制度を利用している人に、どのような内容の在宅サービスを受けているか聞いたところ、「ホームヘルプサービス（訪問介護）」の割合が 47.2%と最も高く、次いで「デイサービス（通所介護）」が 31.5%であった。

障害名別にみると「肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）」では「ホームヘルプサービス」が 72.7%と、他の障害よりも高くなっている。

介護保険の要介護度別にみると要介護 5 の人では、「ホームヘルプサービス」が最も高く 52.3%、次いで「訪問看護」と「デイサービス」がともに 36.9%となっている。（表Ⅱ-9-3）

問 あなたはどのような内容の在宅サービスを受けていますか。

表Ⅱ-9-3 介護保険で受けている在宅サービス〔複数回答〕

－障害名〔複数回答〕、介護保険の要介護度別

		総 数	サ ー ビ ス （ 訪 護 ）	ホ ー ム ヘル プ	訪 問 入 浴 介 護	訪 問 看 護	テ ー マ ン ハ ビ リ	（ 通 所 介 護 ）	デ イ サ ー ビ ス	テ ー マ ン ハ ビ リ （ 通 所 介 護 ）	所 リ ハ ビ リ （ 通 所 介 護 ）	デ イ サ ー ビ ス （ 通 所 介 護 ）	生 活 （ 短 期 入 所 テ ー マ ン ハ ビ リ ）	イ ン テ ー リ エ ー ス （ 短 期 入 所 テ ー マ ン ハ ビ リ ）	そ の 他	い は 受 け て い な ス	在 宅 サ ー ビ ス	無 回 答
総数		100.0 (670)	47.2		13.0	12.1	10.6	31.5		16.0		10.0		6.0		15.7		3.7
障 害 名 〔 複 数 回 答 〕 別	視覚障害	100.0 (104)	53.8		12.5	6.7	3.8	31.7		9.6		8.7		6.7		12.5		7.7
	聴覚障害	100.0 (75)	49.3		10.7	10.7	5.3	37.3		17.3		13.3		13.3		9.3		6.7
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (78)	43.6		11.5	28.2	20.5	32.1		17.9		14.1		5.1		11.5		-
	肢体不自由（上肢）	100.0 (187)	49.7		15.5	14.4	16.6	33.7		20.3		11.8		4.8		17.6		1.6
	肢体不自由（下肢）	100.0 (239)	46.9		13.8	12.6	15.1	34.3		18.4		11.3		3.8		17.6		2.9
	肢体不自由（体幹）	100.0 (105)	47.6		19.0	17.1	17.1	39.0		19.0		16.2		4.8		14.3		1.9
	肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）	100.0 (22)	72.7		27.3	18.2	4.5	31.8		13.6		4.5		9.1		9.1		4.5
	内部障害（心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸の機能の障害、免疫機能障害、肝臓）	100.0 (137)	47.4		11.7	11.7	6.6	22.6		13.1		6.6		7.3		19.0		0.7
介 護 保 険 の 要 介 護 度 別	要支援1	100.0 (69)	39.1		5.8	5.8	4.3	14.5		13.0		1.4		4.3		24.6		7.2
	要支援2	100.0 (118)	49.2		8.5	7.6	3.4	22.0		12.7		3.4		5.1		17.8		1.7
	要介護1	100.0 (93)	50.5		8.6	8.6	7.5	34.4		10.8		2.2		6.5		11.8		3.2
	要介護2	100.0 (137)	50.4		9.5	8.0	13.9	36.5		27.0		9.5		8.0		10.9		1.5
	要介護3	100.0 (79)	39.2		20.3	16.5	12.7	43.0		16.5		17.7		8.9		13.9		2.5
	要介護4	100.0 (63)	44.4		20.6	14.3	14.3	41.3		17.5		27.0		3.2		22.2		1.6
	要介護5	100.0 (65)	52.3		32.3	36.9	24.6	36.9		7.7		23.1		3.1		18.5		4.6

（注）障害名の平衡機能障害は、母集団が少数のため省略した。

(12) 介護保険で受けているホームヘルプサービスの内容

－障害名〔複数回答〕、介護保険の要介護度別

※介護保険でホームヘルプサービスを受けている 316 人が対象

介護保険で受けているホームヘルプサービスの内容は「生活援助のみ」の割合が最も高い

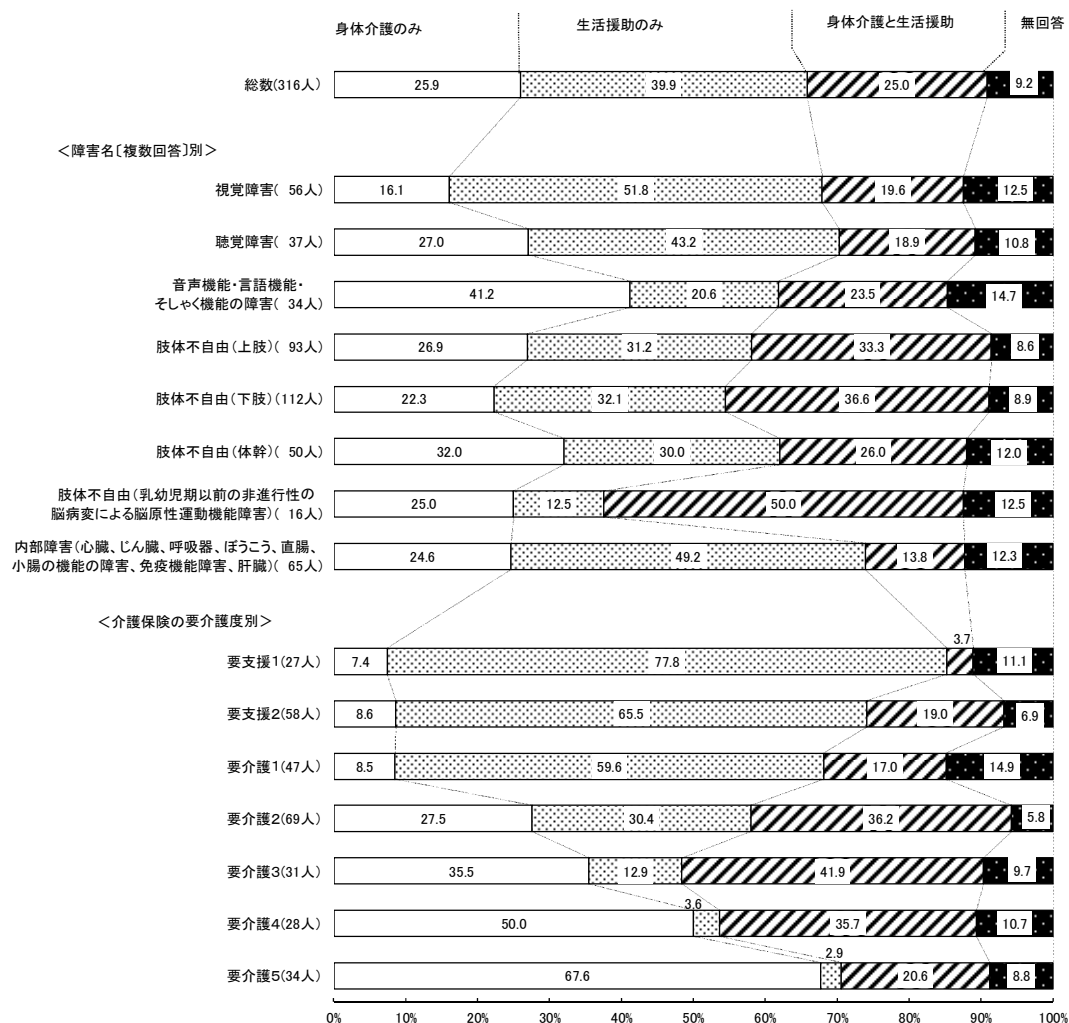
介護保険で受けているホームヘルプサービスの内容は、「生活援助のみ」の割合が 39.9%と最も高く、次いで「身体介護のみ」(25.9%)、「身体介護と生活援助」(25.0%)と続く。

介護保険の要介護度別にみると、要介護5の人では「身体介護のみ」と「身体介護と生活援助」を合わせた割合は、88.2%となっている。(図Ⅱ-9-9)

問 あなたが受けているサービスの内容は何ですか。

図Ⅱ-9-9 介護保険で受けているホームヘルプサービスの内容

－障害名〔複数回答〕、介護保険の要介護度別



(注) 障害名の平衡機能障害は、母集団が少数のため省略した。

(13) 介護保険で受けているホームヘルプサービスの内容で困っていること〔複数回答〕

－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

※介護保険でホームヘルプサービスを受けている 316 人が対象

介護保険で受けているホームヘルプサービスの内容で困っていることは「1回の訪問介護の時間が短い」の割合が最も高く 23.1%

介護保険で受けているホームヘルプサービスの内容で困っていることがあるか聞いたところ、「困っていることがある」の割合は 35.1%、「困っていることは特にない」が 52.5%であった。困っていることの内容は「1 回の訪問介護の時間が短い」の割合が 23.1%と最も高く、次いで「希望するサービスが受けられない」の 12.3%であった。

障害名別にみると「困っていることがある」割合は、肢体不自由（下肢）が最も高く 42.9%となっている。（表Ⅱ-9-4）

サービス内容で困っていることはありますか。

表Ⅱ-9-4 介護保険で受けているホームヘルプサービスの内容で困っていること〔複数回答〕
－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

		総 数	あ る こ と が	の1 時 間 の 訪 問 介 護	ら れ て い る に 何 回 か に 分 け	訪 問 介 護 が 1 日	訪 問 介 護 が い る の で な い	家 族 が い る の で な い	ス が 受 け ら れ な い	希 望 す る サ ー ビ ス が 受 け ら れ な い	し て も 延 長 を 希 望 す る サ ー ビ ス が 受 け ら れ な い	時 間 を 延 び た 希 望 す る サ ー ビ ス が 受 け ら れ な い	わ た し の 訪 問 介 護 員 が 代 わ る こ と が あ る	も く 急 な 外 出 を し た こ と が あ る	そ の 他	特 に 困 っ て い る こ と は な い	無 回 答
総数		100.0 (316)	35.1	23.1	1.6	2.5	12.3	5.7	4.4	5.7	4.7	52.5	12.3				
身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕別	視覚障害	100.0 (56)	35.7	25.0	1.8	1.8	8.9	10.7	5.4	8.9	7.1	53.6	10.7				
	聴覚障害	100.0 (37)	37.8	24.3	－	2.7	18.9	2.7	5.4	10.8	8.1	35.1	27.0				
	音声機能・言語機能・しゃく機能の障害	100.0 (34)	29.4	17.6	2.9	2.9	5.9	8.8	2.9	2.9	－	55.9	14.7				
	肢体不自由（上肢）	100.0 (93)	38.7	24.7	4.3	7.5	16.1	7.5	4.3	7.5	4.3	51.6	9.7				
	肢体不自由（下肢）	100.0 (112)	42.9	28.6	3.6	4.5	17.0	6.3	8.0	8.9	6.3	50.9	6.3				
	肢体不自由（体幹）	100.0 (50)	34.0	20.0	－	2.0	22.0	2.0	2.0	6.0	4.0	48.0	18.0				
	肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）	100.0 (16)	31.3	18.8	－	－	6.3	－	6.3	6.3	6.3	50.0	18.8				
	内部障害（心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸の機能の障害、免疫機能障害、肝臓）	100.0 (65)	32.3	20.0	－	1.5	9.2	4.6	3.1	4.6	4.6	55.4	12.3				
年齢階級別	40～59歳	100.0 (12)	50.0	41.7	－	－	8.3	－	－	8.3	8.3	33.3	16.7				
	60～69歳	100.0 (53)	32.1	15.1	1.9	3.8	13.2	11.3	3.8	3.8	5.7	58.5	9.4				
	70～79歳	100.0 (119)	37.8	25.2	1.7	2.5	13.4	2.5	4.2	9.2	5.0	52.1	10.1				
	80歳以上	100.0 (132)	32.6	22.7	1.5	2.3	11.4	6.8	5.3	3.0	3.8	52.3	15.2				
	（再掲）65歳以上	100.0 (284)	34.9	22.5	1.8	2.8	13.0	5.6	4.6	6.0	4.6	53.2	12.0				

（注）障害名の平衡機能障害は、母集団が少数のため省略した。

10 施設入所（施設入所者対象）

※調査基準日現在、施設に入所している 88 人が対象

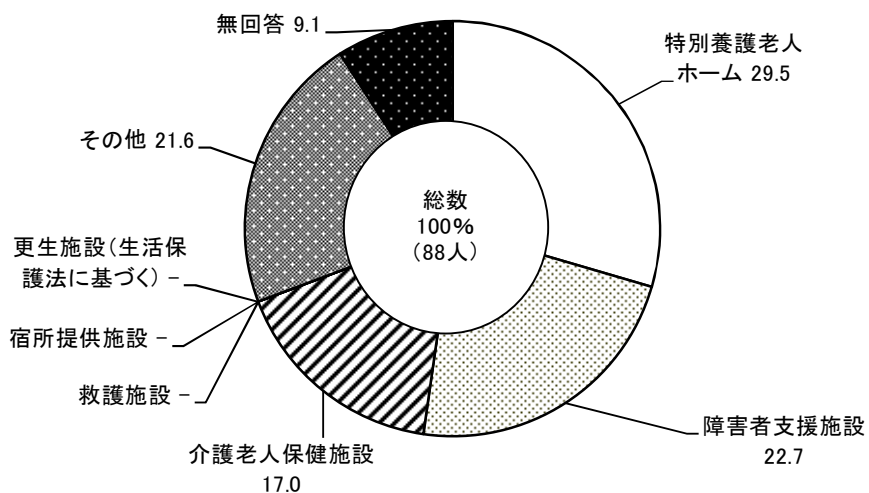
（１）入所している施設の種類の

げんざいにゆうしょ しせつ とくべつようごろうじん
現在入所している施設は「特別養護老人ホーム」が 29.5%

調査基準日現在、入所している施設を聞いたところ、「特別養護老人ホーム」の割合が 29.5%と最も高く、次いで「障害者支援施設」が 22.7%、「介護老人保健施設」が 17.0%となっている。（図Ⅱ-10-1）

とい 問 げんざいにゆうしょ しせつ
あなたが現在入所している施設はどれですか。

図Ⅱ-10-1 入所している施設の種類の



(2) 入所を決めた人とその理由

入所を「自分が決めた」人は 20.5%

自分で施設入所を決めた人の理由は「家族による介助が困難」の割合が 38.9%

入所を決めた人は誰か聞いたところ、「自分が決めた」割合が 20.5%、「自分以外の人が決めた」が 72.7%となっている。

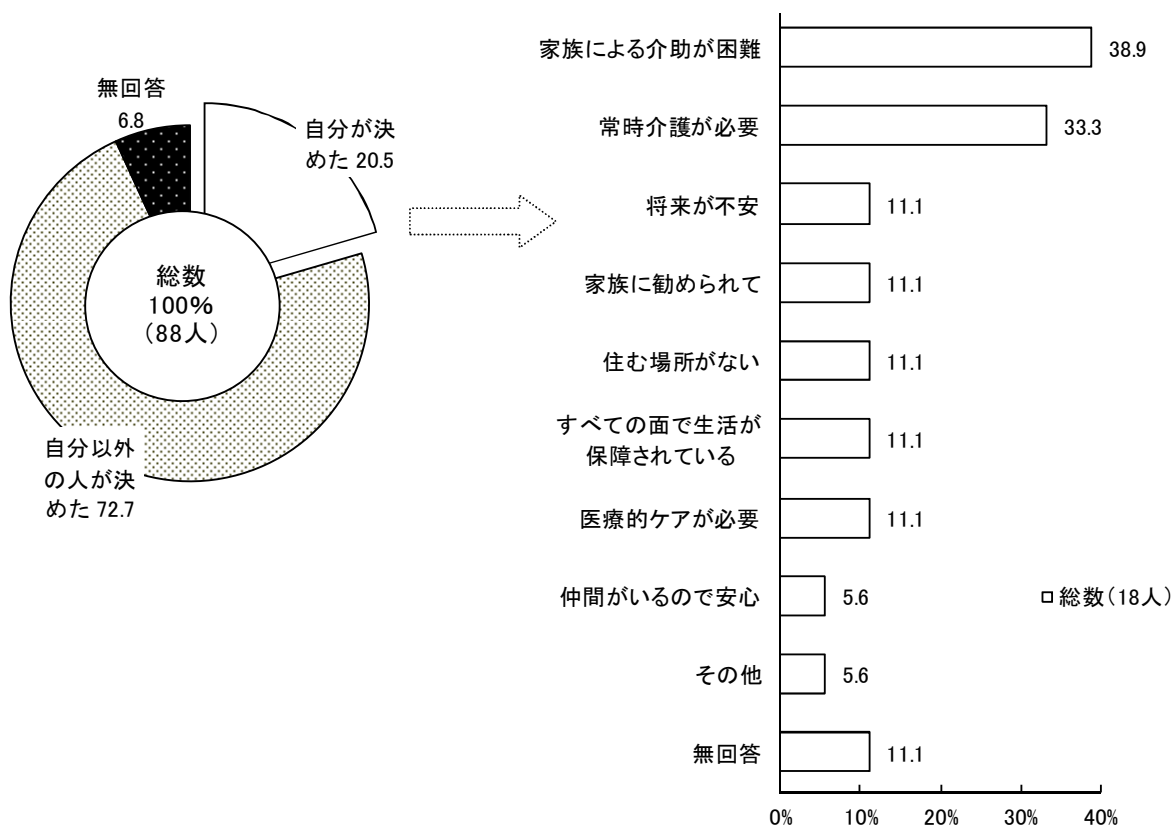
また、自分が施設入所を決めた人（18 人）にその理由を聞いたところ、「家族による介助が困難」の割合が 38.9%で最も高く、次いで「常時介護が必要」が 33.3%となっている。

(図Ⅱ-10-2)

問 入所を決めた人は誰ですか。

問 あなたが施設入所を決めた理由は何ですか。〔2つまでの複数回答〕

図Ⅱ-10-2 入所を決めた人とその理由



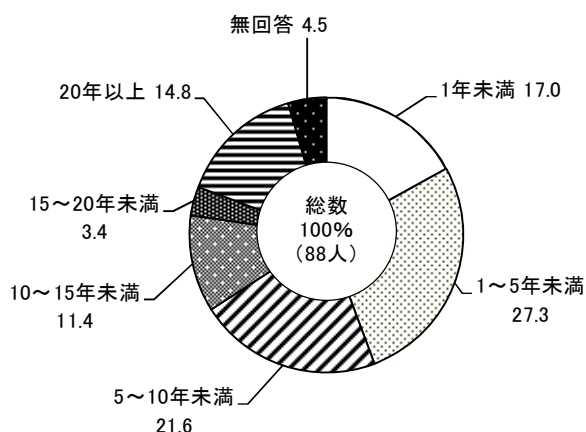
(3) 入所年数

今の施設に入ってから^{ねんすう}の年数は、「1～5年未満^{ねんみまん}」の割合が最も高く27.3%

今の施設に入ってから^{ねんすう}の年数は、「1～5年未満」の割合が27.3%と最も高い。(図Ⅱ-10-3)

問 あなたは、今の施設に入ってからどれくらい^{なんねん}(何年)になりますか。

図Ⅱ-10-3 入所年数



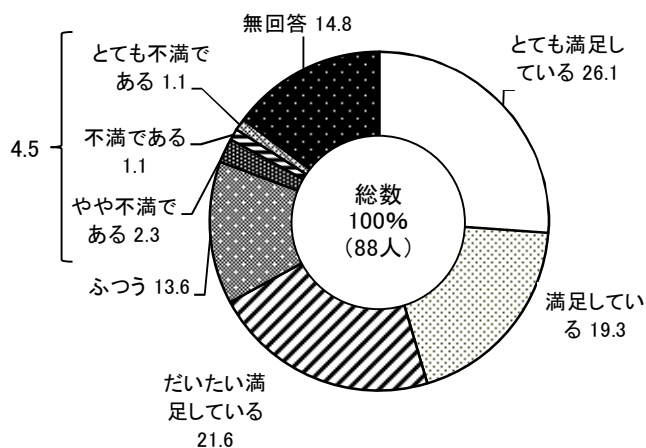
(4) 施設での生活に満足しているか

施設での生活に「とても満足している^{まんぞく}」人の割合が最も高く26.1%

今の施設での生活に満足しているか聞いたところ、「とても満足している」の割合は26.1%、不満である(「やや不満である(2.3%)」+「不満である(1.1%)」+「とても不満である(1.1%)」)を合計すると4.5%であった。(図Ⅱ-10-4)

問 あなたは、施設での生活に満足していますか。

図Ⅱ-10-4 施設での生活に満足しているか



11 その他の福祉サービス等

(1) 将来暮らしたいところ一年齢階級、現在の生活の場別

将来暮らしたいところは「家族が住んでいる家」と思っている割合が最も高いが、
29歳以下では「家族から独立した生活」が2割を超える

将来暮らしたいところについては、「家族が住んでいる家」と思ってる割合が最も高く61.4%となっている。

年齢階級別にみると、40歳以上では「家族が住んでいる家」の割合がいずれも5割を超えている。一方、29歳以下では「家族から独立した生活（施設入所、グループホーム、ケアホーム等での生活を除く）」の割合が他の年齢階級に比べて高くなっている。

現在の生活の場別にみると、現在施設に入所している人では「施設に入所して生活」の割合は48.9%で、総数の割合（7.6%）よりも高くなっている。（表Ⅱ-11-1）

問 あなたは、将来どこで暮らしたいと思いますか。

表Ⅱ-11-1 将来暮らしたいところ一年齢階級、現在の生活の場別

		総 数	施 設 に 入 所 し て 生 活	家 族 が 住 ん で い る 家	ケ ア ル ホ ー ム ホ ー ム 又 は	入 所 、 グ ル ー プ ホ ー ム 等 で の 生 活 を 除 く （ ケ ア ホ ー ム 、 施 設	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
総数		100.0 (2,659)	<u>7.6</u>	<u>61.4</u>	2.2	4.9	4.8	16.3	2.9
年 齢 階 級 別	29歳以下	100.0 (87)	6.9	44.8	9.2	<u>20.7</u>	2.3	13.8	2.3
	30～39歳	100.0 (153)	7.8	48.4	7.2	9.8	1.3	22.9	2.6
	40～49歳	100.0 (198)	6.1	<u>59.1</u>	2.5	9.1	2.5	16.7	4.0
	50～59歳	100.0 (240)	6.7	<u>59.6</u>	2.1	5.0	6.7	17.5	2.5
	60～69歳	100.0 (567)	6.2	<u>60.7</u>	1.8	4.8	6.3	18.7	1.6
	70～79歳	100.0 (804)	8.0	<u>62.8</u>	1.7	2.9	4.6	16.5	3.5
	80歳以上	100.0 (610)	9.5	<u>67.2</u>	0.8	2.6	4.8	11.8	3.3
	（再掲）65歳以上	100.0 (1,729)	8.2	<u>64.1</u>	1.2	3.0	5.0	15.5	3.0
活 現 在 の 場 の 別 生	在宅で生活している	100.0 (2,568)	6.2	63.0	2.3	5.0	4.8	16.0	2.6
	施設に入所している	100.0 (88)	<u>48.9</u>	14.8	—	1.1	3.4	22.7	9.1

(2) 将来暮らしたいところ－障害名〔複数回答〕、現在一緒に生活している人〔複数回答〕別

将来暮らしたいところを障害名別にみると「施設に入所して生活」の割合は、肢体不自由（体幹）が 14.4%と最も高く、次いで肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）が 12.7%となっている。

現在一緒に生活している人別にみると、「配偶者」、「子供」、及び「その他の親族」と暮らしている人では「家族が住んでいる家」の割合がいずれも 8 割を超えている。（表Ⅱ-11-2）

表Ⅱ-11-2 将来暮らしたいところ

－障害名〔複数回答〕、現在一緒に生活している人〔複数回答〕別

		総 数	施 設 に 入 所 し て 生 活	家 族 が 住 ん で い る 家	グ ル ー プ ホ ー ム 又 は ケ ア ホ ー ム	入 所 、 グ ル ー プ ホ ー ム 等 で の 生 活 を 除 く （ ケ ア ホ ー ム 等 で の 生 活 を 除 く ）	家 族 か ら 独 立 し た 生 活 （ 施 設 ）	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
総数		100.0 (2,659)	7.6	61.4	2.2	4.9	4.8	16.3	2.9	
身体 障 害 者 手 帳 の 障 害 名 〔 複 数 回 答 〕 別	視覚障害	100.0 (403)	9.7	57.8	2.2	5.0	7.2	14.9	3.2	
	聴覚障害	100.0 (376)	6.4	60.9	1.6	4.3	4.5	17.8	4.5	
	平衡機能障害	100.0 (15)	－	73.3	－	－	－	13.3	13.3	
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (280)	3.9	69.6	0.4	2.9	3.9	17.9	1.4	
	肢体不自由（上肢）	100.0 (398)	8.8	60.8	2.5	5.3	4.5	15.1	3.0	
	肢体不自由（下肢）	100.0 (548)	8.2	63.3	3.1	3.3	4.0	15.7	2.4	
	肢体不自由（体幹）	100.0 (216)	<u>14.4</u>	52.8	2.3	5.6	5.1	16.2	3.7	
	肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）	100.0 (228)	<u>12.7</u>	40.4	7.5	11.0	5.3	18.4	4.8	
現 在 一 緒 に 生 活 し て い る 人 〔 複 数 回 答 〕 別	内部障害（心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸の機能の障害、免疫機能障害、肝臓）	100.0 (756)	5.8	65.6	1.2	4.2	4.5	16.4	2.2	
	親	100.0 (367)	7.9	56.4	6.3	9.0	1.6	16.6	2.2	
	配偶者	100.0 (1,323)	3.7	<u>81.1</u>	1.0	0.9	0.8	9.8	2.7	
	子供	100.0 (813)	2.8	<u>82.8</u>	1.0	1.2	1.0	9.2	2.0	
	兄弟姉妹	100.0 (160)	9.4	55.6	5.0	8.1	1.9	16.9	3.1	
	その他の親族	100.0 (127)	1.6	<u>81.1</u>	1.6	4.7	3.1	7.1	0.8	
	一人で暮らしている	100.0 (557)	11.1	22.6	3.2	12.6	17.8	30.3	2.3	
	その他	100.0 (29)	20.7	24.1	3.4	13.8	13.8	20.7	3.4	

（注）「現在一緒に生活している人」は在宅者を対象とした設問のため、総数は 2,568 人である。

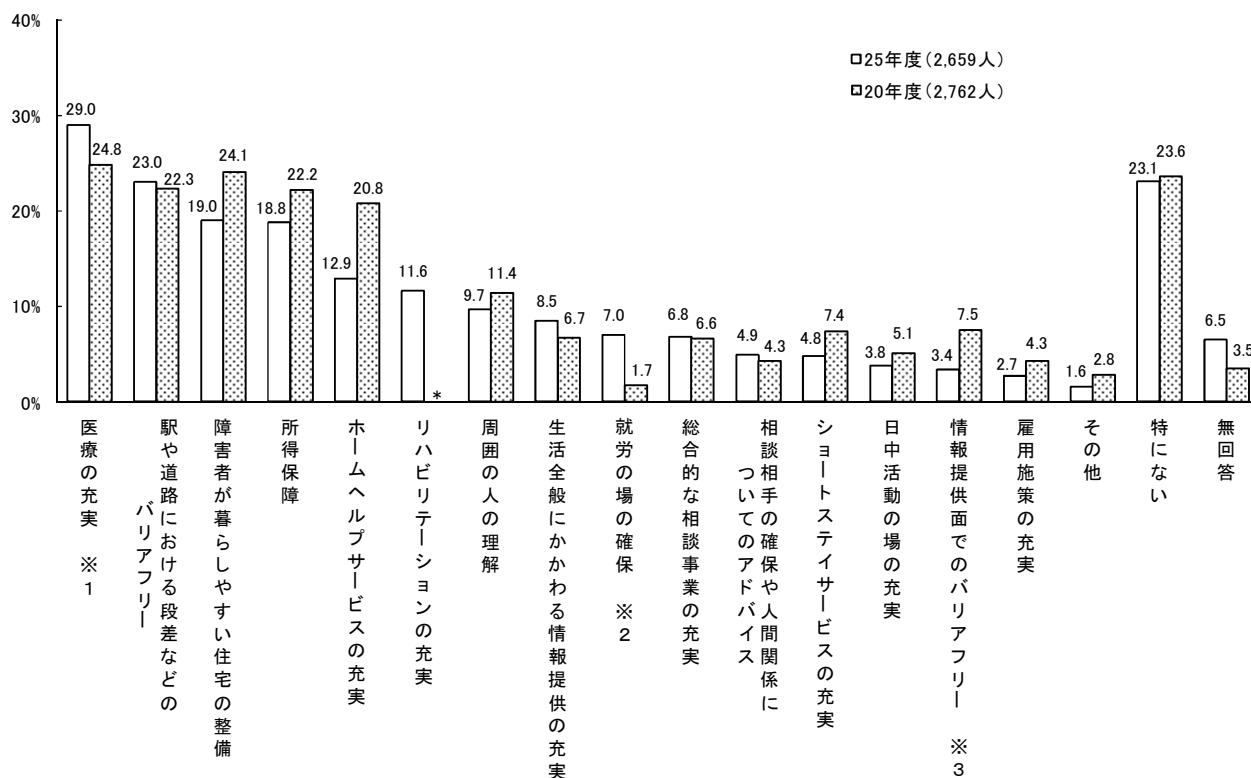
(3) 地域生活をする上で必要な福祉サービス等〔3つまでの複数回答〕

20年度調査よりも「ホームヘルプサービスの充実」の割合が7.9ポイント減少

地域生活をしたたり、しようとする上で、必要な福祉サービス等は何か聞いたところ「医療の充実」の割合が29.0%と最も高く、次いで「駅や道路における段差などのバリアフリー」(23.0%)、「障害者が暮らしやすい住宅の整備」(19.0%)の割合が高くなっている。20年度調査で比較的割合の高かった「ホームヘルプサービスの充実(20.8%)」は7.9ポイント下がって12.9%となった。(図Ⅱ-11-1)

問 あなたが、地域生活をしたたり、しようとする上で、必要な福祉サービス等は何ですか。

図Ⅱ-11-1 地域生活をする上で必要な福祉サービス等〔3つまでの複数回答〕



(注1) ※1は、20年度調査では「医療やリハビリテーションの充実」としていた。

(注2) ※2は、20年度調査では「授産施設などの就労の場の確保」としていた。

(注3) ※3は、20年度調査では「生活全般における視覚・聴覚障害情報提供面でのバリアフリー」としていた。

(注4) *は、20年度調査時に選択肢がなかったもの

(4) 地域生活をする上で必要な福祉サービス等〔3つまでの複数回答〕

－障害名〔複数回答〕、平日の日中主に過ごしたところ別

地域生活をする上で必要な福祉サービス等を障害名別にみると、「障害者が暮らしやすい住宅の整備」の割合は肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）で27.6%と高い。

平日の日中主に過ごしたところ別にみると、通所施設（作業所、デイケア等を含む）で過ごした人では、「ショートステイサービスの充実」（32.7%）、「ホームヘルプサービスの充実」（29.1%）、「日中活動の場の充実」（17.3%）の割合が、それぞれ総数（4.8%、12.9%、3.8%）よりも高いのが目立つ。（表Ⅱ-11-3）

表Ⅱ-11-3 地域生活をする上で必要な福祉サービス等〔3つまでの複数回答〕

－障害名〔複数回答〕、平日の日中主に過ごしたところ別

		総 数	住 宅 の 障 害 者 が 暮 ら し や す い	駅 や 道 路 に お け る 段 差 な ど の バ リ ア フ リ ー	就 労 の 場 の 確 保	雇 用 施 策 の 充 実	所 得 保 障	総 合 的 な 相 談 事 業 の 充 実	ホ ー ム ヘ ル プ サ ー ビ ス の 充 実	日 中 活 動 の 場 の 充 実	シ ョ ー ト ス テ イ サ ー ビ ス の 充 実
総数		100.0 (2,659)	19.0	23.0	7.0	2.7	18.8	6.8	12.9	3.8	4.8
身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕別	視覚障害	100.0 (403)	20.1	35.2	6.7	2.7	16.6	8.2	13.9	3.7	2.5
	聴覚障害	100.0 (376)	19.7	13.0	7.7	3.2	15.7	6.1	10.6	4.3	2.7
	平衡機能障害	100.0 (15)	13.3	20.0	6.7	6.7	－	6.7	13.3	－	－
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (280)	15.7	17.5	10.4	2.5	23.9	6.1	10.4	3.2	3.6
	肢体不自由(上肢)	100.0 (398)	21.6	22.6	6.8	3.0	20.6	5.3	16.3	2.5	6.8
	肢体不自由(下肢)	100.0 (548)	22.1	28.1	5.1	2.4	17.2	3.8	15.1	2.7	6.0
	肢体不自由(体幹)	100.0 (216)	21.3	31.0	4.2	1.4	17.6	8.8	19.0	4.6	9.3
	肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (228)	27.6	27.6	10.1	4.4	23.7	7.5	19.3	9.6	14.9
	内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸の機能の障害、免疫機能障害、肝臓)	100.0 (756)	15.5	19.0	6.0	2.2	18.4	7.8	10.2	2.8	2.9
平日の日中主に過ごしたところ別	自分の家	100.0 (1,937)	19.2	23.9	4.7	1.8	18.6	6.3	14.0	2.8	3.5
	職場(福祉的就労の施設を除く)	100.0 (381)	18.1	22.8	17.3	7.9	22.3	8.7	4.5	3.1	－
	職場(福祉的就労の施設)	100.0 (53)	24.5	24.5	24.5	7.5	32.1	7.5	13.2	13.2	28.3
	学校	100.0 (23)	17.4	13.0	34.8	13.0	26.1	4.3	17.4	－	－
	通所施設(デイケア、地域活動支援センター等を含む・福祉的就労の施設は除く)	100.0 (110)	22.7	20.0	3.6	0.9	12.7	7.3	29.1	17.3	32.7
	入所施設	100.0 (77)	14.3	13.0	－	－	10.4	3.9	3.9	6.5	6.5
	その他	100.0 (52)	15.4	26.9	5.8	－	17.3	13.5	9.6	7.7	5.8

（次ページへ続く）

また、「周囲の人の理解」の割合は、障害名別でみると、音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害で16.4%、聴覚障害が15.2%と、総数(9.7%)に比べて高くなっている。

表Ⅱ-11-3 地域生活をする上で必要な福祉サービス等〔3つまでの複数回答〕

－障害名〔複数回答〕、平日の日中主に過ごしたところ別（続）

		フ リ ー 情 報 提 供 面 で の バ リ ア	情 報 提 供 の 充 実 生 活 全 般 に か か わ る	係 相 に 談 つ い て の 確 保 や 人 間 ス	周 圍 の 人 の 理 解	医 療 の 充 実	充 実 リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン の	そ の 他	特 に な い	無 回 答
総数		3.4	8.5	4.9	<u>9.7</u>	29.0	11.6	1.6	23.1	6.5
身 体 障 害 者 手 帳 の 障 害 名 〔 複 数 回 答 〕 別	視覚障害	7.9	10.2	6.2	10.7	25.1	4.2	1.7	17.1	7.4
	聴覚障害	9.6	13.3	6.1	<u>15.2</u>	25.5	6.9	2.4	23.4	8.2
	平衡機能障害	6.7	—	6.7	13.3	26.7	26.7	—	6.7	20.0
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	1.1	8.6	6.8	<u>16.4</u>	31.4	15.7	1.8	21.8	4.6
	肢体不自由(上肢)	2.5	8.3	3.5	7.5	24.9	21.4	1.5	21.9	6.3
	肢体不自由(下肢)	1.8	7.3	3.8	7.1	24.5	20.3	1.8	23.9	4.7
	肢体不自由(体幹)	1.4	7.4	1.9	7.4	31.9	25.5	0.9	16.2	7.9
	肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	0.9	6.6	7.9	7.9	25.4	11.4	0.4	11.4	8.8
	内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸の機能の障害、免疫機能障害、肝臓)	1.1	7.9	3.8	7.1	36.1	6.9	1.7	28.7	6.2
平 日 の 日 中 主 に 過 ご し た と こ ろ 別	自分の家	2.8	8.5	4.6	9.0	30.0	12.2	1.8	24.3	5.5
	職場(福祉的就労の施設を除く)	7.6	10.2	5.2	13.1	26.2	6.8	1.3	23.4	5.5
	職場(福祉的就労の施設)	1.9	9.4	7.5	11.3	26.4	7.5	—	3.8	7.5
	学校	4.3	13.0	13.0	21.7	26.1	21.7	—	13.0	—
	通所施設(デイケア、地域活動支援センター等を含む・福祉的就労の施設は除く)	—	5.5	7.3	8.2	28.2	15.5	1.8	10.0	7.3
	入所施設	2.6	2.6	3.9	11.7	24.7	15.6	—	33.8	16.9
	その他	5.8	7.7	3.8	5.8	30.8	13.5	1.9	19.2	9.6

12 災害関係

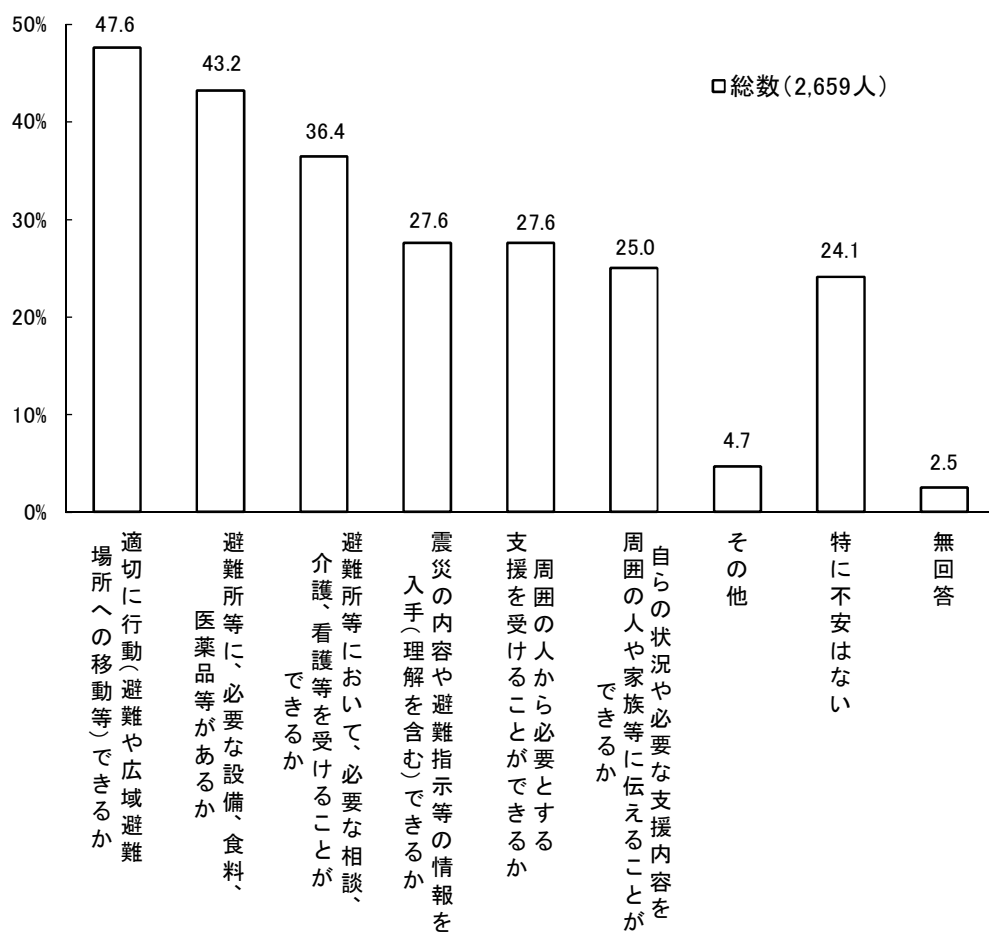
(1) 震災時に不安を感じること〔複数回答〕

震災時に不安を感じることは、「適切に行動（避難や広域避難場所への移動等）できるか」が最も高く 47.6%、次いで「避難所等に、必要な設備、食料、医薬品があるか」が 43.2%

震災時に不安を感じることを聞いたところ、「適切に行動（避難や広域避難場所への移動等）できるか」の割合が最も高く 47.6%、次いで「避難所等に、必要な設備、食料、医薬品等があるか」が 43.2%となっており、いずれも 4 割を超えている。（図Ⅱ-12-1）

問 あなたが、震災時に、不安を感じることは、何ですか。

図Ⅱ-12-1 震災時に不安を感じること〔複数回答〕



(2) 震災時に不安を感じることを〔複数回答〕－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

震災時に不安を感じることを障害名別にみると、聴覚障害では「震災の内容や避難指示等の情報を入手（理解を含む）できるか」と答えた人の割合が46.5%と他の障害よりも高い割合となった。

年齢階級別にみると、40代と50代では「避難所等に、必要な設備、食料、医薬品等があるか」の割合が最も高く、他の年齢階級では「適切に行動（避難や広域避難場所への移動等）できるか」の割合が最も高くなっている。（表Ⅱ-12-1）

表Ⅱ-12-1 震災時に不安を感じることを〔複数回答〕－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

		総 数	入 手 震 災 の 内 容 を や 含 む 指 示 等 の 情 報 を	へ 適 切 に 動 行 等 動 （ で 避 難 や 広 域 避 難 場 所	で 周 囲 の 人 や 家 族 等 に 伝 え 援 内容 と が	自 ら の 状 況 や 必 要 な 支 援 内容 と が	受 け る こ と が 必 要 と す る 支 援 を	介 護 等 に お い て 、 必 要 な 相 談 、	避 難 所 等 に あ る か 、 必 要 な 設 備 、 食 料 、 医 薬 品 等	そ の 他	特 に 不 安 は な い	無 回 答
総数		100.0 (2,659)	27.6	47.6	25.0	27.6	36.4	43.2	4.7	24.1	2.5	
身体 障害 者 手 帳 の 障 害 名 別	視覚障害	100.0 (403)	32.8	53.3	24.1	30.5	32.5	36.2	4.2	25.1	3.2	
	聴覚障害	100.0 (376)	<u>46.5</u>	43.4	30.9	29.5	31.6	34.8	5.1	23.9	3.7	
	平衡機能障害	100.0 (15)	33.3	66.7	46.7	33.3	53.3	53.3	6.7	13.3	-	
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (280)	26.4	38.6	40.0	26.1	35.0	42.1	4.6	24.6	1.4	
	肢体不自由(上肢)	100.0 (398)	25.4	54.0	24.1	32.4	40.2	46.2	5.5	23.1	2.0	
	肢体不自由(下肢)	100.0 (548)	23.7	57.8	25.4	30.5	37.4	47.1	4.4	20.6	1.6	
	肢体不自由(体幹)	100.0 (216)	25.9	62.5	23.1	35.6	44.9	46.3	4.2	19.9	3.7	
	肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (228)	35.1	62.3	29.8	40.4	45.6	49.1	6.6	15.4	4.4	
	内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸の機能の障害、免疫機能障害、肝臓)	100.0 (756)	18.9	37.0	18.1	19.7	38.6	48.9	5.3	26.9	1.5	
年 齢 階 級 別	29歳以下	100.0 (87)	44.8	<u>55.2</u>	37.9	49.4	47.1	52.9	4.6	13.8	2.3	
	30～39歳	100.0 (153)	34.6	<u>54.9</u>	23.5	35.3	41.8	50.3	2.6	18.3	3.9	
	40～49歳	100.0 (198)	37.4	48.0	28.8	32.8	42.4	<u>50.5</u>	4.5	15.7	2.5	
	50～59歳	100.0 (240)	33.3	52.1	26.7	34.6	41.3	<u>56.3</u>	6.7	15.0	2.5	
	60～69歳	100.0 (567)	27.0	<u>43.2</u>	23.3	23.6	35.3	40.2	6.7	26.3	1.1	
	70～79歳	100.0 (804)	23.5	<u>47.5</u>	24.6	25.9	35.0	42.3	4.4	24.6	2.1	
	80歳以上	100.0 (610)	23.8	<u>47.2</u>	23.6	24.1	32.6	36.7	3.3	30.8	3.9	
	(再掲) 65歳以上	100.0 (1,729)	23.5	46.4	23.5	24.3	33.1	39.0	4.7	28.2	2.5	

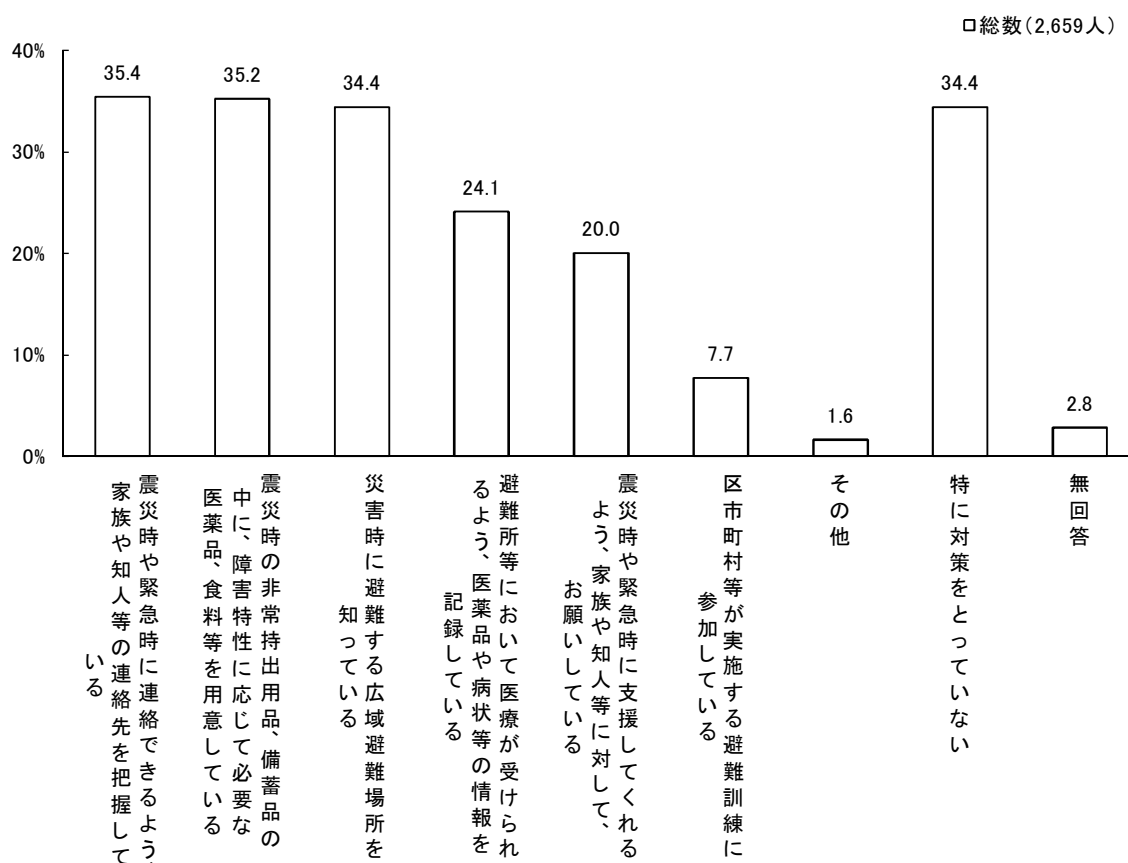
(3) 震災に備えて、障害特性に応じた特別な対策をとっているか〔複数回答〕

「震災時や緊急時に連絡できるよう、家族や知人等の連絡先を把握している」割合が最も高く 35.4%であるが、「特に対策をとっていない」割合も 34.4%にのぼる

震災に備えて、障害特性に応じた特別な対策をとっているか聞いたところ、「震災時や緊急時に連絡できるよう、家族や知人等の連絡先を把握している」が 35.4%と最も高く、次いで「震災時の非常持出用品、備蓄品の中に、障害特性に応じて必要な医薬品、食料等を用意している」が 35.2%であった。一方で、「特に対策をとっていない」の割合も 34.4%となっている。(図Ⅱ-12-2)

問 あなたは、震災に備えて、障害特性に応じた特別な対策をとっていますか。

図Ⅱ-12-2 震災に備えて、障害特性に応じた特別な対策をとっているか〔複数回答〕



(4) 震災に備えて、障害特性に応じた特別な対策をとっているか〔複数回答〕

－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

震災に備えて、障害特性に応じた特別な対策をとっているかを障害名別にみると、内部障害では「震災時の非常持出用品、備蓄品の中に、障害特性に応じて必要な医薬品、食料等を用意している」の割合が43.1%と他の障害と比較して高くなっている。

年齢階級別にみると、「避難所等において医療が受けられるよう、医薬品や病状等の情報を記録している」の割合は60代で28.6%と、総数(24.1%)に比べて高くなっている。(表Ⅱ-12-2)

表Ⅱ-12-2 震災に備えて、障害特性に応じた特別な対策をとっているか〔複数回答〕

－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

	総数	医薬品、障害特性等を用意している	震災時の非常持出用品、備蓄品の	記録している	避難所等において医療が受けられる	家族や知人等の連絡先を把握している	震災時や緊急時に連絡できる	おおよしい家族や知人等に支援してくれる	震災時や緊急時に避難する広域避難場所を知っている	災害時に避難する広域避難場所を	参加している	区市町村等が実施する避難訓練に	その他	特に対策をとっていない	無回答
総数	100.0 (2,659)	35.2	24.1	35.4	20.0	34.4	7.7	1.6	34.4	2.8					
身体障害者手帳の障害名別	視覚障害	100.0 (403)	33.0	20.8	33.3	20.6	30.0	6.9	2.5	34.5	3.7				
	聴覚障害	100.0 (376)	31.9	18.1	36.7	20.7	33.0	9.0	2.4	34.3	2.9				
	平衡機能障害	100.0 (15)	33.3	26.7	53.3	33.3	40.0	—	—	40.0	—				
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (280)	32.1	20.7	33.2	20.0	35.4	5.7	0.4	37.9	1.4				
	肢体不自由(上肢)	100.0 (398)	33.4	24.1	35.4	21.1	30.7	5.5	2.0	37.2	2.5				
	肢体不自由(下肢)	100.0 (548)	31.6	21.5	35.0	20.4	32.8	6.2	1.3	38.7	2.6				
	肢体不自由(体幹)	100.0 (216)	32.4	22.2	35.2	22.2	30.1	5.1	2.8	37.0	4.2				
	肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (228)	36.0	20.2	32.9	15.8	35.1	4.8	3.1	32.5	5.3				
	内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸の機能の障害、免疫機能障害、肝臓)	100.0 (756)	43.1	35.2	38.9	21.2	39.0	9.9	0.9	29.2	1.5				
年齢階級別	29歳以下	100.0 (87)	31.0	20.7	36.8	18.4	33.3	8.0	3.4	29.9	1.1				
	30～39歳	100.0 (153)	36.6	18.3	38.6	20.3	36.6	5.2	2.0	30.1	4.6				
	40～49歳	100.0 (198)	32.3	23.7	38.4	19.2	32.8	5.1	3.0	32.8	2.0				
	50～59歳	100.0 (240)	30.8	22.1	35.0	15.8	32.9	4.2	2.1	33.8	4.2				
	60～69歳	100.0 (567)	35.6	28.6	37.2	18.3	37.2	10.1	0.9	33.5	1.6				
	70～79歳	100.0 (804)	36.9	23.4	35.7	21.5	37.1	9.5	0.9	34.8	2.7				
	80歳以上	100.0 (610)	35.2	23.6	31.3	21.8	29.2	6.1	2.3	37.0	3.4				
	(再掲) 65歳以上	100.0 (1,729)	36.4	25.1	34.6	21.2	34.3	8.7	1.4	35.0	2.7				